



JAPAN HERITAGE

日本遺産

土堂小の研究

研究主題

主体的に学ぶ子どもを育成する教育の創造

かわり代をのばす課題発見・解決学習のための授業づくりと学ぶ習慣づくりを通して

広島県教育委員会指定「学びの革新パイロット校」
平成二十八年年度 尾道市教科・課題別研究指定校
（3）ミニユニティ・スクール

尾道市立土堂小学校

平成二十八年十一月十四日(月)
主催 尾道市教育委員会
後援 尾道市立土堂小学校
広島県教育委員会

ごあいさつ

土堂っ子太鼓の音が、今朝も尾道の町に響き渡っています。

本日、全国各地から多くの先生方のご参加をいただき、このように盛大に教育研究会を開催できますことに心から感謝申し上げます。

本校は、平成17年度にコミュニティ・スクールの指定を受け、以来、地域とともに歩む学校として、学校運営協議会から示されたミッションステートメントの達成を目指し、教育活動の充実を図ってまいりました。本年度は、①基礎・基本を大切にし、確かな学力と健やかな心身を育む学校 ②学ぶ力、遊ぶ力、伝える力、受容する力を育む学校 ③尾道への郷土愛を高める学校 ④地域と保護者が共に育て支える学校-土堂小学校の教育への理解を深め、地域や保護者同士の交流を促進する-の4つを目指す学校像として、日々取り組んでまいりました。

また、広島県教育委員会から2年目となる「学びの変革」パイロット校の指定、尾道市教育委員会から「教科・課題別研究指定校」の指定を受け、主体的に学ぶ子どもを育成するための教育の創造に取り組んでまいりました。

特に今年度は、全教科、領域を通じて資質・能力を育成するための単元開発・改善に努めてまいりました。じっくり考え、進んで話す子どもたちの姿から確実に成果を実感しているところです。

本日、これらの実践の一端を発表いたしますが、私たちの取組は試行錯誤の繰り返しで、日々模索しながら歩んでいるところです。皆様から御指導、御助言をいただき、さらなる改善、発展に向け、一層の努力を重ねてまいります。

終わりにになりましたが、本校の研究推進に温かい御指導、御支援をいただきました多くの先生方に心から感謝を申し上げ、あいさつといたします。

平成28年11月14日

尾道市立土堂小学校

校長 佐々木 智彦

目 次

I	平成 28 年度土堂小学校スクールプラン	1
II	教育研究計画	
1	研究構想	2
2	研究の概要	3
3	指導・助言者	5
4	研究計画	
III	実践のまとめ	
1	国語科	6
2	算数科	18
3	特別支援教育	28
IV	基礎・基本定着のための取組	
1	モジュール授業の原理	32
2	モジュール授業の内容	
3	モジュール授業の学習目標	33
4	モジュール学年系統表	
V	研究の結果と考察（中間）	
1	「基礎・基本」定着状況調査	35
2	全国学力・学習状況調査	36
3	質問紙調査	37
VI	研究のまとめ（中間）	
1	成果	39
2	課題と今後に向けて	
VII	日 程	40
	会場案内図	42
VIII	全体会	
	開会行事	43
	実践報告	44
	分科会・講評	45
	講演	46
	閉会挨拶	48

IX 公開授業 I

モジュール授業

第1学年	50
第2学年	51
第3学年	52
第4学年	53
第6学年・特別支援学級(知的)	54
特別支援学級(情緒)	55

総合的な学習の時間

第5学年「空き家問題 アクション・プラン」	56
-----------------------	----

X 公開授業 II

国語科

第1学年「おはなしのすきなところを見つけよう」	60
第2学年「むかし話の紙しばいをせいこうさせよう」	63
第3学年「音読で感動を伝えよう！～斎藤隆介の世界～」	66
第4学年「くらしの中の和と洋ブックを作ろう！」	69
第6学年「尾道幸福論-尾道の未来の町づくりを考えよう-」	72

算数科

第1学年「けいさんのしかたを見つけてひきざん『はかせ』になろう」	75
第2学年「かけ算(3)を見つけよう 九九のひみつ」	79
第3学年「コンパスを使って宝の地図で発見！」	82
第4学年「どんな形でもできるかな？面積を比かくしよう！」	85

特別支援教育

特別支援学級(知的)「詩人になろう」	89
特別支援学級(情緒)「マイストーリーを作ろう！」	95

総合的な学習の時間

第5学年「空き家問題 アクション・プラン」(P56 参照)	
-------------------------------	--

平成28年度 御指導いただいた先生方・研究同人

I 平成28年度 土堂小学校スクールプラン

夢と志を抱きグローバル社会を生き抜く子どもの育成

平成28年度 コミュニティ・スクール 土堂小学校スクールプラン

広島県教委指定 「学びの変革」パイロット校

学校教育目標

**志を持ち未来を拓く子どもの育成
「自ら学ぶ」**



ミッションステートメント (学校運営協議会)

- 1 基礎・基本を大切にし、確かな学力と健やかな心身を育む学校
 - 2 学ぶ力、遊ぶ力、伝える力、受容する力を育む学校
 - 3 尾道への郷土愛を高める学校
 - 4 地域と保護者が共に育て支える学校
- 土堂小学校の教育への理解を深め、地域や保護者同士の交流を促進する-

スクールミッション (尾道市教育委員会)

コンピテンシーの育成につながる「課題発見・解決学習」の単元開発による児童の主体的な学びの創造と発信
グローバル社会を生き抜く力を育成するこれからの小学校教育の創造

知

「自ら学ぶ子」

- 学びのための習慣づくりと基礎・基本の定着
 - ・ 個に応じた指導
 - ・ モジュール授業
 - ・ 検定試験への挑戦
 - ・ 家庭学習の定着
- 主体的な学習の構築
 - ・ 課題発見・解決学習の充実
 - ・ 作品募集への積極的応募
- 尾道への郷土愛の育成
 - ・ 「総合的な学習の時間」におけるカリキュラム開発

徳

「思いやりのある子」

- 「土堂っ子太鼓」の継承
- マナーの定着と奉仕の精神の涵養
 - ・ あいさつの励行
 - ・ 主体的な清掃活動
- 道徳実践力の向上
 - ・ 道徳授業の充実
 - ・ 道徳的環境の整備
- 読書活動の充実
 - ・ 朝読書
 - ・ 推薦指定図書を読破
 - ・ 委員会活動の活性化

体

「根気よくやりぬくたくましい子」

- 体力の向上
 - ・ 体育授業における運動量の確保
- 保健・安全指導の充実
- 保健・安全管理の徹底
- 食育の充実

体験的な学習・異学年交流の推進 語彙力の向上

教育のプロとしての自覚と誇りをもつ教師

- ・ 「出会い」「きっかけ」「体験」を大切にする教師
- ・ 言葉を大切にする教師 ・ 傾聴できる教師

家庭・地域との連携

- ・ 学校評議員との連携 ・ 積極的な情報公開・発信
- ・ 地域行事への積極的な参加

II 教育研究計画

1 研究構想



2 研究の概要

(1) 研究主題

主体的に学ぶ子どもを育成する教育の創造

－かかわりで個を伸ばす課題発見・解決学習の授業づくりと学ぶ習慣づくりを通して－

* 「学びの変革」パイロット校事業

(2) 研究仮説

基礎的・基本的な学習習慣の定着を図り、国語科・算数科，総合的な学習の時間において，課題発見・解決学習のための授業づくりを行うことで，仲間と協働して，主体的に学ぶ児童を育成することができるであろう。

(3) 主題の設定理由

21世紀はグローバル化が一層進み，多様な価値観，自分とは異なる文化や習慣に根付いた人々と，正解のない課題や経験したことのない課題を解決していかなければならない「多文化共生」の時代へと向かっていく。このような時代を生きる子ども達は，自己を確立しつつ，他者を受容し，多様な価値観を持つ人々と共に思考したり，協力・協働したりしながら課題を解決することで，新たな価値を生み出し，社会に貢献していくことがより一層求められていく。

そのため，一人一人が他者の考えや意見を受容したり，尊重したりしながら，よりよい考えや価値を生み出していくための思考力・判断力・表現力を育てていく必要がある。つまり，一人一人の「自分とは異なる他者を認識し，理解する」「他者認識を通して自己の存在を見つめ，思考する」「他者との協調，協働を図りながら新たな価値を生み出す」といった能力を高めていく必要があると考える。

本校では，これまで，思考力・表現力を高めるため，『思考の形成』『自己モニターの機能』『他者視点の取得』を関連付けるためのシンキングマップを活用した授業づくりを行い，児童一人一人が事実をもとに課題に対する理由付けをもとに考えを比較・分類・関連付け，児童の思考を深めていく授業の創造に努めてきた。これにより，児童は他者とかかわり合いながら学ぶことの楽しさを味わうとともに，他者の発言を聞き，自分なりの考えや意見を述べる姿が増えてきた。また，モジュール授業などで，学習を支える基礎的・基本的な言語の力などを高めることができた。今年度は，「知識構成型ジグソー法や「しんか」シート等」を取り入れ，児童の主体的で協働的な学びを育てていきたい。

平成27年度は，教科部会ごとに単元を開発し実践したが，単元の成果と課題について学校全体として十分な評価，検証ができたとは言いがたい。また，開発した単元を実施したことによって，単元の目標や重点化した資質・能力を組織的，計画的に検証する体勢が十分とは言えない。そこで，平成28年度は，昨年度開発した単元をさらに改善を加えるとともに，PDCA 検証部会を設け，学校全体としての研究の方向性を共有しながら，PDCA サイクルに基づいた単元ごとの検証と改善を行い，単元の質の向上を図る。また，開発した単元が今後数年間は継続的に実施できるよう，パイロット教員と研究主任等が中心となって，年間指導計画の作成や教材等の共有化を推進する。

(4) 研究のねらい

- 思考力・表現力を育成する。
- 主体的・協働的に学ぶ児童を育成する。
- 基礎的・基本的な力を付け，基礎的な知識の定着を図る。

(5) 研究内容 (研究の方向)

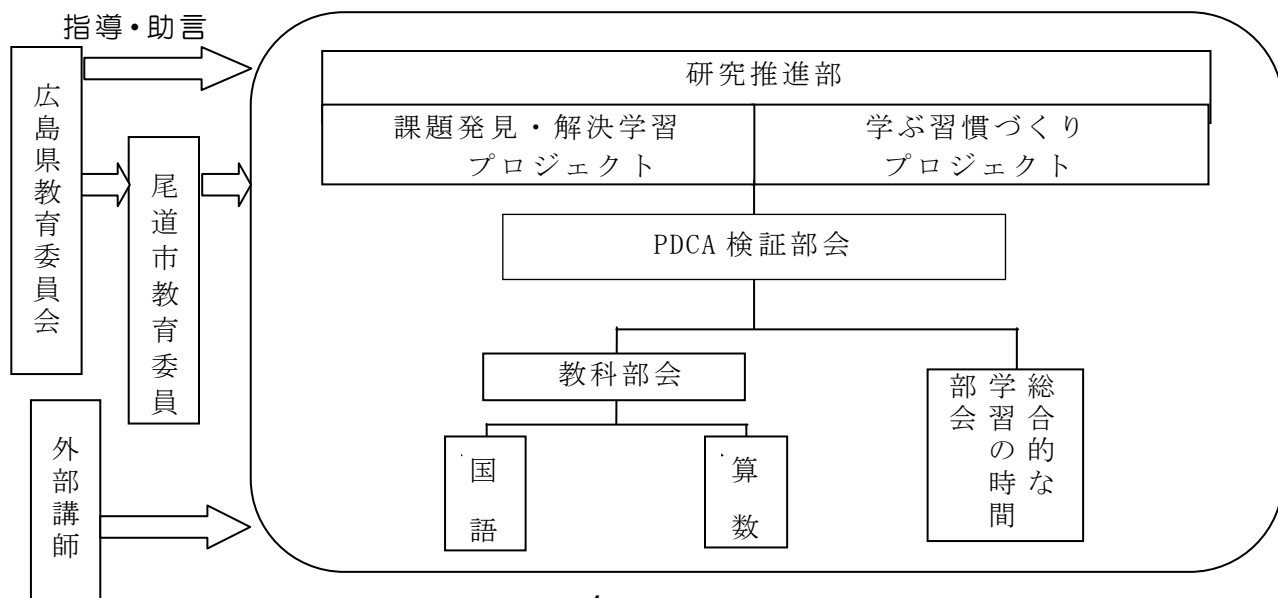
- 「思考の形成」「他者視点の取得」「自己モニターの機能」を関連付けた授業づくりを通して、思考力・表現力を育成する。
- 児童の学習意欲を高める単元計画の工夫や課題設定の工夫を行い、主体的に学ぶ児童を育成する。
- 基礎的・基本的な力を付けたり、意欲を高めるためのモジュール授業の工夫を行ったりして、基礎的な知識の定着を図る。
- PDCA 検証部会を設け、学校全体としての研究の方向性を共有しながら、PDCA サイクルに基づいた単元ごとの検証と改善を行い、単元の質の向上を図る。

視点	概要	方法
思考の形成	「事実」「論拠(主張)」「理由付け」を整理し、理由付けをもとに論を組み立てたり、新たな学びを構築したりする。	○『理由付けを表現する言葉』の活用
他者視点の取得	観察したり推測したりした他者の気持ち・考え・立場を推し量る。	○ 他者とのかかわり合いを意識した共同学習や学習形態の工夫
自己モニターの機能	自分の行動や思考方法そのものを自分で反省・振り返り・修正する。	○ 自分の学びや思考、学び方そのものを見つめ直す振り返りの場の設定

(6) 検証の指標及び到達目標

成果指標 *本県の指標を参考にすること	指標	達成目標	検証時期	検証方法
	「基礎・基本」定着状況調査における通過率	県平均 + 1 2	平成 28 年 6 月 平成 29 年 2 月	「基礎・基本」定着状況調査問題を利用
	全国学力・学習状況調査における正答率	全国平均 + 1 5	平成 28 年 4 月 平成 29 年 2 月	全国学力・学習状況調査問題を利用
	「基礎・基本」定着状況調査等の質問紙調査の肯定率	県平均 + 3	平成 28 年 6 月 平成 29 年 2 月	「基礎・基本」定着状況調査問題を利用

(7) 研究組織



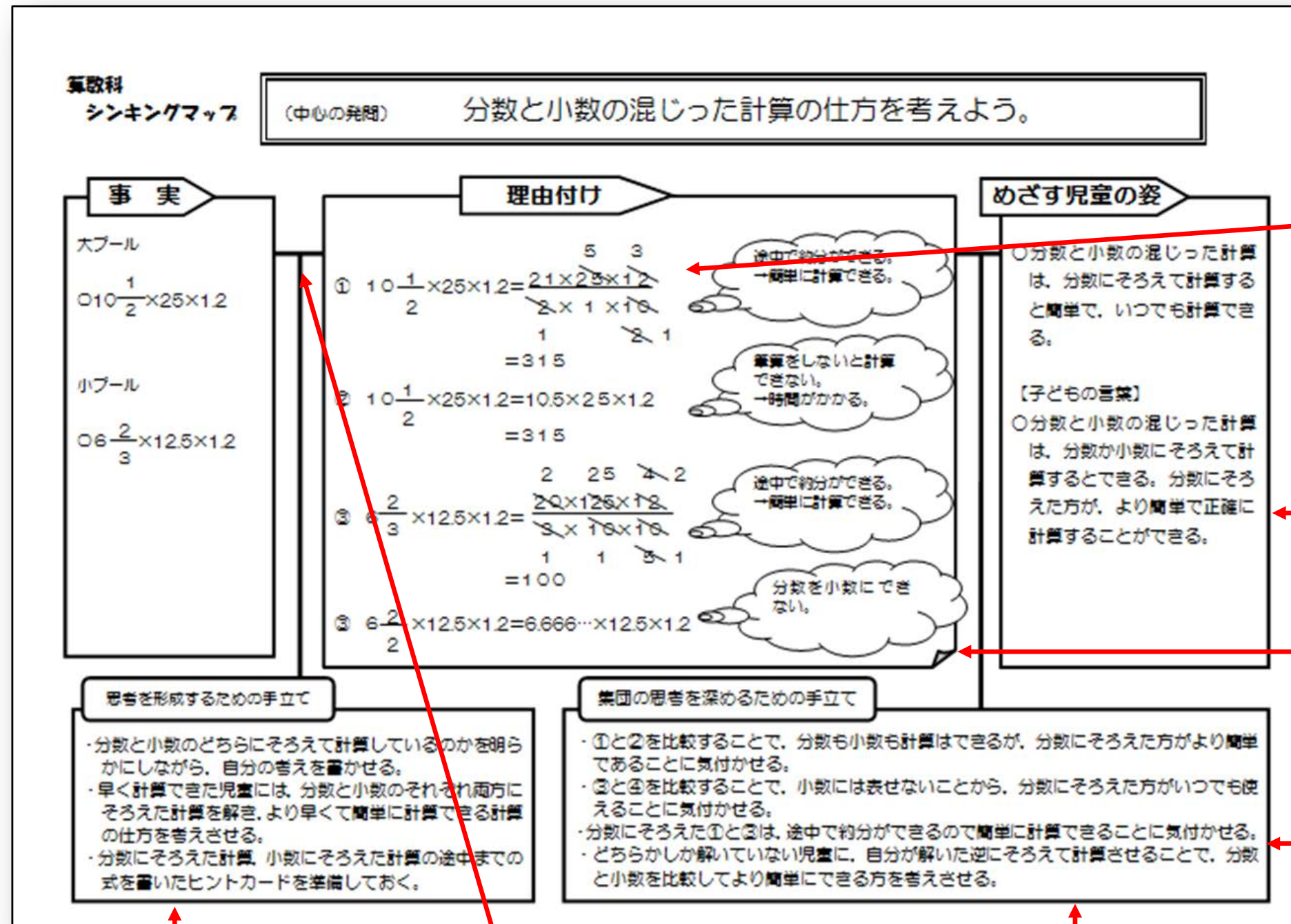
3 指導・助言者

氏名	所属・職名等	備考
林 武広	比治山大学・教授	
河野 智文	福岡教育大学 国語教育講座・教授	
岩田 耕司	福岡教育大学 数学教育講座・准教授	
升谷 英子	広島県東部教育事務所・指導主事	
神鳥 裕史	広島県東部教育事務所・指導主事	
西谷 由季子	広島県東部教育事務所・指導主事	
山口 晴子	尾道市教育委員会・指導主事	
佐藤 喜昭	広島県立尾道特別支援学校・教育相談主任	

4 研究計画

月 日	研 修 内 容	講 師
4	4日(月) 研究構想について モジュール授業について	
	14日(木) 授業研究(指導案, 研究の取組)	
	19日(火) 全国学力・学習状況調査	
5	2日(月) 授業研究(モジュール1組)	
	6日(金) 授業研究(モジュール2組) 協議会(モジュール)	
	27日(金) 授業研究①国語科(4-1, 5-1)	
6	3日(金) 授業研究②算数科(2-1.3-1)	
	7日(火) 「基礎・基本」定着状況調査	
	9日(木) 授業研究③国語科(3-2, 6-1)	河野教授(福岡教育大学)
	17日(金) 授業研究④算数科(1-2)	
	23日(木) 授業研究⑤算数科(4-2, 6-1)	岩田准教授(福岡教育大学)
	30日(木) 授業研究⑥特別支援教育(たんぼぼ, さくら)	佐藤先生(尾道特別支援学校)
7	4日(月) 授業研究⑦国語科(1-1, 2-2)	
	14日(木) 1学期の成果と課題	
	22日(金) 学力テスト分析 教育研究会に向けて	
8	26日(金) 評価問題・実践のまとめ・研究会 指導案・モジュール指導案・道徳 指導案提出	
9	20日(火) 研究の成果と課題	
11	14日(月) 教育研究会	河野教授(福岡教育大学) 岩田准教授(福岡教育大学) 佐藤先生(尾道特別支援学校)
	17日(木) 教育研究会反省(部会)	
	22日(火) 教育研究会反省(全体)	
1	11日(水) 総合学力テスト	
	19日(木) 学力定着実態調査	
		6年目研(谷川)
2	3日(金) 全学年検証実施	
3	9日(木) 来年度研究について	

○「思考の形成」「他者視点の取得」「自己モニターの機能」を関連付けた土堂小シンキングマップ



【思考の形成】

- 「叙述・事実」「理由付け」の内容整理
- 既習事項・既習知識の明確化

【自己モニターの機能】

- 新しい学びを構築する。自分の考えを修正する。
- 目指す児童像を明確にし、自分の学びや思考、学び方そのものを見つめ直す振り返りの場の設定
(例) キーワードや友達の学びのよさを振り返りに書かせる。

【他者視点の取得】

- 他者とかかわり合わせるための考えの整理

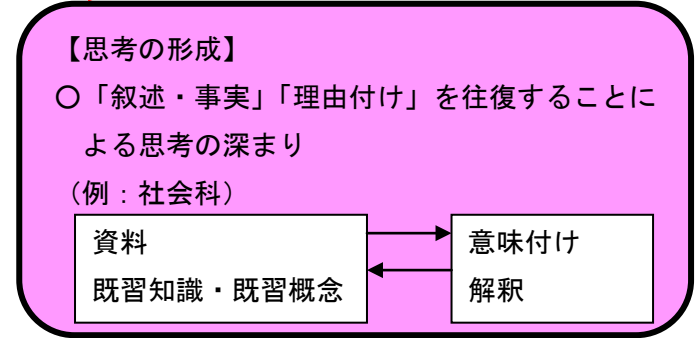
【思考の形成】

- 集団の思考を深めるために切り返しの発問やゆさぶりの発問をする。
- 思考のツールを活用する。
(例) 比較する
分類する
関係付ける
関連付ける
理由付ける
見通す
一般化する

□は対象

【思考の形成】

- 思考を形成するための個に応じた工夫
(例) ワークシートの活用
具体物・具体例の提示など
- 叙述・事実をもとに理由付けさせる。



【他者視点の取得】

- 他者とかかわり合いを意識した共同学習や学習形態の工夫を行う。

物語を創作し、おもしろさを発信!

国語

第1学年

尾道市立土堂小学校

指導者 島本 佳代子

単元名

「楽しんでくれるかな? ぼく・わたしの『おおきな かぶ』」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 自分の思いや考えを表現する言葉が多様にあることに気付き、習得し、表現しようとしている。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

(1) 児童の資質・能力の課題

本学級の児童は、ひらがなを学習し終え、少しずつ文字と音が合致し読み書きができるようになってきた。前単元の物語文の学習では、動作化を取り入れながら、登場人物の様子を想像しながら楽しく読みとることができた。しかし、叙述や挿絵を根拠として自分の意見をもつのではなく、自由な想像からでしか意見をもてない児童が9名、自分の考えが言葉にできずノートに書くことができない児童が3名いた。このような実態から、言葉によって感じたり想像したりする力や、感情や想像を言葉にする思考力・表現力に課題があると言える。

(2) 資質・能力を育成するための本単元のポイント

単元の冒頭では、平成17年度に実施された文部科学省「親と子の読書等に関する調査」より、小学生に、本を読むことが好きかどうか質問した調査結果を基に、問題を知ることから始める。約半数(46.5%)の児童しか「読書が好き」と感じていないことを伝え、クラスの実態とのずれを感じさせる。そこから、「来年小学生になる子たちに、自分たちの『おおきなかぶ』を創り、ブックトラックに入れておこう」という活動を設定し、課題を「どうすれば楽しんでもらえるお話になるのか」と設定した。

児童の実態から、さまざまな語彙に触れさせる環境作りをすることで、自分の考えと合致した言葉を選んで使うことができると考える。語彙表を掲示し、思考力・表現力の資質・能力を伸ばす手立てとする。そして、1年生のこの時期に文学的文章での学習において続き話を創るという単元を設定することで、低学年の「読むこと」の目標に迫りながら、中学年「C読むこと」の目標である「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付ける。」ことを見通した指導を行うことができると考え、本単元を設定した。

3 具体的な実践の場面

(1) かぶに込めたおじさんの願いや、できたかぶの様子を読み取る。(3/10)

「あまい あまい かぶに なれ。おおきな おおきな かぶに なれ。」というおじさんの文から、繰り返しと願いを込めた言葉に着目させた。

①繰り返しの効果

「あまい かぶに なれ。おおきな かぶに なれ。」と比較させ、気持ちの違いを読み取らせると、「繰り返しがあつた方が、絶対なつて欲しいと思っている。」「世界一甘くて大きいかぶになつて欲しいと思っている気持ちが分かる。」という意見が出た。

②「～なれ。」に込められた願いを読み取る

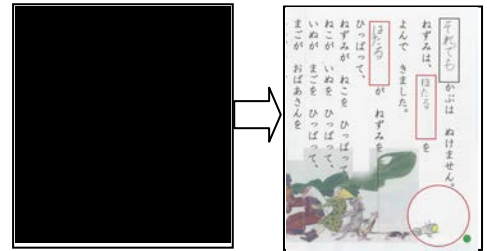
この部分をどのように読むかを考えさせた。繰り返しの効果から、強い願いがあることを理解した児童が、「強く読んだ方がいい。」という意見が出て、何度も音読をすることで共通理解を図った。

(2) 叙述や挿絵を基に、教材文の続き話を考える。(本時7/10)

①児童に何度も問い返し、自分の言葉で表現させる。

ねずみより小さいものを考えた児童を取り上げ、「〇〇さんがどうしてねずみよりも小さいありを考えたか、分かりますか。」と全体に問うた。すると、「だんだん小さくなっているから。」という意見が出た。

ここで「どういうことか、分かる人。」と切り返すことで、「階段になっているから。」「背の順並びの反対になっているから。」「(黒板の前で)坂道のようにになっているから。」と、同じ内容でも様々な表現があることに気付かせることができた。



②自分の意見を再考させる

初めはねずみよりも大きい人物を考えていた児童も、自分の「おおきなかぶ」の本に書くときには全員がねずみよりも小さい人物を書くことができていた。

4 教科の主な観点別評価の結果

【読むこと】について

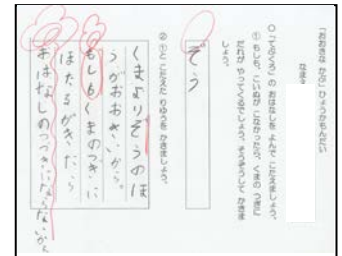
場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んでいる。(ワークシート)	児童の割合 91%
---	--------------

○「想像を広げながら読む」ことについて、以下のような評価問題を行った。

ウクライナ民話『てぶくろ』(内田莉沙子訳, エウゲーニ・M・ラチョフ絵)を読ませ、「もし小犬がこなかったら、熊の次にだれがやってくるでしょう。」と問うた。これは、本時で行った授業と同じねらいに基づいている。

「てぶくろ」では、①登場人物がだんだん大きくなっている②全て動物という規則性がある。この規則性を理解し、想像を広げて読めるかどうかを見取る問題を実施した。

結果は、①②の条件を満たした児童が100% (ぞう, ごりら等)であった。選んだものの理由として、「ごりらだったら、熊よりも大きいから。」と、登場人物の大きさに着目することができていた。また、「象じゃないと、お話の続きにならないから。」と、話の展開を考えているものも54%いた。

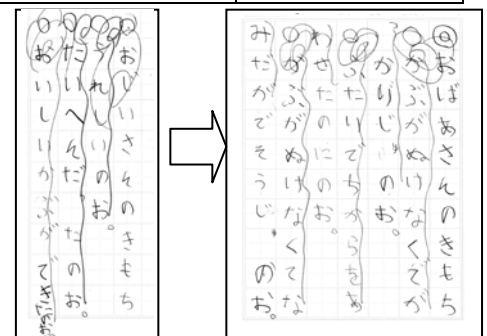


5 資質・能力の評価の結果

【思考力・表現力】について

自分の思いや考えを表現する言葉が多様にあることに気づき、習得し、表現しようとしている。(ノート)	児童の割合 79%
--	--------------

○登場人物の様子を読み取る際、大きなかぶができて「うれしい」、かぶが抜けて「悲しい」等、語彙が少なく、どんなに嬉しいのか、どう悲しいのか表現することが難しかった。そこで、語彙表を掲示することで、気持ちを表す表現が多様にあることに気付かせ、習得し、表現できるようになってきた。また、習得できている児童を取り上げることで、全体にも広げることができた。



6 考察(成果や課題の要因, 今後の単元の改善に向けて)

○単元の最後まで「来年の1年生のために、楽しいお話の続きにしたい。」という意欲を持続させることができた。これまで、お話は読む物であるという考えだったのが、自分で想像して創るという活動は児童にとって新鮮で興味深いものとなっていたようだった。

●本時において、児童の思考力を深めさせる発問「なぜ大きな人物ではいけないのか。」という問いができなかったことが課題として挙げられる。本時の授業では、話の展開から、ねずみよりも小さい生き物を選んでこないといけないという教師の強引な展開があったため、大きな人物を選んだ児童が納得するところまで進めることができなかった。「なぜか」「どうしてか」という発問を児童に返し、思考力の深まりを目指していきたい。

場面を捉え、紙芝居へ!

国語

第2学年

尾道市立土堂小学校

指導者 才谷 瑛一

単元名

「紙しばいを せいこうさせよう 『お手紙』」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 感性

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 叙述を手がかりに内容や大まかな展開を捉えている。

【感性】

- 読書を通して、知らないことを知ったり、経験のないことを体験したりして、読書の楽しさを感じている。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果によると、国語科では、「新聞のコラムを読んで、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成や表現の工夫を捉えることに課題がある。」という結果が明らかになった。また、読むことでは、「登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えることに課題があり、指導の充実が求められる。」という報告がされている。

また、本学級の児童の中には、長文の物語を読むことに抵抗を感じている児童もいる。長文を読むことへの抵抗感が強く、読書の楽しさを味わうまでは至っていないと考えられる。

そこで、児童が文章全体の構成を捉えたり、読書の楽しさを味わったりすることのできる資質・能力を育成するために、次の2点を工夫する。

- 「『お手紙』の紙芝居を成功させる」という目標を立て、人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えさせる。
- 物語を読み返したくなるような発問の工夫を行う。

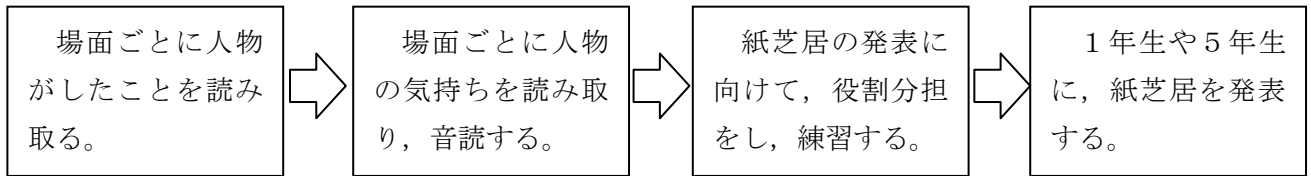
3 具体的な実践の場面

(1) 児童と単元を組み立てる場面

教材である「お手紙」を範読した後、感想を書かせた。その後、「みんなで紙芝居を作ってみよう。紙芝居を誰に見せたい。成功させるために、どんなことができるかな。」と問いかけた。すると、「場面に気を付けて読んだらいい。」という意見が出て、続いて「がまくんとかえるくんとかたつむりくんの気持ちを考えたらいい。」「どんな声で読むか考えたらいい。」「がんばりカードで毎日音読の練習をしたらいい。」などの意見が出た。児童自らが、学習したいことを提案することができた。

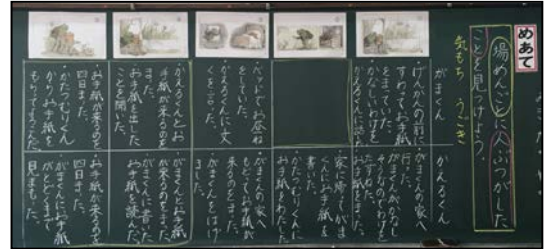
【単元の導入後の教室掲示】





(2) 「したこと」に着目させる, 「なぜだろう」と思う発問を行う。

第1場面から第5場面まで, がまくんとかえるくんのしたことを見付けさせた。がまくんとかえるくんのしたことを表に書き込ませることで, 児童は, 今まで読み切れていなかった場面の様子を改めて読み深めることができた。「かえるくんがお手紙を一緒に待っていたことが分かった。ぼくが, がまくんだったら, 感動して泣いてしまいます。」と授業後に振り返りを書いた児童がいた。この児童は, 単元前に「物語は長くて読むのが疲れるから, 好きではない。」と回答した児童だった。また, 「どうして, かえるくんまで不幸せなのかな。」や「かえるくんは, お手紙の内容を話すべきか. 話さないべきか。」と発問を行うことで, それぞれの立場に立ち, 活発な意見交換が行われた。「読めば読むほど, 新しいことが分かりました。お手紙は奥が深い話なんだと思いました。」と振り返る児童もいて, 教材文を度々読み返ししながら, 考えをつくる児童の姿が見られた。



4 教科の主な観点別評価の結果

【読むこと】について

場面の様子について, 登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んでいる。 (単元末テスト)	児童の割合 94.7%
--	----------------

5 資質・能力の評価の結果

【思考力・表現力】について

叙述を手がかりに内容や大まかな展開を捉えている。 (場面ごとの人物の気持ちを記述させる自作テスト)	児童の割合 100%
--	---------------

【感性】について

読書を通して, 知らないことを知ったり, 経験のないことを体験したりして, 読書の楽しさを感じている。(ノート)	100%の児童が「読書は楽しい」と回答した。 授業後の振り返りでは, 「わたしは, お手紙をあげるなんて考えたこともなかったから, 今度友達が困っていたら, 何かしてあげたいと思いました。」と振り返る児童がいた。
--	---

6 考察(成果や課題の要因, 今後の単元の改善に向けて)

- 「紙芝居を成功させる」という目標を立てたことにより, 単元が進むにつれ, 児童の学習に対する意欲が高まった。「読書は楽しい」と全員が回答した要因として, 「したこと」を表に書き出させる活動や叙述を読み返したくなるような発問をしたことにより, お手紙のおもしろさを読む度に感じる事ができたことがあげられる。
- 資質・能力の評価では, 単元後にシリーズの「ぼうし」という話を場面ごとに読ませて, がまくんとかえるくんの気持ちを想像して吹き出しに書かせた。全員が場面ごとの人物の気持ちを想像することができたが, この評価方法が叙述を手がかりに内容や大まかな展開を捉えることを見取る適切な方法であったかどうか, 検証の必要があると感じる。

しかけを使って、帯作成!

国語

第3学年

尾道市立土堂小学校

指導者 川嶋 佳那美

単元名

「三年二組ブックフェアを開こう！」

本単元で育成する資質・能力

課題発見・解決力

1 単元でめざす資質・能力

【課題発見・解決力】

- 本の帯を作るという目的に向けて、友達と話し合いながら叙述に着目して「しかけ」を見つけている。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

(1) 児童の資質・能力の課題

昨年度末に行った資質・能力に関する児童質問紙の結果、「授業では、解決しようとする課題について、なぜだろう、やってみたいと思います。」に課題が見られた。そこで、本単元でめざす資質・能力を「課題発見・解決力」とした。また、「本を読むことは好きですか。」という質問に対して85%の児童が好きと答えている実態も踏まえて、「課題発見・解決力」を育成するために、次のような工夫をする。

- 『三年二組ブックフェア』において、おすすめの物語の帯を書き紹介する」という目的に向かって、物語のしかけを意欲的に見つけさせる。
- 小グループで個人の考えを交流させることにより、自分とは異なる考えをもつ友達の意見を聞く場面を設定する。児童に叙述から根拠を探させることによって叙述にこだわりながら読ませる。

3 具体的な実践の場面

(1) プレブックフェアにより帯を作るコツを見つける場面 (6/10)

教材である「ウサギダイコン」を学習した後、「プレブックフェア」と題して「ウサギダイコン」の物語で本の帯を作成した。ブックフェアを開くに当たり、児童が身の周りから集めてきた帯を参考にしながら帯を完成させた後、互いの帯を評価し合わせるとともに、他学年の児童や先生方からも評価をしてもらった。すると、最も読者の関心を集める帯は、物語のしかけが書いているものであることが明らかとなり、物語のしかけを見つける必然性へとつながった。



(2) 学習したことをもとにして、他の物語におけるしかけを見つける場面（本時 8/10）

①小グループでの交流を通じて物語のしかけを見つけさせる。

小グループで話し合いながら物語のしかけを見つけさせることによって、友達の見聞を聞く際には叙述を読み返しながらしかけを見つけることができた。また、小グループをエキスパートグループと名付けることにより、積極的にしかけを見つける姿につながった。



②しかけがあることによる物語のおもしろさを語る。

物語のしかけは物語を読む上でのヒントであり、しかけがあることにより物語はよりおもしろくなる。そのおもしろさを感じさせるために、しかけと物語の展開との関連について語らせた。

4 教科の主な観点別評価の結果

【読むこと】について

物語全体の出来事の流れを確かめるとともに、語や表現に着目して、場面や物語を関連付け、物語のしかけを探しながら読んでいる。（ワークシート）	児童の割合 76%
--	--------------

5 資質・能力の評価の結果

【課題発見・解決力】について

本の帯を作るという目的に向けて、友達と話し合いながら叙述に着目して「しかけ」を見つけている。（ワークシート）	児童の割合 90%
--	--------------

6 考察（成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて）

- 「本の帯を作るために物語のしかけを見つける」という課題を設定し、児童と一緒に学習計画を立てたことにより、児童は課題を解決するために主体的に活動することができた。また、プレブックフェアを開催したことで、物語のしかけを見つける必然性をもたせることができた。
- プレブックフェアを早い段階で行えると、より早い段階から物語のしかけを見つける必然性も授業を進めることができた。
- 本の帯は読み手に関心をもたせるためにあるものなので、児童は帯に見付けたしかけを詳しく書くことはできなかった。物語の解説書作りを言語活動に設定すると、物語のしかけと展開を関連付けて、しかけがあることによる物語のおもしろさについても書くことができた。
- 人物に関するしかけは分かりやすく着目できる児童が多かったが、展開全体に関わるしかけに着目できる児童は少なかった。展開に関わるしかけに目を向けるための工夫が必要である。

心情の変化を読み取り，中心人物発見！

国語

第4学年

尾道市立土堂小学校

指導者 川本 美紀子

単元名

「中心人物は誰だ？中心人物になって手紙を書こう」

本単元で育成する資質・能力

課題発見・解決力

1 単元でめざす資質・能力

【課題発見・解決力】

- 学習問題に対する解決方法を考えている。
- 中心となる人物の気持ちの変化を読み取るために行った情報収集の方法や場面と場面とを関連付けて読んだ思考方法について振り返っている。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

(1) 児童の資質・能力についての課題

「自分の考えを書くことが好きか」という問いには、24名の児童が好きと答えた。しかし、「自分の考えを話すことができるか」という問いに対しては、10名の児童が苦手だと答えた。自分の考えを書くことはできても、それを話すことが十分でないといえる。児童のこのような意識を変えていくためには、自分の考えを書くだけでなく、話す場を多く仕組み、相手の反応に合わせてさらに、発言を付け加えたり、自分の考えを深めたりする活動を多く仕組むことが必要である。

表現力については、自分で読み取った内容と自分の経験や友達の考えを関連付けてまとめたり、表現したりすることに課題がある。

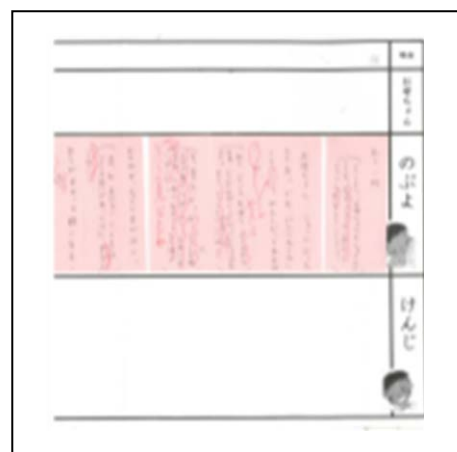
(2) 資質・能力を育成するための本単元のポイント

本単元において、児童に「中心人物になって手紙を書こう」という問いを投げかける。中心人物とはだれか解決するための方法を考えさせる。中心人物だけでなく、対人物の心情を追わせる中で、中心人物の気持ちの変化を読み取らせていく。中心となる人物の気持ちの変化とその理由を、叙述に基づいた自分の読み方や読みの根拠となる考えを交流して、課題発見・解決力（スキル）を育成することができると思う。

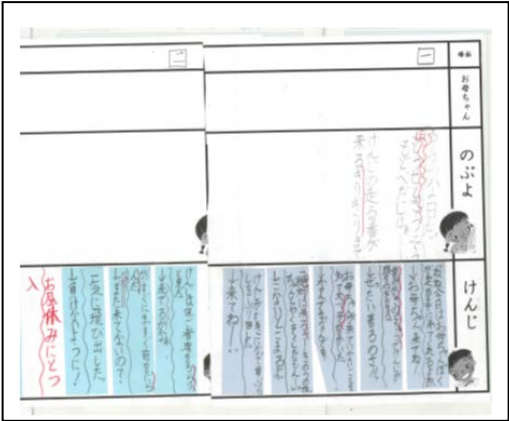
3 具体的な実践の場面

(1) 「のぶよ」「けんじ」グループに分かれて気持ちの変化を読み取る。

授業の始めに、中心人物とは、①気持ちが一番大きく変化する人物である、②物語全体で一番詳しく気持ちやその変化が描かれている人物であるとし、児童に考えさせた。初読の感想を書く際に、中心人物が「のぶよ」と答えた児童は54%、「けん



じ」と答えた児童は46%であった。児童は、「登場人物の気持ちを読み取っていけば、解決できそうだ。」と見通しを持ち、グループに分かれて読み取りを行った。児童は、会話文、行動、地の文を手がかりに読み取り、表にまとめた。表にまとめる際には、叙述をふせんに書き、その叙述から見えてくる人物の気持ちを付け加えていった。それぞれの人物についての表を比べることによって、心情の変化について交流することができた。



(2) 中心人物になって手紙を書く。

中心人物が誰なのか、小グループに分かれて登場人物の心情の変化を読み取って交流したため、「けんじ」グループであった児童も中心人物の心情の変化を読み取ることができた。手紙を書く際には、最初と最後の人物の心情を記述することができた。

4 教科の主な観点別評価の結果

【読むこと】について

叙述を基に、中心となる人物の気持ちの変化とその理由を想像して読んでいる。(単元末テスト)	児童の割合 100%
--	---------------

5 資質・能力の評価の結果

【課題発見・解決力】について

中心となる人物の気持ちの変化を読み取るために行った情報収集の方法や場面と場面とを関連付けて読んだ思考方法について振り返っている。(ノート、プリント)	児童の割合 100%
--	---------------

6 考察(成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて)

- 中心人物は誰かを考えることを通して、始めと終わりの登場人物の心情の変化に着目して物語全体を読むことができた。
- 「のぶよ」と「けんじ」のグループに分けて読み取らせたことで、対人物との関係にも着目することができた。
- それぞれの人物の心情をふせんに書いて表に整理させたので、心情の変化をとらえやすかった。
- 少人数のグループを作って活動させたが、話し合いでは、ルールを決めて進めていなかったため、話す児童、聞く児童が固定化される傾向があった。そのため、グループの話し合いでは、話す順番を決めたり、必ず話したいと思わせるしかけを作ったりする必要がある。



山場を捉えて創作！マイ物語

国語

第5学年

尾道市立土堂小学校

指導者 森口 結香

単元名

「世界でいちばん〇〇〇 ～マイ物語を作ろう～」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 物語の構成や場面の展開に即して人物の変化を読み取り、「マイ物語」を作っている。

【主体性・積極性】

- 叙述に基づいた自分の読み方や読みの根拠になる考えを交流している。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本学級の児童は、文章の一部分の叙述から人物の心情を読み取ることはできるが、文章全体を通して人物の心情の変化を読み取ることはまだ十分でない。また、標準学力調査の結果を見ると、「読む」「書く」領域ともに全国平均を上回っている。しかし、授業中や作文の宿題でも、構成を意識して自分の思いを書くことに課題が見られる。これは、構成を意識して提示された条件に合った文章を書く力が弱いからだと考えられる。

このような児童の実態から、導入では、教師の創作した物語（設定部分）を聞いて、自分も物語を書いてみたいという意欲を引き出したい。第二次では、物語の基本的な構成を知り、このことを意識して自分の物語の構成メモを書く活動を進めていく。その際、「展開」や「山場」の特徴を理由づけて発表し合う話し合い活動を仕組むことで、主体的な児童の姿を目指したい。

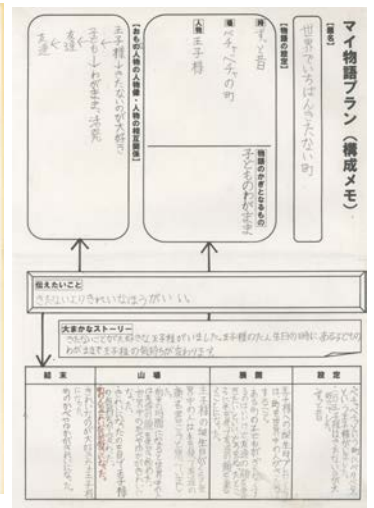
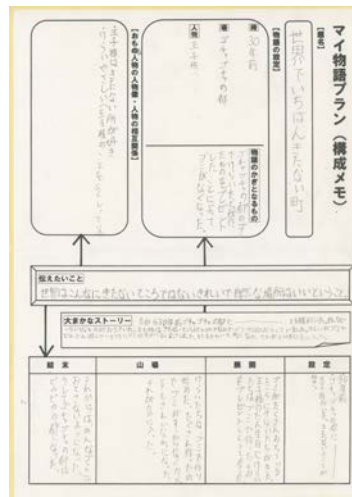
最も大きな変化がおこる「山場」の部分では、主人公の変容とその理由を教材文と教師の創作物語を比較しながら考えさせる。また、「設定」と「結末」を比べることで、町の人々の変化にも気付かせたい。「展開」の特徴を理由づけて発表し合う話し合い活動を仕組むことで、主体的な児童の姿を目指したい。第三次では、構成メモをもとに家庭学習と関連付けてマイ物語を書き進める。マイ物語を書くことにより、本を読む観点が確かになり、より意欲的に読書活動をすると考えられる。

3 具体的な実践の場面

(1) 「世界でいちばんやかましい音」を基に、教師の創作した物語の「山場」の構成とその役割について考え、「山場」に必要なポイントをつかませる。(本時5/7)

まず、教師の創作物語の「山場」の悪い例の展開を紹介した。前時までに教科書教材で学習した「設定」「展開」「山場」「結末」の役割をもとに、教師の創作物語の「山場」は、どのような展開が良いか自分の考えをグループで交流させた。

グループや全体での話し合いでは、読み比べの視点として、共通点や相違点、その理由を捉えさせた。話し合いの中で、この物語の場合、「山場」の場面には、町の様子・登場人物の変容とその理由が必要であるという意見にまとまった。話し合ったポイントを基に、「マイ物語プラン」の「山場」の場面を再思考した。次時では、「マイ物語プラン」で再思考した内容を意識して、「マイ物語」を創作させた。



(2) できあがった物語を2年生に読み聞かせにいく。(7/7)

できあがった物語を学級の友達同士で読み合わせ、良かった点等を交流した。また、後日ペアの2年生に読み聞かせにいった。2年生から「面白かったよ。」「楽しいお話だったよ。」と言われ、児童も「マイ物語」を作ってよかったと、自己肯定感が高まった。

4 教科の主な観点別評価の結果

【読むこと】について

物語の基本的な構成に沿って、人物相互の関係や心情の変化、場面の描写のおもしろさを意識して読んでいる。(単元末テスト)	児童の割合 90%
--	--------------

【書くこと】について

物語の構成を意識しながら場面と場面のつながりを考えて「マイ物語」を書いている。(作品)	児童の割合 100%
---	---------------

5 資質・能力の評価の結果

【思考力・表現力】について

教科書教材で学習したことを生かして、教師が創作した物語の「山場」を考える活動を行っている。(ワークシート)	児童の割合 90%
---	--------------

【主体性・積極性】について

授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思います。(質問紙・ノート)	100%の児童が肯定的に回答した。 振り返りでは、「作った物語を2年生だけではなく、他学年にも読み聞かせにいきたい」と答えるなどの変容が見られた。
---	--

6 考察(成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて)

- 単元を通して、「マイ物語」を作るために「教科書教材で物語の構成を学びたい」、「2年生のために面白い物語を完成させたい」という意欲を持続させることができた。「マイ物語プラン」を毎時間ごとに授業に合わせて進めていったことで、普段「書く」ことが難しい児童も意欲的に取り組むことができた。
- 本時の授業で、山場に必要ポイントを出させる際、本時のめあてが「展開を考える」となっていたので、具体案を出す児童や必要な構成をまとめて書く児童がいた。めあてに対するクラス全体の共通理解を初めにしっかりしておくべきだった。これから、話し合いをする前には視点をはっきりさせることで、より個人や集団の思考が深まると考える。

投書を学んで、新聞発行！

国語

第6学年

尾道市立土堂小学校

指導者 保森 智彦

単元名

「総合的な学習の時間のすばらしさを市民に伝えよう」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- より説得力のある新聞の投書を書くという目的に向けて必要な情報を精査・取捨選択する。

【主体性・積極性】

- 原稿を推敲したり説得力のある理由を選択したりする中で、言葉を通じて積極的に人と関わり自己表現する。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

昨年度末に行った資質・能力に関する児童質問紙の結果、「授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。」「授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。」に課題が見られた。そこで、本単元でめざす資質・能力を「思考力・表現力」「主体性・積極性」とした。

これらのめざす資質・能力を育成するためのポイントは次の2点である。

- (1) 昨年度、児童が作成して発行した新聞記事に対する多様な反応（肯定派、慎重派）を知らせることで、総合的な学習の時間のすばらしさが十分に伝わっていないのではないかという問題を発見させ、その問題を解決するために「総合的な学習の時間のすばらしさを伝えたい」という目的意識をもたせ、解決方法として国語の教科書で投書を学び、実際に地域の新聞への掲載を実行する。
- (2) 知識構成型ジグソー法や小グループ学習を積極的に導入し、小グループで互いにもっている知識を伝え合うことで、対等な関係における協同学習を促進し、個人思考の活性化を図る。



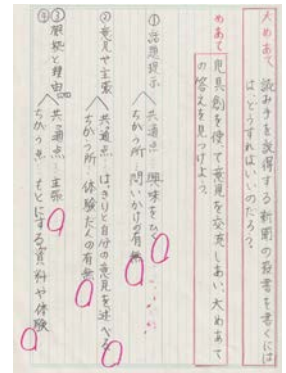
3 具体的な実践の場面

第1時では、前述の2(1)のように、昨年度の総合的な学習の時間の学習について「素晴らしい。」という肯定的な反応と「小学生には難しいのではないか。」という慎重派の反応の両方を児童に紹介した。すると、児童は慎重派の反応に対して次のような反論をした。「小学生が考えた案だから難しくないし、挑戦することが大事だ。」「自ら学ぶ力が付くので他の教科に生かせる。」などである。

次に、今後の方向性について問うたところ、児童は「空き家問題は難しいことや、総合的な学習の時間が素晴らしいという自分たちの主張を尾道市の人に伝えたい。」という意見で一致した。そこで、地元の新聞社と連携し、児童の主張を伝えるための手段として地元の新聞に投書を投稿することができることを児童に伝えると、児童は「おー！やってみたい！！」と歓声が上がった。ここで「どのような問題が起きるか」と発問し、考えさせたところ、児童からは新聞の投書が何か知らないことや投書の書き方が分からないことなどが挙げられた。こうしたプロセスを経て、学習課題「読み手を説得する新聞の投書を書くにはどうすればいいのだろう。」という大めあてを児童自ら発見した。そして、問題の解決方法を話し合い、解決方法の一つとして国語の教科書を使って投書と投書の書き方について学ぶことを確認し、その後自分で投書を書いて投稿するという大まかな学習計画を立案することができた。

第6時では、前述の2(2)のようにジグソー学習を取り入れ、教科書の4つの投書から説得の工夫を比較し、読み手を説得するための工夫をまとめる学習を行った。自分が納得した投書を1つ選び、説得の工夫を読み取った後、他の投書を選んだ友達とグループを作り、説得の工夫を交流し合わせ、大め

あての答えを導き出すという授業である。児童は、目的意識をもって取り組んでいたが、指導者が配付したワークシートに共通点と相違点を記すようメモ欄を設定していたため、これが学習者基点とは相反するものとなり、児童の思考の停滞を招いた。児童が交流した中から自由に説得の工夫を精査し合い、大めあての答えを発見できるようにすべきだった。したがって、ワークシートに改良の余地は十分にある。



4 教科の主な観点別評価の結果

【読むこと】について

投書の構成、理由づけの仕方や根拠の挙げ方に気を付けて読み、書き手の説得の工夫をとらえている。(ノート)	児童の割合 86.8%
---	----------------

【書くこと】について

自分の考えが読み手に伝わるように、構成を工夫し、理由を明確にして投書を書いている。(新聞の投書)	児童の割合 97.3%
--	----------------

5 資質・能力の評価の結果

【思考力・表現力】について

より説得力のある新聞の投書を書くという目的に向けて、そのために必要な情報を調べたり取捨選択したりする。(自校作成の資質・能力テスト)	児童の割合 81.0%
--	----------------

【主体性・積極性】について

原稿を推敲したり説得力のある理由を選択したりする際に言葉を通じて積極的に人と関わり自己表現する。(「基礎基本」定着状況調査児童質問紙 No.19)	児童の割合 94.7%
---	----------------

このほかに前述の質問紙で60%以上の児童が「よくあてはまる」と回答した項目がNo.13(課題発見と学習意欲)63.1%、No.15(主体的な情報収集)68.4%、No.21(解決策の実行)73.6%、No.23(次の学習への意欲)71.0%、No.25(協同による深まり)76.3%であった。これらは課題発見、情報収集、協同学習による分析、解決策の実行、振り返りの各段階で、児童が主体的・能動的に深く学んでいたことが分かる。すなわち、「課題発見・解決力」の向上も成果であると言える。

6 考察(成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて)

【主体性・積極性】について

- 1つ目は、単元前の課題であった「授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。」(単元前75.7%)は単元後では94.7%になり、「授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。」(単元前86.5%)は単元後では94.7%になったことである。これは、ジグソー学習などの小グループ学習を積極的に取り入れたことで、全体では発表しにくい児童も主体的に伝え合うことができたのではないかと考える。
- 2つ目は、単元の導入で総合的な学習の時間と関連付け、自分たちの意見を伝えたいという意欲をもたせたことは、児童の新聞の投書を書きたいという意欲を高め、投書の書き方を学んで投稿したいという実行まで見据えた課題発見・解決学習につながり、学習意欲が持続したと考える。

【思考力・表現力】について

- 複数の投書の見本や自分で書いた投書を読み比べる中で、説得の工夫や推敲する箇所を小グループ学習で話し合う場面を積極的に取り入れたことで、必要な情報を調べたり取捨選択したりする学習において個人思考を活性化させることができ、思考力・表現力を高めることができたのではないかと考える。
- 必要な情報を調べたり取捨選択したりすることが不十分な児童が約2割おり、それは小グループ学習で個人思考を十分に活性化できていなかったことが要因ではないかと考える。グループは原則3人としたが、場合によっては4人になるグループもあり、司会やまとめ役に任せてしまう児童もいた。したがって、今後は小グループ学習で役割を決め、順番で役割を変えるなど、個人思考が働く環境づくりを行いたい。

絵やブロックで、お話の場面をひき算に!

算数

第1学年

尾道市立土堂小学校

指導者 上田 千紘

単元名

「ひきさんマスターになろう」

本単元で育成する資質・能力

主体性・積極性

思考力・表現力

1 単元でめざす資質・能力

【主体性・積極性】

- 積極的にブロックを操作しながら、計算の仕方を考えようとしている。

【思考力・表現力】

- 問題場面を正確に捉える中で、解決方法を多様に考え、自分の考えを相手にわかりやすく伝えたり、減法の場面の話を作ったりすることができている。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本学級の児童の実態として、なかなか自分の考えや意見をもてない児童が多く、考えをもっているも集団解決の場で発表することに抵抗を感じている児童が多い。また、算数科に関するアンケートを行ったところ、約5分の1の児童が算数に苦手意識を持っていることが分かった。理由の中では、文章題が苦手だといった回答が多かった。計算問題では学級の中でも進むスピードに大きな差があり、個人差がとて大きいのが実態である。本学級の児童は初めて学ぶことに強い興味を示す児童が多いので、導入を躓くことがないようにし、単元全体を高い意欲をもってつなげていくことが大切であった。

ブロック操作や図を書くことについては、既習であるたしざん(1)から繰り返し何度も行っている。しかし、減法の場面では、手の動かし方や、矢印の向きが変わってくるので、単元全体を通してどのようにブロックを動かしたのかということについて特に注意しながらの指導が必要だと考えた。

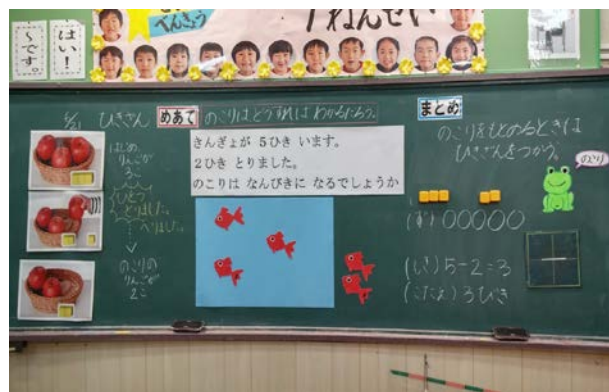
そこで、本単元で育成する資質・能力を「主体性・積極性」「思考力・表現力」として、次の2点を工夫する。

- 問題文を繰り返し読み、ブロック操作を繰り返し行い、考えの根拠をもてるようにする。
- ペアで意見を伝え合う機会を設け、自分の考えに自信をもって発表することができるようにする。

3 具体的な実践の場面

(1) 単元構成

単元の導入では、既習である加法と異なる場面であるということを押さえる必要があるため、繰り返し問題文を読む活動を取り入れた。具体物を用いて操作しながら問題文を読み考えることで、加法の問題文と具体的にどこが違うのかを感じ取らせること



ができた。その中で、具体物の操作と問題文との矛盾に気づき、児童の「自分だったら正確に具体物を動かせる」、「自分が説明したい」という気持ちをかき立て、普段、なかなか手があがりにくい児童も意欲的に発表しようとする姿勢を多く見ることができた。

第1次及び2次では、さまざまな減法の問題に触れ、ひき算を表す言葉を集めたり、0を用いた減法の計算の仕方を考えたりする活動を行った。文章問題を解く中で、文や絵から減法が適応できる場面だと予想し、実際にブロックを動かしながら計算をしていった。

減法の中でも求残・求差・求補の違いを取り上げ、感覚的ではあるもののそれぞれの違いを話し合う活動を取り入れた。そこで、児童はひき算言葉がなくてもひき算になることを知り、適応問題などを解いていく中で、減法の問題や計算に慣れるようにした。第3次では、教科書の中での問題だけではなく、自分で問題を作る活動を取り入れた。絵や実生活の中から減法の場面を見付け、問題を出し合う活動へとつなげた。

(2) ペア活動

これまでペアでの話し合い活動をあまりしてこなかったが、自分の考えをしっかりと持ち、相手に伝える活動を通して、自信を付けさせていきたいと考えたため、本単元ではペア活動を積極的に入れていった。どのようにブロックを操作したのかを理由を述べながら発表し合う活動の中で、自分とは異なる考えや似ている考えに出会い、減法についての理解を深めることも目的とした。

4 教科の主な観点別評価の結果

【数学的な考え方】について

身近な事象に対し、減法が適応できる場面かどうかを判断して、減法を用いて考えている。(自作テスト)	児童の割合 72%
--	--------------

5 資質・能力の評価の結果

【主体性・積極性】について

ブロックを操作し、問題文を理解してから、問題に取り組んでいる。(自作テスト)	児童の割合 88%
--	--------------

【思考力・表現力】について

自分の考えをもち、順序に気を付けながら進んで伝えることができている。(自作テスト)	児童の割合 76%
---	--------------

6 考察（成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて）

- ほぼ毎時間、既習の問題場面と違うところを問題文やブロック操作から確認していたので、意欲的に学習に取り組むことができた。次第に具体的にどこが違うのかを自然とペアで話し合うようになり、自信をもって自分の考えを伝えることができる児童が増えてきた。
- また、求残・求差・求補の区別も曖昧なままの児童も多く、加法・減法が混じっている問題やひき算を表す言葉がない場合だと混乱して、取り掛かることのできない児童もいるので、繰り返り下がり減法の中で、具体的な減法の場面についてしっかりと確認及び定着をしていく必要がある。単元全体を通して、減法が適応できる場面などを見つけ、学んだことや得た知識を日常生活で生かしていくことのできる活用力を、今後は授業の中で身につけさせるようにしていきたい。

長さを測って、写真立て完成!

算数

第2学年

尾道市立土堂小学校

指導者 舛上 敏成

単元名

「それ行け! 長さはかり隊」

本単元で育成する資質・能力

課題発見・解決力・主体性・積極性

1 単元でめざす資質・能力

【課題発見・解決力】

- 進んで身の回りのものの長さを比較・測定しようとしている。
- 解決方法の見通しを持っている。

【主体性・積極性】

- ものさしを用いて、身の回りの様々なものを測定しようとしている。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本学級の児童に算数科に関するアンケートを行ったところ、数人の児童が算数科の学習に苦手意識を持っていることが分かった。その理由として、「計算をするのが苦手」「問題を読むのが苦手」という回答があった。ものさしを用いて正確に長さを測ったりかいたりしようとする場合には、児童が、ものさしを測ろうとするもののはしにぴったり合わせることやものさしの目盛りを正確に読むこと、ものさしで直線を引くことなどにつまずくことが予想された。

そこで本単元では、ものさしを用いることや長さを正確に測ることに必然性のある課題を設定し、目的意識を持って学習できるようにした。また、ものさしを用いた長さの測定の仕方や直線の引き方についてペアで確認しながら活動する場を設けることで、その確実性を高められるようにした。

また、アンケートの結果、友達と話し合うことに抵抗感がある児童がいた。その理由として、「友達の話を聞くことが苦手」、「説明する時に間違えることが恥ずかしい」という回答があった。

そこで、単元を通して、長さを比較・測定する方法を全体で話し合う活動や長さの測り方やかき方をペアで説明し合ったり確かめたりする活動を設けた。その中で、自分や友達の考えを比較するよさや友達と確かめ合うよさに気付くことができるようにした。

3 具体的な実践の場面

(1) 単元のめあてを設定する場面

「じゃんけんゲーム」をする中で、テープの長さを比較する方法を考えさせた。まず、児童はテープの端を揃えて直接比較をした。「並べずに比べる方法はないかな。」と問うたところ、児童は、間接比較や任意単位のいくつ分で比較した。そこで、「それぞれの比べ方のよいところはどんなところだろう。」と問い、それらの方法のよさを比較させた。すると、「〇〇のいくつ分で比べると、他の物の長さもいくつ分で表せる。」、「数で表しているから分かりやすい。」などの意見が出てきた。そ

長さは、もどにする長さを 同じにして、その何こ分かであらわすと、数でくらべられます。

みんながつかえる もとになる長さはないのかな?

長さの たんい には、cm (センチメートル) があります。(1cm は、工作用紙 1目り分の 長さです。)

1cm

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

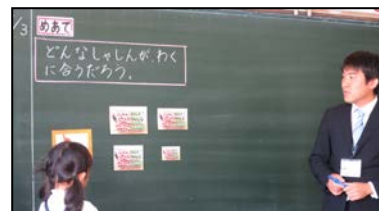
長さの たんい を、つかって、みの回りのものの 長さを あらわそう。

して、「みんなが使っているもとなる長さはあるかな。」と問うたところ、児童からc mやmm, m, k mなどの長さの単位が挙がった。長さを測定する方法やよさを話し合うことで、「数や単位を使って表すと誰にでも分かる」、「長さを測り、単位で表してみたい」という児童の関心や目的意識を持てるようにした。

(2) 生活場面で適用する場面

単元末には、写真を入れるフレームの縦と横の長さを提示し、4種類の写真の長さを測定し、フレームに入る写真はどれか考える学習活動をペアで行った。「この写真は、縦がフレームよりも5 mm長いから、フレームには入らないよ。」「縦・横のどちらの長さも、フレームに合う長さでないといけないよ。」と、既習や生活経験をもとに話し合っていた。

児童は、長さを正確に測定しようと、ものさしの使い方や目盛りの読み方を確かめて協力したり、その結果をもとに写真がフレームに合うかどうか相談したりして、課題解決をすることができた。



4 教科の主な観点別評価の結果

【数量や図形についての技能】について

ものさしを用いて、c m, mmを単位として測ることができるとともに、決まった長さの直線を引くことができている。(単元末テスト)	児童の割合 89.5%
--	----------------

【数量や図形についての知識・理解】について

長さを表す単位を知り、長さについて豊かな感覚をもつとともに、c mとmを用いればよいことを理解している。(単元末テスト)	児童の割合 96.8%
--	----------------

5 資質・能力の評価の結果

【課題発見・解決力】について

進んで課題を見つけることができるとともに、解決方法の見通しをもって解決している。(単元末アンケート)	児童の割合 84.2%
--	----------------

【主体性・積極性】について

ものさしを用いて、進んで身の回りのものの長さを測定しようとしている。(単元末テスト)	約94.7%の児童が肯定的に回答した。普段の生活でも、学習を生かしている児童が多かった。
--	--

6 考察(成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて)

- 単元の導入で、普遍単位を用いて長さを表すことの必要性に気付かせることで、児童は、単元の目的意識をもち学習できた。学習活動では、c m, mmといった普遍単位を用いて表す際には、ものさしを用いて正しく測定しようと測り直す姿やペアで長さを確かめ合う姿が見られた。
- ものさしを用いて長さを正確に測る技能はおおむね身に付いたが、決まった長さの直線を引く技能について課題がある児童が数人いる。ただ、ものさしの使い方を教えるのではなく、児童が決まった長さを引きたくなるような必要感のある学習活動を設定する必要がある。

時間を計算して、ディズニーへGO!

算数

第3学年

尾道市立土堂小学校

指導者 谷川 友弥

単元名

「ディズニーランドへ行こう! ~どのアトラクションに乗ろうかな~」

本単元で育成する資質・能力

課題発見・解決力

主体性・積極性

1 単元でめざす資質・能力

【課題発見・解決力】

- 友達と自分の考えを比較・関連させ、共通点や相違点を見つけている。

【主体性・積極性】

- 目的意識をもって学習に取り組み、自分ができるようになったことを振り返っている。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

平成27年度全国学力・学習状況調査の算数科では、本単元「時と時間」の設問の正答率は75%という結果であった。問題文の「おそくとも」という条件を捉えずに回答したことが誤答につながった可能性があるという報告がされている。

本学級の実態としては、児童は集団解決において考えと考えを比較したり、式と図を関連付けたりしながら説明することに抵抗を感じている。また、昨年度末に行った資質・能力に関する児童質問紙の結果では、「学習の振り返りをする時には、『もっと考えてみたいこと』、『もっと調べてみたいこと』、『もっと工夫してみたいこと』などを考えています。」の項目に課題が見られた。

そこで、本単元で育成する資質・能力を「課題発見・解決力」「主体性・積極性」として、次の2点を工夫する。

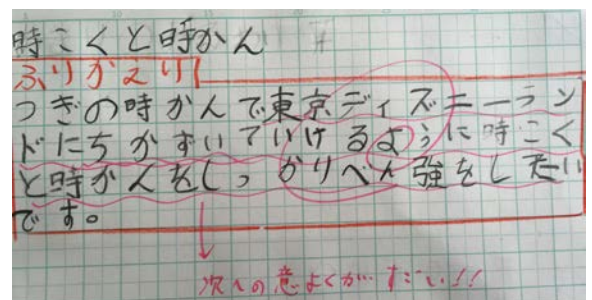
- ペアや班で意見を伝え合う機会を設け、友達の考えとの共通点や相違点などを、比較・関連させる。
- 「ディズニーランドへ行くための時間の計算」や「アトラクションに効率よく乗るための時間の計算をする」という活動からスタートし、うまく計算できない状況を体験させる。

3 具体的な実践の場面

(1) 単元の導入

【児童の振り返り】

単元の導入では、ディズニーランドの動画や各アトラクションの動画を見せ、児童が「ディズニーランドへ行きたい。」という思いをもてるようにした。そして、「班でディズニーランドへ行くための時間の計算」や「班でアトラクションに効率よく乗るための時間の計算をする」という活動に取り組みさせた。すると児童からは、「上手く計算できない。」や「友達と到着時刻がばらばらになってしまった。」などの声が挙がり、児童にうまく時間を計算したり、時刻を求めたりすることができな



いという状況を体験させることができた。そのことにより、児童が「時間や時刻を正確に求めたい」という思いをもつことができ、目的をもって単元の学習に取り組むきっかけにすることができた。

(2) 班行動を意識させることで、班の話し合いへ

「尾道駅からディズニーランドまで班で行くこと」や「ディズニーランド内では班行動すること」を最初に約束することで、児童に班全員で目的地まで行こうとする意識が芽生えた。すると、新尾道駅に到着する時刻を求めるなどの問題を解決する際に、自然と班の全員が同じ時刻に到着しているか確認しようとする動きが見られ、班で意見を交流する活動へスムーズに移ることができた。班で意見を交流する中で、「数直線図で考える」「時計図で考える」「筆算で考える」「1時間40分を1時間と40分に分けて考える」などの考え方があることに気づき、友達の考え方と比較し、共通点や相違点を見つけることへとつながっていった。



4 教科の主な観点別評価の結果

【数学的な考え方】について

遊ぶ計画を立てることを通して、時刻と時間の計算の仕方を活用し、アトラクションに乗る時間と移動時間を考える。(活用問題)	児童の割合 81.8%
---	----------------

5 資質・能力の評価の結果

【課題発見・解決力】について

友達と自分の考えを比較・関連させ、共通点や相違点を見つけている。(資質・能力に関する児童質問紙)	児童の割合 90.9%
--	----------------

【主体性・積極性】について

目的をもって学習に取り組み、自分ができるようになったことを振り返っている。(資質・能力に関する児童質問紙)	児童の割合 93.1%
---	----------------

6 考察(成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて)

- 「ディズニーランドへ行くための時間の計算」や「アトラクションに効率よく乗るための時間の計算をする」という目的をもつことで、単元を通して主体的に学習に取り組むことができた。また、常に班行動であることを意識させることで、班で話合う必然性も生まれ、相違点を見つけた児童の中には「ここを直せばうまくいくよ。」など、アドバイスをする姿も見られた。
- 限られた時間の中で移動時間も含めて3つのアトラクションに乗るという授業場面では、複数の条件下で児童自身が必要な情報を取捨選択することも求められた。班で活動するため、話し合いをリードしてくれる児童が現れる反面、条件を提示された中で、必要な情報を取捨選択する力を身に付けることができなかった児童もいるため、これからはそういった力も伸ばしていきたい。また、児童が提示された問題に意欲的に取り組むだけでなく、課題を解決するために、自らが必要な資料や情報を求めていくような主体性・積極性が育成できる単元作りや授業作りを行う必要がある。

四角形を使って、家建築！

算数

第4学年

尾道市立土堂小学校

指導者 亀本 拓朗

単元名

「家を建てる」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力・主体性・積極性

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 意見を交流する際に、友達の考えとの共通点や相違点などを比較・関連させている。
- 算数用語を用いて自分の考えを明確にして説明している。

【主体性・積極性】

- 友達の考えとの共通点や相違点などを比較・関連させて、自分の考えをまとめようとしている。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本学級の児童は、算数科の授業において、自分の考えに理由をつけて書こうとする児童が多いが、算数用語や式を用いて自分の考えを明確に書くことには課題が見られた。また、集団解決において、友達と考えを積極的に交流しようとする姿がある一方、考えを比較・関連させようとする児童は少なかった。そこで、本単元を構想する際に留意したことが2点ある。

1 点目は、1時間の授業に「自分の考えを書く場」「友達と考えを交流する場」「自問自答する場」を位置づけたことである。「自問自答する場」では、誰のどのような意見に納得したのか根拠を明確にして書かせることにより、話し合いで得た情報と自分の考えを比較・関連させることを促した。また、「表現→話し合い→表現」と活動の最後に必ず表現する場を設けることで、「自分の考えを洗練するために話し合う」という目的意識を持たせるようにした。

2 点目は、考える視点を明示的に指導することである。前学年までの学習により、児童は「辺」「頂点」「角」について調べるといった視点を獲得している。本単元は、これらに加えて「平行」「垂直」という新たな視点を獲得していく単元である。そのため、児童が図形を新しい視点で調べた場合は、全体の場で取り上げ、新たな視点として示すようにした。また、図形を考察する前には、児童自身が既にもっている視点を想起させてから調べさせるようにした。これらの明示的な指導を、単元を通して行うようにした。

3 具体的な実践の場面

(1) 単元の導入

単元の1時間目では、家の外観や内部の写真を数枚提示し、家を建てることを単元の目標として示した。そこで、家にはどのような図形が多く使われているかということについて写真の観察を通して考えさせた。「四角」「長方形」「正方形」「丸」などの意見が出た。その後、最も多く家に使われている図形は何かを問い、四角形が多いことを予想させ、校舎内から四角形を



見つけて写真に収める活動を行った。長方形や正方形を見つける児童が多かったが、平行四辺形や台形、角が丸まった形を見つけて「先生、これも四角形ですか。」と質問に来る児童もいた。この活動で収集した四角形を用いて、単元前半は授業を進めていった。

(2) 図形の包摂関係に向かう場面

台形の定義について学んだ授業の終末に、台形を弁別する適用題を行った。その選択肢の中に、1つだけ平行四辺形を入れておいた。すると、平行四辺形が台形の仲間に入るか入らないかという点で意見が分かれた。本時はそこで終わり、次時に理由を聞いてみると、どちらの立場も「台形は1組の辺が平行な形だが、あの四角形は2組の辺が平行だ。」という理由だった。全員に2組の辺が平行であることを確かめさせた後に、平行四辺形も台形の仲間と言ってよいことを指導した。すると、1人の児童が「だったら、長方形と正方形も台形の仲間になるのですか。」と質問した。この質問にはすぐに答えず、全員に質問の意味について考えさせた。ここから、図形の包摂関係について考える流れが生まれた。



4 教科の主な観点別評価の結果

【数学的な考え方】について

身近な生活場面の中に平行四辺形を見出し、その性質を用いて、示された道のりと同じ長さになる道程を選んでいる。(活用問題)	児童の割合 74.1%
---	----------------

5 資質・能力の評価の結果

【思考力】について

授業では、情報を比べたり、仲間分けしたり、関係を見付けたりして、何が分かるのかを考えています。(資質・能力に関する児童質問紙)	児童の割合 96.3%
---	----------------

【主体性・積極性】について

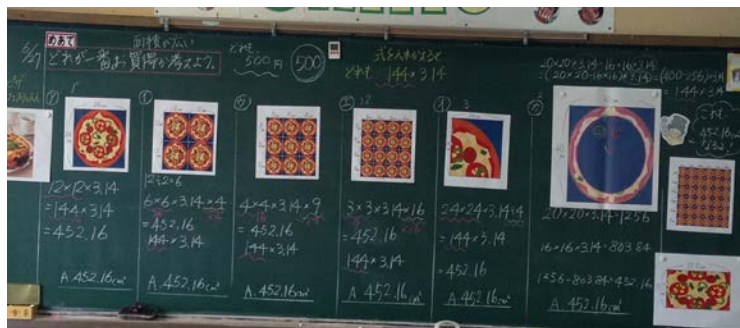
授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めあり、広げたりしています。(資質・能力に関する児童質問紙)	児童の割合 96.3%
--	----------------

6 考察(成果や課題の要因, 今後の単元の改善に向けて)

- 児童が新たに獲得した視点を明示的に指導することで、問題を解決する場面において、これまでに獲得した視点を想起しようとする児童が増えた。また、教師が想定していた視点で考える児童だけでなく、「切って他の図形になるか調べる」という等積変形につながる考えをもつ児童もおり、面積につながる考え方についても指導することができた。今後も、児童の発言や記述を細かく観察し、その良さについて価値付け、学級全体へと広げていきたい。
- 本単元では、家を建てるためにいろいろな四角形の定義や性質について学ぶという文脈で単元を進めることで、単に知識を暗記させるのではなく、「いつ、なぜ使うのか」を明確にして知識を定着させることをねらった。そのため、単元を進めるのと並行して実際に家の模型を1つ組み立てていき、例えば「家の柱を建てるために何cmの木材を切ればよいか」という形で問題を提示した。しかし、「そもそも、なぜ家を建てるのか」という問いに答えられていなかったため、学びの必然性を十分に生じさせることができなかった。単元の途中から図工の単元「ゆめのまちへようこそ」の活動と関連させたものの、単元構成の段階から図工との合科的な指導を構想すべきであった。

とで、どの既習の図形を活用して求めるのかに焦点化して、話し合いを進めることもできていた。

第5次で、異なるピザの大きさのピザの面積を求め、どのような場合に面積が等しくなるのかを考えさせた。複数のピザを用意し、どれが一番、面積が広いかを考えさせることで、積極的に円の求積公式を活用したり、面積を求めたりすることができた。面積が等しくなる場合を考えることで、式を変形して簡単に求める方法を考えたり、複数の式の共通点を見付けたりすることができた。そこで、面積が等しくなる図を提示し、なぜ面積が等しくなるのかを問う評価問題を解かせた。等しくなる理由を分かりやすく説明することができる児童は、約半数であった。集団解決の中で解決した課題を、自力解決で解けるようにする手立てが今後の課題である。



4 教科の主な観点別評価の結果

【数学的な考え方】について

円の面積の求め方を、既習の図形にして、図や式を用いて考えている。 (プリント)	児童の割合 92%
--	--------------

5 資質・能力の評価の結果

【課題発見・解決力】について

授業では、解決しようとする課題について、解決方法を予想している。 (児童アンケート)	児童の割合 92%
---	--------------

【課題発見・解決力】について

解決方法を予想して、複合図形の面積を求めている。 (評価問題)	児童の割合 89%
------------------------------------	--------------

6 考察（成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて）

- 本単元を通して、解決しようとする課題について、解決方法を予想して課題を解決しようとする姿勢が身に付いてきたと考えられる。具体的には、新しい図形に出会ったときに、既習の図形に変形して面積を求めたり、既習の公式を変形させて求積公式を考えたりすることができる児童が増えてきた。
- 本単元では、課題発見・解決力に重点を置いて指導していったが、既習の図形に着目して考えることで、筋道立てて面積を求めたり、説明したりする思考力・表現力の育成もできると考えられる。
- 今回の課題発見・解決力は、算数科の学習にとどまっており、実生活の場で活用したり、他教科と関連づけて考えたりして、解決する力までは身に付いていない。本単元でも、ピザやバームクーヘン等できるだけ実生活の図形と結びつけて考えさせたが、求積する必然性が薄かったため、本単元で身に付けた力を活用したいという意識をもつことに繋がらなかったと考えられる。

書き方を学んで、お手紙へ!

国語

たんぼ学級

尾道市立土堂小学校

指導者 石倉 さゆり

単元名

「先生にお手紙を書こう」～気持ちを伝えるために～

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- A 児 体験的・感覚的に言葉を捉え、自分の思いや感情をありのままに言葉にして伝えようとしている。
- B 児 いくつかの言葉の中から、自分の気持ちに合う言葉を選んで詳しく伝えようとしている。
- C 児 いくつかの言葉の中から、自分の気持ちに合う言葉を選んで伝えようとしている。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

(1) 児童の資質・能力の課題

- A 児 出来事を思い出し、順番に書くことや、簡単な言葉で気持ちを表すことはできるが、自分の思いをより良い表現で伝える力は十分に育っていない。思考力・表現力に課題があると言える。
- B 児 知っている気持ちを表す言葉は非常に少なく、意味理解も難しい。思考力・表現力に課題があると言える。
- C 児 発語が困難で、知っている気持ちを表す言葉は非常に少なく、意味理解も難しい。思考力・表現力に課題があると言える。

(2) 資質・能力を育成するための本単元のポイント

児童の実態から、人と人のかかわりの中で、国語を正しく表現したり、理解したりすることに関心を持たせたり、様々な語彙に触れさせ、自分の気持ちと合致した言葉を選んで使わせたりすることで、自分の考えや思いを伝達する力を養うことができると考え本単元を設定した。

3 具体的な実践の場面

(1) A 児 文章の構成を考えながら、自分の思いや感情をありのままに言葉にする。(2/5)

例えば、「嬉しい。」には、どんな嬉しさがあるか、自分の体験を振り返りながら考えさせた。ゲームに勝ったときなどの、「やったー。」という瞬発的な嬉しさと、自分が褒められている内容の文章を読んだときのじわっと湧き上がる嬉しさなどを比較させ、嬉しさにもいろいろあり、それにともなって表現の仕方が違うことを理解した。

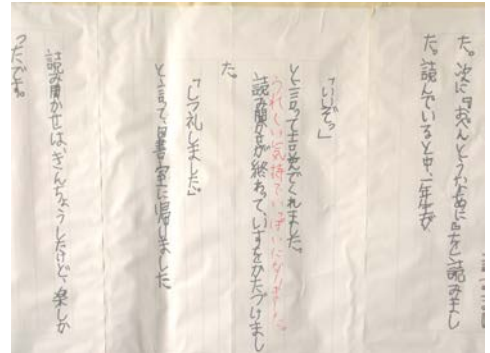
B 児 C 児 気持ちを表す言葉はどんなものがあるか考えさせる。(2/5)

B 児、C 児とも、感情があまり発達しておらず、語彙も非常に少ない。知っている言葉を挙げさせた上で、少し工夫を加えるとどのような表現になるか、例えば、いい気持ちを表す言葉の中で、この場合は、「嬉しい」、「楽しい」「おもしろい」なのか、また、どのように「嬉しい」かなど、一緒に考えた。



(2) 質問された部分について再考し、よりよい表現になるよう工夫をする。(本時4/5)

最初に書いた文に言葉を加えたり、変えたりしたものを
読み返すことで、再考により、よりよい表現に近づく
ことを3人とも実感することができた。



4 教科の主な観点別評価の結果

【書くこと】について

A 児 伝えたいことを中心にして、文章の組み立てを考え、心に残った出来事の様子やその時の
気持ちが伝わるように書いている。

B 児 C 児 文章の構成を考え、前時に考えた気持ちを表す言葉を含んだ文章を書いている。

○A 児 出来事の様子を詳しく思い出し、自分が作った言葉事典を手がかりに、表現を工夫し、思いが
伝わる文章にすることができた。

B 児 C 児 自分が作った言葉事典から、気持ちを表す言葉を思い選び、感情を表現する文章を書
くことができた。

5 資質・能力の評価の結果

【思考力・表現力】について

A 児 心に残ったことを書くこと言語活動を通して、体験的・感覚的に言葉を捉え、自分の思いや
感情をありのままに言葉にしている。

B 児 C 児 体験から心が動いたことを適切な言葉で表している。

○A 児 自分の思いや感情をありのままに言葉にしようとすることで、表現の工夫に関心を持ち、自
分の書いた文章に工夫を加え、より良い表現にすることができた。

B 児 C 児 自分の心の動きに関心を持ち、適切な言葉を選んで文章を書くことができた。

6 考察(成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて)

○ 気持ちを表現することに関心を持ち、自分の気持ちに合う表現を工夫しようとすることで、自分
の気持ちを見つめ直すことができた。

● 本時において、自分で考える時間が短く、アドバイスを直接もらうことがなかった。多様な表現
を知るチャンスをつくっていきたい。

町を調べて、ブックで表現！

国語

さくら学級

尾道市立土堂小学校

指導者 渡邊 翠大

単元名

「Walker! ～伝えよう、私の調べたまちのこと～」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 自分の体験や感情を適切に、伝えようとしている。
- 目的に応じ、順序やまとまりを考え、自分の思いや考えを、見出しやリード文などを活用して分かりやすく表現しようとしている。

2 課題発見・解決学習の構想とポイント

(1) 児童の資質・能力の課題

本学級は自閉症・情緒障害特別支援学級であり、1年生女子1名（A児）、5年生男子1名（B児）の2名が在籍している。

A児・・・ 学年相応の学力を有している。ひらがなの学習では、字を丁寧に書くことができた。また、音読では文章を正しく読んだり、素早く読んだりすることができる。1学期に行った物語文の学習では、叙述から登場人物の気持ちを想像させたり、挿絵や動作化の活動から考えさせたりした。叙述から心情を想像することが難しく、行間を読んだり、心情を想像したりする思考力・表現力に課題があると言える。

B児・・・ 語彙が少なく、単語や2語文で話すことが多い。自分の考えや思いを言葉で表現することが困難である。また、自分の得た情報から必要な箇所を取り出してまとめたり、比較したりすることに課題がある。本児が自分の思考を表現するために、教師がキーワードにまとめたり、書き方を示したりするなどの支援が必要である。

(2) 資質・能力を育成するための本単元のポイント

本単元では、児童が自分の体験や感情を表現したり、目的に応じ、順序やまとまりを考え、自分の思いや考えを、見出しやリード文などを活用して分かりやすく表現したりするため、調べたことを Walker 雑誌にまとめるという課題を設定した。

他教科と関連させ、自分が調べた内容を1年生は絵日記の形式でまとめさせた。自分の行動や体験を記述することで、自分自身の考えや心情を振り返り、様子や心情を想像するきっかけになると考えた。5年生は雑誌や新聞を参考に形式を考え、まとめさせた。自らが記事を書いたり、必要な資料を選んだりする活動を通して、自分の考えを振り返ったり、必要な情報を取捨選択できると考えた。

また、学習指導要領低学年の「A話すこと・聞くこと」の内容「相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。」「大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。」、高学年「B書くこと」の内容「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わる様を書く。」「C読むこと」の内容「目的に応じて、本や文章を読み比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること」と関連させることで上述の資質・能力をより育成できると考え、本単元を設定した。

3 具体的な実践の場面

(1) 調べる活動の充実 (2, 3/7)

A児は千光寺について調べた。実際に千光寺に見学に行き、千光寺の方にインタビューをした。インタビューでは大事なことを落とさないように聞き取り、まとめる活動を行った。聞き取る際のポイントとして、「物の名前」「何のためにあるのか(目的)」「触感や見た目(様子)」を記録するように指導した。

B児は社会科で学んだ海津市について、調べ学習を深めた。インターネットや資料集を活用し、必要な資料やグラフ、表などを選ばせた。なぜその資料が必要なのか、何の目的で選んだのか理由を話させることで効果的な表現を考えさせた。

(2) 完成した Walker 雑誌を發表する (本時 7/7)

○ 自分の思いを書いたり、効果的な表現を使用したりする場面の設定

本時において、A児は学習を通して感じたことやできるようになったことを振り返らせ記述させた。自分の活動を想起させ、聞いたことを正しく伝えることの大切さや体験したことから自分の思いを表現することの良さに気付くことができた。

B児は、本時で見出しや記事に合った写真を選ぶという活動を行った。活動を通して、自らこんな写真が欲しいと主張したり、見出しの言葉を選んだ理由を話したりすることができた。発表では図表やグラフ、見出しやリード文を交えて発表することができた。

4 教科の主な観点別評価の結果

【話すこと・聞くこと】について

大事なことを落とさないように聞いて、相手に伝えている。(A児)

- 千光寺の方にインタビューをし、メモを取らせた。調べた事を発表する場面では、大事なことをものの名前や様子、役割と設定し、友達に伝えることができた。

【読むこと】・【書くこと】について

記事の書き方の特徴や役割を知り、ねらいや構成などを読み取っている。(B児)

記事の内容や写真に合う見出しや文章を書き、自分の意図が伝わるように調べた事を文章にまとめている。(B児)



- 教材文から見出し、リード文、キャプションなどの役割を理解することができた。調べた内容をまとめる場面では、記事の内容に合った見出しを考えたり、写真の様子を分かりやすくするためのキャプションを考えたりして書くことができた。また、全体の構成を考え、児童自ら写真資料を求める姿が見られた。



5 資質・能力の評価の結果

【思考力・表現力】について

調べた事をまとめ、発表する活動を通して、自分の体験や感情を適切に伝えようとしている。(A児)
調べた事をまとめ、発表する活動を通して、目的に応じ、順序やまとまりを考え、見出しやリード文を活用し、効果的に表現している。(B児)

- A児は、発表の場面で体験を振り返らせ、どんなことができたのか考えさせ、自分の体験や考えを発表できた。
B児は、見出しやリード文作成、文章の構成を考える活動を通して、相手に分かりやすく伝える方法を理解できた。



6 考察(成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて)

- 他教科と関連させ、本単元の活動を設定することで児童が意欲的に学習に取り組むことができた。また、交流学級に発表することで、学習活動に積極的に取り組むことができた。
- 本単元では異学年で交流しながら学習を進めることが困難であった。児童の実態を今一度把握し、二人で協力しながら学習を進められるような題材を設定する必要がある。

IV 基礎・基本定着のための取組

モジュール授業

1 モジュール授業の原理

モジュール授業では、児童に「基礎的・基本的な知識・技能」を習得させるための「読み・書き・計算」を中心とした徹底反復学習を行っている。高速で音読したり単純な計算を繰り返したりする徹底反復学習を行うことにより、脳の活性化が図られる。その結果、児童の学習能力が高まると考える。そのため、児童が集中して徹底反復学習に取り組むことができるように「スピード・テンポ・タイミング・個へのアプローチ」をキーワードとして指導の工夫を行っている。スピード感を保ちつつ、テンポ・タイミング良く教材を提示するツールとして、電子黒板等の情報機器を活用している。

2 モジュール授業の内容

モジュール授業は、国語科・算数科・その他の教科等の内容を、それぞれ 15 分間のユニットとして指導している。主な指導内容として、次に示すものがあげられる。

国語科	<p>(音読) 名文やリズムのある作品を音読することで、基礎となる音読する力や読解を助ける力を身に付けさせる。</p> <p>(辞書引き) 語彙能力の向上を図るために、辞書引き月間(7月)を設定して、集中して辞書引きに取り組んでいる。発達段階を考慮し、低学年ではルビ入りの国語辞典を使用している。</p> <p>(漢字の前倒し学習) 漢字習得率の向上を図るため、年度初めに新出漢字を前倒しして指導し、その後、漢字の反復学習を実施する。</p> <p>(聞き取り) 文学的文章や説明的文章等を聞き取り、正しく聞き取る力やメモを取り、聞き取ったことをまとめる力を身に付けさせる。</p>	<p>(フラッシュ)</p> <p>各教科・各学年に応じた内容を練習し、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる。また、当該学年だけでなく、前学年までの内容を繰り返し練習したり、確認したりすることで定着率を高める。</p> <p>【国語科】 文法、ローマ字、言語事項など</p> <p>【算数科】 計算、図形など</p> <p>【社会科】 地図記号、都道府県、歴史、世界の国々など</p> <p>【理科】 実験器具、理科用語など</p>
算数科	<p>(ます計算) ます計算に取り組むことで、算数科の基礎となる計算力の向上を図る。</p> <p>(そろばん) 低学年において、数感覚を養ったり、数と計算の意味について理解させたりするために、そろばんを指導している。</p>	
その他の教科	<p>(カルタ) 都道府県や歴史など各学年に応じた内容を練習し、教科における基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。</p> <p>(タイピング) 情報機器活用能力向上を図るために、第2学年からタッチタイピングを指導している。</p>	

3 モジュール授業の学習目標

年度初めに各学年の音読・算数・その他の分野におけるめざす姿や数値を設定した。目標を意識しながら、児童の実態に合わせて指導を進めていくことができる考える。

	低学年	中学年	高学年
音読	<ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢，口形 はっきりと，正しく読む 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい口形 内容を考えて読む (強弱・抑揚・間 等) 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい口形，伝わる声 内容を考えて読む (強弱・抑揚・間 等)
算数 計算	<ul style="list-style-type: none"> そろばんに慣れ親しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 単位換算 ・数量関係 量のイメージ 	<ul style="list-style-type: none"> 単位換算 ・算数用語の定義 数量関係 ・量のイメージ
その他	<ul style="list-style-type: none"> 英語に慣れ親しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 社会・理科の重要用語の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 社会・理科の重要用語の徹底

【1年】

10ます足し算	10ます引き算	50ます足し算	100ます足し算
10秒	10秒	1分	3分

【2年】

100ます足し算	100ます引き算	10ますかけ算	100ますかけ算
2分	2分30秒	15秒	2分

【3年】

100ますかけ算	A型50問わり算	A型100問わり算	B型50問わり算	B型100問わり算
2分	1分30分	3分	3分	5分

【4年】

A型50問 わり算	A型100問 わり算	B型50問 わり算	B型100問 わり算	C型100問 わり算
2分	3分	3分	4分30秒	5分

【5年】

C型100問わり算
4分

【6年】

C型100問わり算
3分

4 モジュール学年系統表

児童の実態に応じたモジュール教材の改善・開発を行った。作成した教材を一つのフォルダに集めて共有化し，どの学年の指導者も，当該学年だけでなくその他の学年の内容を確認したり，活用したりできるようにしている。そうすることで，新出した内容だけでなく，既習事項の内容を確認することができたり，計画的・系統的に進めたりすることができる考える。

例【6年】

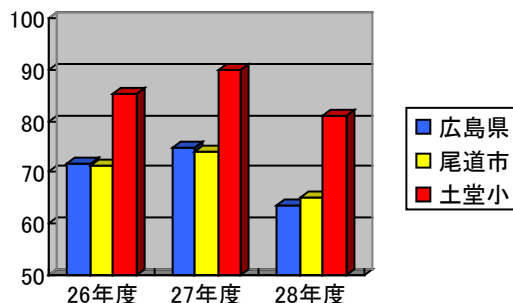
	国語的内容	算数的内容	社会・理科
4月	【漢字】 ・全漢字 ・リズム漢字 【音読】 ・雨ニモマケズ ・平家物語 ・論語 ・春暁 【フラッシュ】 ・慣用句・敬語	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・対称, 倍数, 約数	(社)【フラッシュ】 ・歴史(人物, 事件) ・世界遺産 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
5月	【フラッシュ】 ・慣用句, 敬語, 熟語の構成 【音読】 ・雨ニモマケズ ・平家物語 ・論語 ・春暁 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・文字と式 ・逆数 ・単位換算	(社)【フラッシュ】 ・歴史(人物, 事件) ・世界遺産 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
6月	【フラッシュ】 ・慣用句, 敬語, 熟語の構成 【音読】 ・雨ニモマケズ ・平家物語 ・論語 ・春暁 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・割合 ・文字と式 ・逆数	(社)【フラッシュ】 ・歴史(人物, 事件) ・世界遺産 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
7月	【フラッシュ】 ・慣用句, 敬語, 熟語の構成 【音読】 ・雨ニモマケズ ・平家物語 ・論語 ・春暁 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・割合 ・図形の面積 ・逆数	(社)【フラッシュ】 ・歴史(人物, 事件) ・世界遺産 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
9月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 【音読】 ・平家物語 ・論語 ・春暁 ・徒然草 ・孫子 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・速さ ・体積 ・比	(社)【フラッシュ】 ・歴史(戦争～戦後) ・日本国憲法 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
10月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 【音読】 ・平家物語 ・論語 ・春暁 ・徒然草 ・孫子 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・比 ・体積 ・単位換算	(社)【フラッシュ】 ・歴史(戦争～戦後) ・日本国憲法 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
11月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 【音読】 ・平家物語 ・論語 ・春暁 ・徒然草 ・孫子 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・比例, 反比例 ・比 ・単位換算	(社)【フラッシュ】 ・歴史(戦争～戦後) ・日本国憲法 ・権利と義務 ・国会, 内閣, 裁判所の働き 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
12月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 【音読】 ・平家物語 ・論語 ・春暁 ・徒然草 ・孫子 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・比例, 反比例 ・文字と式 ・速さ	(社)【フラッシュ】 ・歴史(戦争～戦後) ・日本国憲法 ・権利と義務 ・国会, 内閣, 裁判所の働き 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
1月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 ・数え方 【音読】 ・名言(聖徳太子, クラーク) 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・単位換算 ・文字と式	(社)【フラッシュ】 ・地理(中1教材) ・歴史(縄文～平成) (理)【フラッシュ】 ・電気とわたしたちの暮らし
2月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 ・数え方 【音読】 ・名言(聖徳太子, クラーク) 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・単位換算 ・比 ・割合 ・図形	(社)【フラッシュ】 ・地理(中1教材) ・歴史(縄文～平成) (理)【フラッシュ】 ・電気とわたしたちの暮らし
3月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 ・数え方 【音読】 ・名言(聖徳太子, クラーク) 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分 ・約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・単位換算 ・比 ・割合	(社)【フラッシュ】 ・地理(中1教材) ・歴史(縄文～平成) (理)【フラッシュ】 ・電気とわたしたちの暮らし

V 研究の結果と考察（中間）

1 広島県「基礎・基本」定着状況調査（通過率） —第5学年—

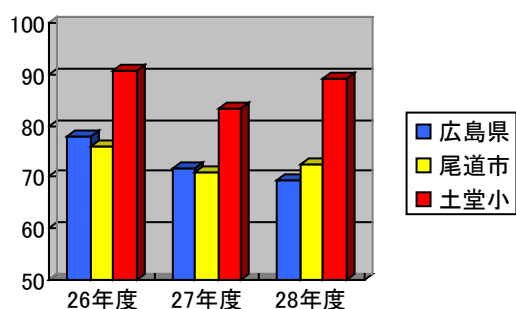
国語 教科全体の通過率（％）

	26年度	27年度	28年度
広島県	71.8	74.7	63.7
尾道市	71.2	73.9	65.1
土堂小	85.1	89.8	81.1
県との差	+13.3	+15.1	+17.4



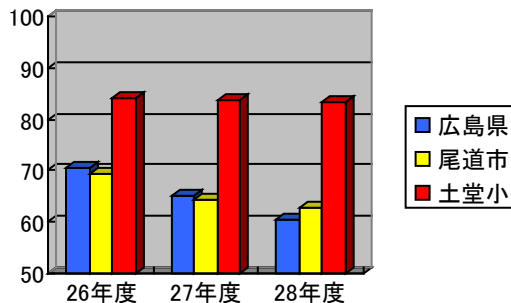
算数 教科全体の通過率（％）

	26年度	27年度	28年度
広島県	78.0	71.6	69.4
尾道市	76.1	70.8	72.3
土堂小	90.7	83.5	89.0
県との差	+12.7	+11.9	+19.6



理科 教科全体の通過率（％）

	26年度	27年度	28年度
広島県	70.6	65.3	60.6
尾道市	69.2	64.5	62.9
土堂小	84.2	83.8	83.3
県との差	+13.6	+18.5	+22.7



「基礎・基本」定着状況調査について

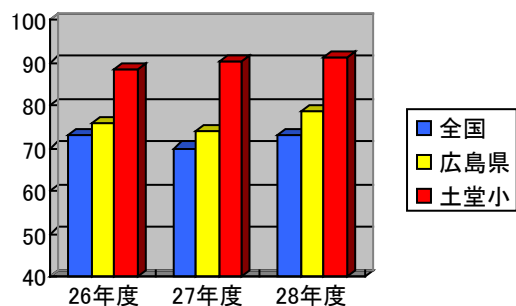
全ての教科において県平均+12を達成することができた。3教科ともに広島県の通過率よりも高く、基礎的・基本的な学習内容は定着していると捉えている。

教科	課題	今後の取組
国語	中心となる語や文を捉えて、文章を正しく読むこと。（通過率 46.9%）	文学的な本や説明的な本など、多様な本で児童実態に合った本を推薦指定図書として、たくさん読ませたり、速く正確に読む習慣をつけたりする。
算数	目的に応じて計算の結果の見積もりをし、計算の仕方や結果について適切に判断すること。（通過率 65.6%）	「がい数」の学習で、四捨五入だけでなく、切り上げ、切り捨て、以上、以下などの言葉やその意味をしっかりと理解させる。
理科	うでが動くしくみの知識を活用して、足が動くしくみを説明すること。（56.3%）	人の体の骨や筋肉の動きを、資料を使って調べるだけでなく、他の動物の体のつくりや体の動き、運動を観察したり、触ってみたりしながら比較する。

2 全国学力・学習状況調査(平均正答率) —第6学年—

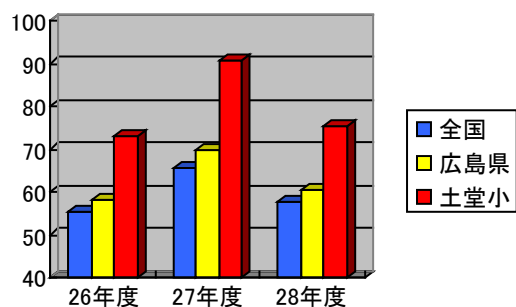
国語Aの平均正答率(%)

	26年度	27年度	28年度
全国	72.9	70.0	72.9
広島県	75.9	73.8	78.4
土堂小	88.3	90.1	91.1
全国との差	+15.4	+20.1	+18.2



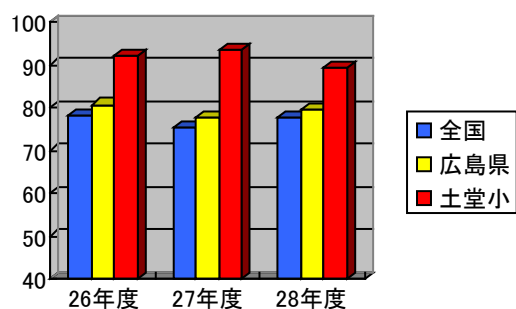
国語Bの平均正答率(%)

	26年度	27年度	28年度
全国	55.5	65.4	57.8
広島県	58.3	69.7	60.5
土堂小	72.9	90.6	74.5
全国との差	+17.4	+25.2	+16.7



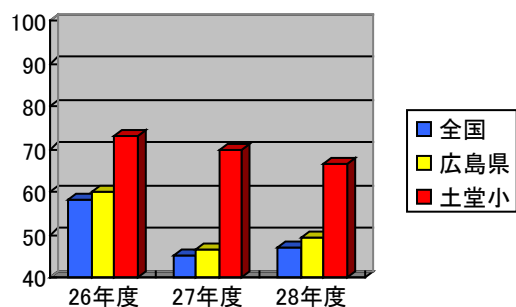
算数Aの平均正答率(%)

	26年度	27年度	28年度
全国	78.1	75.2	77.6
広島県	80.7	77.7	79.7
土堂小	91.9	93.6	89.5
全国との差	+13.8	+18.4	+11.9



算数Bの平均正答率(%)

	26年度	27年度	28年度
全国	58.2	45.0	47.2
広島県	60.1	46.7	49.5
土堂小	73.1	69.6	66.4
全国との差	+14.9	+24.6	+19.2



全国学力・学習状況調査について		
県平均+15を概ね達成することができた。主として「知識」に関する問題、主として「活用」に関する問題、全てにおいて全国の前年正答率よりも高く、「知識」「活用」とともに定着が図られていると捉える。		
教科	課題	今後の取組
国語A	平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと。 (平均正答率 76.3%)	モジュール授業や家庭学習で反復練習を行う。
国語B	グラフを基に、分かったことを的確に書くこと。 (平均正答率 55.3%)	情報を正しく読み取り、必要な情報について適切な言葉を用いて記述させる。また、1つのグラフを取り上げて全体的な特徴や変化の特徴を捉える学習、複数の図表やグラフを比較したり関係付けたりする。
算数A	数の大小関係を理解すること。(平均正答率 65.8%)	モジュール授業や家庭学習で反復練習を行う。
算数B	示された除法の式を並べてできた形と関連付け、画の大きさを基に、式の意味の説明を記述すること。 (平均正答率 21.1%)	図や式などを用いて問題を解決し、児童が互いに図や式の意味を解釈し説明し合う活動を設ける。また、表現された式について図に表わしながら解釈し説明し合う活動を大切にする。

3 質問紙調査

(13)～(27)は、平成28年度「基礎・基本」定着状況調査 児童質問紙調査票から「学びの变革」パイロット校事業の検証に用いる質問事項(13)～(27)を抜粋したものである。9割以上の項目

No	質問項目	県5年	本校6年	本校5年	本校4年	本校3年	本校2年	本校平均	県との差	本校平均と
13	授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思っています。	65.5	97.3	93.9	96.1	95.3	81.5	88.6	+23.1	
14	授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないか」と予想しています。	71.8	92.1	90.9	92.3	93.0	100	90.4	+18.6	
15	授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。	38.3	92.1	90.9	69.2	81.3	94.7	79.7	+41.4	
16	授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。	46.4	86.8	90.9	92.3	95.3	89.4	83.2	+36.8	
17	授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	49.1	81.5	90.9	100	95.3	86.8	83.3	+34.2	
18	授業では、情報を、比べたり(比較)、仲間分けしたり(分類)、関係を見つめたり(関係付け)して、何が分かるのかを考えています。	63.2	97.3	93.9	92.3	88.3	92.1	88.2	+25.0	
19	授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	56.3	94.7	81.8	84.6	86.0	89.4	82.5	+26.2	
20	授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	56.6	94.7	81.8	80.7	81.3	86.8	81.0	+24.4	
21	授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取り組んでいます。	63.3	94.7	100	88.4	83.7	92.1	87.7	+24.4	
22	学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を感じています。	63.0	94.7	84.8	84.6	90.6	94.7	86.4	+23.4	
23	学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	55.4	97.3	100	92.3	95.3	92.1	88.8	+33.4	
24	ふだんの生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を使っています。	71.3	92.1	84.8	80.7	90.6	84.2	85.0	+13.7	
25	授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	74.5	92.1	87.8	84.6	90.6	94.7	88.4	+13.9	
26	授業では、実際にものを使ってやってみたり、地域や自然の中で学習したりするなどの体験活動をしています。	54.2	94.7	96.9	100	88.3	97.3	88.3	+34.1	
27	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。	64.5	86.8	100	50.0	97.6		84.9	+20.4	
	平均	59.6	92.6	91.3	85.9	90.2	91.1	86.8	+27.2	

(28)～(35)は、本校で育てたい資質・能力（建設的批判能力、責任感、チャレンジ精神、感性、自分への自信、尾道市民としてのアイデンティティ）の達成指標を図るため、本校独自で設定した質問事項である。

No	質問項目	本校 6年	本校 5年	本校 4年	本校 3年	本校 2年	本校 平均
28	自分の考えが正しいか、しっかり確かめるようにしています。(建設的批判能力)	92.1	96.9	96.1	90.6	97.3	94.6
29	自分とちがう考えも大切にして、自分の考えを書いたり、話したりしています。(建設的批判能力)	86.8	90.9	92.3	93.0	100	93.4
30	自分の仕事や役割を、責任をもって最後までしています。(責任感)	92.1	96.9	96.1	95.3	92.1	94.5
31	できないと思うことでもチャレンジしています。(チャレンジ精神)	94.7	90.9	96.1	95.3	92.1	93.8
32	日ごろから心が動かされたり感動したりします。(感性)	73.6	84.8	88.4	90.6	89.4	86.2
33	自分はやればできると思います。(自分への自信)	84.2	87.8	80.7	93.0	92.1	89.1
34	尾道のよさを知っています。(尾道市民としてのアイデンティティ)	94.7	90.9	88.4	95.3	97.3	93.4
35	尾道の人の願いを知っています。(尾道市民としてのアイデンティティ)	97.3	69.6	80.7	86.0	73.6	81.5

VI 研究のまとめ（中間）

1 成果

成果① 児童の資質・能力を高める課題発見・解決学習のための授業づくり

今年度は、昨年度の反省を踏まえ、実践した開発単元の見直しを図り、これまで開発した単元を改善する形で授業実践を行った。総合的な学習の時間のみならず、教科においても育成したい資質・能力や「課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・創造・表現、実行、振り返り」の学びのステップを明確にした単元開発を行い、導入の工夫によって児童の学習意欲を高めながら、授業を行うことができた。学力テストの結果や質問紙調査の結果からみても高い成果を挙げていると考える。

成果② 教師の意識改革につながった資質・能力系統表と評価問題の作成

本校で設定した資質・能力のうち、とりわけ「思考力・表現力」に焦点を当てて、低・中・高で系統表を作成した。また、学年ごとに資質・能力を見取るための自作の評価問題を作成した。系統表を作成することで、教師が資質・能力を具体化してイメージすることができた。また、評価問題を作成することで、単元末に目指す児童の姿が明確になり、教師の単元を設計する力が付いた。これらの取組は、教師の意識改革につながり、従来のコンテンツベースの指導からコンピテンシーベースの指導への転換を図るよい取組となった。

成果③ 児童の確かな学力の定着につながった学習習慣の確立

学ぶ習慣づくりのために、モジュール授業、家庭学習、その他様々な取組を行った。モジュール授業の取組においては、今年度で14年目を迎えた。全学年、全職員で継続して取り組んできたことが、児童の確かな力へとつながっている。また、モジュール授業に関わる研修や開発、実施等の工夫が充実したことも成果の大きな要因である。

2 課題と今後に向けて

課題と今後に向けて① 目的意識や見通しをもって学習するための授業の工夫

課題について出し合ったところ、「教師が資料を与え過ぎた」という情報収集場面での課題が一番多かった。整理・分析やまとめ・創造・表現場面での活動は充実していたが、情報収集場面での計画は十分だったとは言い難い。今後も開発単元の実践と見直しを繰り返し、児童が解決方法の見通しを立てて、主体的に情報を収集することができるよう、授業改善を図っていききたい。また、単元の導入や終末を工夫し、学習したことと児童の実生活とのつながりを強めることで、学習の有用感を高めたり、目的意識を明確にもって学習に取り組んだりすることができるようにしたい。

課題と今後に向けて② 話すとき、聞くときの他者意識の向上と能力の向上

授業の中で児童が自分の考えや思いを伝えようとしても上手く伝わらない場面や聞き手が話し手の話をぼんやり聞いている場面がしばしば見られる。これらの原因としては、児童の能力の問題と教師の場面設定の問題が考えられる。教師の指導方法を工夫改善し、相手や目的に応じて必要な資料を選択して自分の考えを表現したり、他者の考えを受け止めたりする話し手や聞き手のスキルを向上させたり、「話したい、聞きたい」と思うような必然性のある授業の工夫を行ったりしたい。課題①と共通するが、今後も単元開発や改善を行い、児童の資質・能力を養っていききたい。

Ⅶ 日 程

8:40 9:10 9:40 9:50 10:35 10:50 11:10 12:00 13:00 14:30 14:45 15:00 16:20 16:30

受付	公開授業Ⅰ 総合的な学習の時間 モジュール授業	移動	公開授業Ⅱ 総合的な学習の時間 特別支援教育	移動	児童発表	開会行事 実践報告	昼食・休憩	分科会	移動	講評	講演	閉会行事
----	-------------------------------	----	------------------------------	----	------	--------------	-------	-----	----	----	----	------

公開授業Ⅰ（モジュール授業・総合的な学習の時間）（9:10～9:40）

内 容	公開学年	授業者	会 場
モジュール授業 ・音読，暗唱，漢字，聞き取り ・ます計算，そろばん ・歴史 など	1年1組	島本佳代子	1年1組教室
	1年2組	上田 千紘	1年2組教室
	2年1組	舛上 敏成	2年1組教室
	2年2組	才谷 瑛一	2年2組教室
	3年1組	谷川 友弥	3年1組教室
	3年2組	川嶋佳那美	3年2組教室
	4年1組	川本美紀子	4年1組教室
	4年2組	亀本 拓朗	4年2組教室
	6年1組	隆杉 佳代	6年1組教室
	特別支援学級（知的）	石倉さゆり	たんぼぼ学級教室
特別支援学級（情緒）	渡邊 翠大	さくら学級教室	
総合的な学習の時間 空き家問題 アクション・プラン	5年1組	森口 結香 田中 美雪	5年1組教室

公開授業Ⅱ (国語科・算数科・総合的な学習の時間・特別支援教育)

(9:50~10:35)

公開学年	教科領域名	単元・題材名	授業者	会場
1年1組	国語科	スイミー おはなしのすきなところを見つけよう	島本佳代子	1年1組 教室
1年2組	算数科	ひき算(2) けいさんのしかたを見つけてひきざん「はかせ」になろう	上田 千紘	1年2組 教室
2年1組	算数科	かけ算(3) 見つけよう 九九のひみつ	舛上 敏成	2年1組 教室
2年2組	国語科	かさこじぞう むかし話の紙しばいをせいこうさせよう	才谷 瑛一	2年2組 教室
3年1組	算数科	円と球 コンパスを使って宝の地図で発見!	谷川 友弥	3年1組 教室
3年2組	国語科	モチモチの木 音読で感動を伝えよう!~斎藤隆介の世界~	川嶋佳那美	3年2組 教室
4年1組	国語科	くらしの中の和と洋 くらしの中の和と洋ブックを作ろう!	川本美紀子	4年1組 教室
4年2組	算数科	面積 どんな形でもできるかな?面積を比かくしよう!	亀本 拓朗	4年2組 教室
5年1組	総合的な 学習の時間	空き家問題 アクション・プラン	森口 結香 田中 美雪	5年1組 教室
6年1組	算数科	町の幸福論-コミュニティデザインを考える- 尾道幸福論-尾道の未来の町づくりを考えよう-	保森 智彦	6年1組 教室
特別支援学級 (知的)	国語科	言葉をつなげて(4年)気持ちを言葉に(3年) 詩人になろう	石倉さゆり	たんぽぽ 学級教室
特別支援学級 (情緒)	国語科	不思議な世界へ出かけよう(5年)おはなしをつくらう(1年) マイストーリーを作ろう!	渡邊 翠大	さくら 学級教室

児童発表

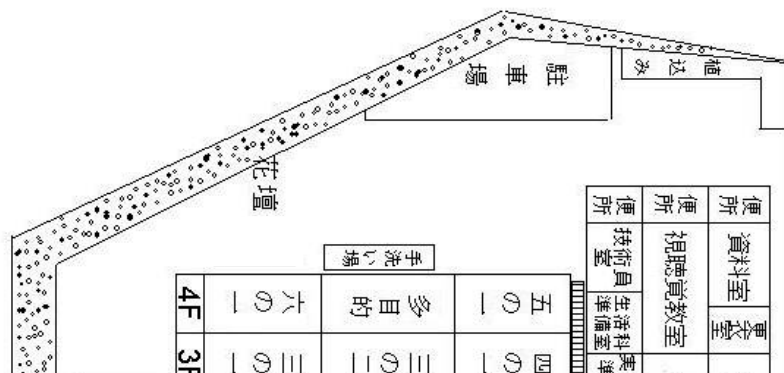
(10:50~11:10)

○合唱「すてきな友達」「シーラカンスをとりにいこう」(6年生児童)

指揮:田中 美雪(教諭) 伴奏:石倉 さゆり(教諭)

○土堂っ子太鼓(6年生児童)

地域に伝わるベッチャー太鼓をアレンジし、全校児童が継承し、今年度で25周年を迎えま



校舎平面図

- ※ 公開授業Ⅰ・Ⅱとも各教室で行います。
- ※ 昼食会場は、体育館をご利用ください。
- ※ 分科会会場
 - ①コミュニティ・スクール……4-2
 - ②国語科……………3-2, 4-1
 - ③算数科……………視聴覚教室, 1-1
 - ④総合的な学習の時間……5-1
 - ⑤特別支援教育……………たんぼぼ

VIII 全体会

開会行事

(11:10～11:30)

主催者挨拶

尾道市教育委員会 教育長 佐藤 昌弘

尾道市立土堂小学校 校長 佐々木 智彦

来賓祝辞

広島県東部教育事務所 所長 小原 博文

実践報告

(11:35～11:55)

尾道市立土堂小学校 研究主任 才谷 瑛一

分科会

(13:00～14:30)

分科会名 (会場)	協議テーマ	指導・助言者
コミュニティ・スクール (4年2組)	ミッションステートメントの具現化をめざして	比治山大学 教授 林 武広 先生
国語科 (3年2組) (4年1組)	主体的な学びのための国語科授業	福岡教育大学 国語教育講座 教授 河野 智文 先生 広島県東部教育事務所 指導主事 西谷由季子 先生
算数科 (視聴覚室) (1年1組)	主体的な学びのための算数科授業	福岡教育大学 数学教育講座 准教授 岩田 耕司 先生 広島県東部教育事務所 指導主事 神鳥 裕史 先生
総合的な 学習の時間 (5年1組)	主体的な学びのための総合的な学習の時間	広島県東部教育事務所 指導主事 升谷 英子 先生 尾道市教育委員会 指導主事 山口 晴子 先生
特別支援教育 (たんぼぼ学級)	主体的な学びのための特別支援教育	広島県立尾道特別支援学校 教育相談主任 佐藤 喜昭 先生

講評

(14:45～14:55)

広島県東部教育事務所 指導主事 西谷 由季子 様

「主体的に学び続ける子どもの育成のために」

福岡教育大学 国語教育講座 教授 河野 智文 先生

MEMO

閉会行事

(16:20~16:30)

閉会挨拶

尾道市立土堂小学校 教頭 加登谷 州章

MEMO

学年	内容 (教科)	指導者	教室								
1年1組	音読, フラッシュ, 聞き取り (国語科) 計算フラッシュ, そろばん, まず計算 (算数科)	島本 佳代子	1年1組								
<table border="1"> <tr> <td>国語科</td> <td> <p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 テンポよく楽しんで音読することはできるが, 正しい姿勢や集中は持続しにくい。</p> </td> </tr> </table>		国語科	<p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 テンポよく楽しんで音読することはできるが, 正しい姿勢や集中は持続しにくい。</p>	<table border="1"> <tr> <td>算数科</td> <td> <p>【ねらい】 最後まで集中して, 計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 10までの足し算・引き算の正答率が高いが, 繰り上がり・繰り下がり計算の定着は個人差が大きい。</p> </td> </tr> </table>		算数科	<p>【ねらい】 最後まで集中して, 計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 10までの足し算・引き算の正答率が高いが, 繰り上がり・繰り下がり計算の定着は個人差が大きい。</p>				
国語科	<p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 テンポよく楽しんで音読することはできるが, 正しい姿勢や集中は持続しにくい。</p>										
算数科	<p>【ねらい】 最後まで集中して, 計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 10までの足し算・引き算の正答率が高いが, 繰り上がり・繰り下がり計算の定着は個人差が大きい。</p>										
<table border="1"> <tr> <td> <ol style="list-style-type: none"> 音読 <ul style="list-style-type: none"> お口の体操 五十音 早口言葉 尋胡隠君 フラッシュ <ul style="list-style-type: none"> 漢字 カタカナ ことわざ 聞き取り <ul style="list-style-type: none"> 説明的文章 </td> <td> <table border="1"> <tr> <th>留意点</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。 ○集中してリズムよく音読やフラッシュの問題に取り組ませるために, 形態を工夫する。 ○キーワードは何かを確かめることで, 聞き取りの視点をもたせる。 </td> </tr> </table> </td> </tr> </table>		<ol style="list-style-type: none"> 音読 <ul style="list-style-type: none"> お口の体操 五十音 早口言葉 尋胡隠君 フラッシュ <ul style="list-style-type: none"> 漢字 カタカナ ことわざ 聞き取り <ul style="list-style-type: none"> 説明的文章 	<table border="1"> <tr> <th>留意点</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。 ○集中してリズムよく音読やフラッシュの問題に取り組ませるために, 形態を工夫する。 ○キーワードは何かを確かめることで, 聞き取りの視点をもたせる。 </td> </tr> </table>	留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。 ○集中してリズムよく音読やフラッシュの問題に取り組ませるために, 形態を工夫する。 ○キーワードは何かを確かめることで, 聞き取りの視点をもたせる。 	<table border="1"> <tr> <td> <ol style="list-style-type: none"> フラッシュ <ul style="list-style-type: none"> 数の分解 足し算・引き算 そろばん まず計算 <ul style="list-style-type: none"> 10ます (10秒ずつ) 30ます (30秒) </td> <td> <table border="1"> <tr> <th>留意点</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○そろばんの指の動きを声に出して確認させ, 珠と足し算・引き算の動きを合致できるようにする。 ○まず計算では, 目標時間を設定することで, 意欲的に取り組めるようにする。 </td> </tr> </table> </td> </tr> </table>		<ol style="list-style-type: none"> フラッシュ <ul style="list-style-type: none"> 数の分解 足し算・引き算 そろばん まず計算 <ul style="list-style-type: none"> 10ます (10秒ずつ) 30ます (30秒) 	<table border="1"> <tr> <th>留意点</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○そろばんの指の動きを声に出して確認させ, 珠と足し算・引き算の動きを合致できるようにする。 ○まず計算では, 目標時間を設定することで, 意欲的に取り組めるようにする。 </td> </tr> </table>	留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○そろばんの指の動きを声に出して確認させ, 珠と足し算・引き算の動きを合致できるようにする。 ○まず計算では, 目標時間を設定することで, 意欲的に取り組めるようにする。
<ol style="list-style-type: none"> 音読 <ul style="list-style-type: none"> お口の体操 五十音 早口言葉 尋胡隠君 フラッシュ <ul style="list-style-type: none"> 漢字 カタカナ ことわざ 聞き取り <ul style="list-style-type: none"> 説明的文章 	<table border="1"> <tr> <th>留意点</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。 ○集中してリズムよく音読やフラッシュの問題に取り組ませるために, 形態を工夫する。 ○キーワードは何かを確かめることで, 聞き取りの視点をもたせる。 </td> </tr> </table>	留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。 ○集中してリズムよく音読やフラッシュの問題に取り組ませるために, 形態を工夫する。 ○キーワードは何かを確かめることで, 聞き取りの視点をもたせる。 								
留意点											
<ul style="list-style-type: none"> ○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。 ○集中してリズムよく音読やフラッシュの問題に取り組ませるために, 形態を工夫する。 ○キーワードは何かを確かめることで, 聞き取りの視点をもたせる。 											
<ol style="list-style-type: none"> フラッシュ <ul style="list-style-type: none"> 数の分解 足し算・引き算 そろばん まず計算 <ul style="list-style-type: none"> 10ます (10秒ずつ) 30ます (30秒) 	<table border="1"> <tr> <th>留意点</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○そろばんの指の動きを声に出して確認させ, 珠と足し算・引き算の動きを合致できるようにする。 ○まず計算では, 目標時間を設定することで, 意欲的に取り組めるようにする。 </td> </tr> </table>	留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○そろばんの指の動きを声に出して確認させ, 珠と足し算・引き算の動きを合致できるようにする。 ○まず計算では, 目標時間を設定することで, 意欲的に取り組めるようにする。 								
留意点											
<ul style="list-style-type: none"> ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○そろばんの指の動きを声に出して確認させ, 珠と足し算・引き算の動きを合致できるようにする。 ○まず計算では, 目標時間を設定することで, 意欲的に取り組めるようにする。 											

学年	内容 (教科)	指導者	教室								
1年2組	音読, フラッシュ, 聞き取り (国語科) 計算フラッシュ, まず計算 (算数科)	上田 千紘	1年2組								
<table border="1"> <tr> <td>算数科</td> <td> <p>【ねらい】 最後まで集中して, 正確に計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 10までの足し算・引き算の正答率が高いが, 計算のスピードは個人差がとても大きい。</p> </td> </tr> </table>		算数科	<p>【ねらい】 最後まで集中して, 正確に計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 10までの足し算・引き算の正答率が高いが, 計算のスピードは個人差がとても大きい。</p>	<table border="1"> <tr> <td>国語科</td> <td> <p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 テンポよく楽しんで音読することはできるが, 正しい姿勢や集中は持続しにくい。</p> </td> </tr> </table>		国語科	<p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 テンポよく楽しんで音読することはできるが, 正しい姿勢や集中は持続しにくい。</p>				
算数科	<p>【ねらい】 最後まで集中して, 正確に計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 10までの足し算・引き算の正答率が高いが, 計算のスピードは個人差がとても大きい。</p>										
国語科	<p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 テンポよく楽しんで音読することはできるが, 正しい姿勢や集中は持続しにくい。</p>										
<table border="1"> <tr> <td> <ol style="list-style-type: none"> フラッシュ <ul style="list-style-type: none"> 数の分解 足し算・引き算 時計 まず計算 <ul style="list-style-type: none"> 10ます (10秒ずつ) 30ます (30秒) </td> <td> <table border="1"> <tr> <th>留意点</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○そろばんの指の動きを声に出して確認させ, 珠と足し算・引き算の動きを合致できるようにする。 ○まず計算では, 各自で目標時間を設定することで, 意欲的に取り組めるようにする。 </td> </tr> </table> </td> </tr> </table>		<ol style="list-style-type: none"> フラッシュ <ul style="list-style-type: none"> 数の分解 足し算・引き算 時計 まず計算 <ul style="list-style-type: none"> 10ます (10秒ずつ) 30ます (30秒) 	<table border="1"> <tr> <th>留意点</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○そろばんの指の動きを声に出して確認させ, 珠と足し算・引き算の動きを合致できるようにする。 ○まず計算では, 各自で目標時間を設定することで, 意欲的に取り組めるようにする。 </td> </tr> </table>	留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○そろばんの指の動きを声に出して確認させ, 珠と足し算・引き算の動きを合致できるようにする。 ○まず計算では, 各自で目標時間を設定することで, 意欲的に取り組めるようにする。 	<table border="1"> <tr> <td> <ol style="list-style-type: none"> 音読 <ul style="list-style-type: none"> お口の体操 五十音 早口言葉 雨ニモマケズ フラッシュ <ul style="list-style-type: none"> 反対の言葉 漢字 カタカナ ことわざ 聞き取り <ul style="list-style-type: none"> 説明的文章 </td> <td> <table border="1"> <tr> <th>留意点</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。 ○集中してリズムよく音読・フラッシュの問題ができるようにさせるために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。 ○2回行う説明の中で, キーワードは何かを確かめることで, 聞き取りの視点をもたせる。 </td> </tr> </table> </td> </tr> </table>		<ol style="list-style-type: none"> 音読 <ul style="list-style-type: none"> お口の体操 五十音 早口言葉 雨ニモマケズ フラッシュ <ul style="list-style-type: none"> 反対の言葉 漢字 カタカナ ことわざ 聞き取り <ul style="list-style-type: none"> 説明的文章 	<table border="1"> <tr> <th>留意点</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。 ○集中してリズムよく音読・フラッシュの問題ができるようにさせるために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。 ○2回行う説明の中で, キーワードは何かを確かめることで, 聞き取りの視点をもたせる。 </td> </tr> </table>	留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。 ○集中してリズムよく音読・フラッシュの問題ができるようにさせるために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。 ○2回行う説明の中で, キーワードは何かを確かめることで, 聞き取りの視点をもたせる。
<ol style="list-style-type: none"> フラッシュ <ul style="list-style-type: none"> 数の分解 足し算・引き算 時計 まず計算 <ul style="list-style-type: none"> 10ます (10秒ずつ) 30ます (30秒) 	<table border="1"> <tr> <th>留意点</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○そろばんの指の動きを声に出して確認させ, 珠と足し算・引き算の動きを合致できるようにする。 ○まず計算では, 各自で目標時間を設定することで, 意欲的に取り組めるようにする。 </td> </tr> </table>	留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○そろばんの指の動きを声に出して確認させ, 珠と足し算・引き算の動きを合致できるようにする。 ○まず計算では, 各自で目標時間を設定することで, 意欲的に取り組めるようにする。 								
留意点											
<ul style="list-style-type: none"> ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○そろばんの指の動きを声に出して確認させ, 珠と足し算・引き算の動きを合致できるようにする。 ○まず計算では, 各自で目標時間を設定することで, 意欲的に取り組めるようにする。 											
<ol style="list-style-type: none"> 音読 <ul style="list-style-type: none"> お口の体操 五十音 早口言葉 雨ニモマケズ フラッシュ <ul style="list-style-type: none"> 反対の言葉 漢字 カタカナ ことわざ 聞き取り <ul style="list-style-type: none"> 説明的文章 	<table border="1"> <tr> <th>留意点</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。 ○集中してリズムよく音読・フラッシュの問題ができるようにさせるために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。 ○2回行う説明の中で, キーワードは何かを確かめることで, 聞き取りの視点をもたせる。 </td> </tr> </table>	留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。 ○集中してリズムよく音読・フラッシュの問題ができるようにさせるために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。 ○2回行う説明の中で, キーワードは何かを確かめることで, 聞き取りの視点をもたせる。 								
留意点											
<ul style="list-style-type: none"> ○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。 ○集中してリズムよく音読・フラッシュの問題ができるようにさせるために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。 ○2回行う説明の中で, キーワードは何かを確かめることで, 聞き取りの視点をもたせる。 											

学年	内容 (教科)	指導者	教室
2年1組	まず計算, 時刻・掛け算フラッシュ (算数科) 聞き取り, 反対の意味の言葉フラッシュ (国語科)	舛上 敏成	2年1組
算数科	<p>【ねらい】 集中して計算に取り組み, 時刻や掛け算の既習事項の定着を図る。</p> <p>【児童の実態】 既習事項をフラッシュで答える際に, つまづく児童がいる。</p>	国語科	<p>【ねらい】 説明的文章から大事なことを落とさないように集中して聞く態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 メモを取って話を聞こうとしているが, 話のあらましや要点を落とすことがある。</p>
1 まず計算	<p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の目標の時間や問題数を意識して取り組ませる。 ○途切れることなく集中して取り組めるように, テンポよく問題を提示する。 	1 聞き取り	<p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話のあらましをつかめるよう, 2回文章を聞かせる。1回目には, メモを取らせずに聞かせる。 ○フラッシュでは, 正しくはっきりと言わせる。
・掛け算		・説明的文章	
2 フラッシュ		2 フラッシュ	
・時刻		・反対の意味の言葉	
・掛け算			

学年	内容 (教科)	指導者	教室
2年2組	音読, ローマ字・百人一首フラッシュ (国語科) まず計算, 長さ・かさフラッシュ (算数科)	才谷 瑛一	2年2組
国語科	<p>【ねらい】 口形や発音, 姿勢に気を付けて集中して取り組む態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 大きな声で読むことができるが, 正しくはっきりと発音することに課題がある。</p>	算数科	<p>【ねらい】 最後まで集中して取り組むとともに, 単位換算や掛け算の定着を図る。</p> <p>【児童の実態】 自己目標を立て計算に取り組むことができるが, 単位換算を苦手とする児童がいる。</p>
1 音読	<p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズムよく集中して音読するために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。 ○全員が集中して取り組むことができるよう, テンポ良くフラッシュを提示する。 	1 まず計算	<p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○時間や正答数等の目標を立て, 目標を意識して取り組ませる。 ○単位換算・掛け算の問題に意欲的に取り組めるよう, 全体や個で答える場を設定する。
・五十音		・足し算	
・早口言葉		・掛け算	
・尋胡隠君		2 フラッシュ	
・雨ニモマケズ		・長さ	
・坊っちゃん		・かさ	
2 フラッシュ		・掛け算	
・ローマ字			
・百人一首			

学年	内容 (教科)	指導者	教室								
3年1組	音読, リズム国語辞典・リズム漢字フラッシュ, 聞き取り (国語科) 100問割り算, 大きな数, 長さフラッシュ (算数科)	谷川 友弥	3年1組								
<table border="1"> <tr> <td>算数科</td> <td> <p>【ねらい】 自分の目標に向かって集中して問題に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 自己の目標をもち、意欲的に取り組むが、計算の速さや正確性に欠ける児童もいる。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>1 100問割り算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまりのある割り算 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな数 ・長さ </td> <td> <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでのタイムを振り返らせ、意欲的に問題に取り組ませる。 ○形態を変えたり、テンポよくフラッシュを提示する。 </td> </tr> </table>		算数科	<p>【ねらい】 自分の目標に向かって集中して問題に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 自己の目標をもち、意欲的に取り組むが、計算の速さや正確性に欠ける児童もいる。</p>	<p>1 100問割り算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまりのある割り算 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな数 ・長さ 	<p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでのタイムを振り返らせ、意欲的に問題に取り組ませる。 ○形態を変えたり、テンポよくフラッシュを提示する。 	<table border="1"> <tr> <td>国語科</td> <td> <p>【ねらい】 はっきりと伝わる声で音読したり、集中して必要な情報を聞き取ったりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 大きな声ではっきりと音読できるが、抑揚をつけて音読することが難しい児童もいる。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・偶成 ・将に東遊せんとし壁に題す ・平家物語 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム国語辞典 ・リズム漢字 <p>3 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章 </td> <td> <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○声の抑揚や伝える声を意識して音読させる。 ○大事なことを選んでメモするようにさせる。 </td> </tr> </table>		国語科	<p>【ねらい】 はっきりと伝わる声で音読したり、集中して必要な情報を聞き取ったりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 大きな声ではっきりと音読できるが、抑揚をつけて音読することが難しい児童もいる。</p>	<p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・偶成 ・将に東遊せんとし壁に題す ・平家物語 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム国語辞典 ・リズム漢字 <p>3 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章 	<p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○声の抑揚や伝える声を意識して音読させる。 ○大事なことを選んでメモするようにさせる。
算数科	<p>【ねらい】 自分の目標に向かって集中して問題に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 自己の目標をもち、意欲的に取り組むが、計算の速さや正確性に欠ける児童もいる。</p>										
<p>1 100問割り算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまりのある割り算 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな数 ・長さ 	<p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでのタイムを振り返らせ、意欲的に問題に取り組ませる。 ○形態を変えたり、テンポよくフラッシュを提示する。 										
国語科	<p>【ねらい】 はっきりと伝わる声で音読したり、集中して必要な情報を聞き取ったりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 大きな声ではっきりと音読できるが、抑揚をつけて音読することが難しい児童もいる。</p>										
<p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・偶成 ・将に東遊せんとし壁に題す ・平家物語 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム国語辞典 ・リズム漢字 <p>3 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章 	<p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○声の抑揚や伝える声を意識して音読させる。 ○大事なことを選んでメモするようにさせる。 										

学年	内容 (教科)	指導者	教室								
3年2組	音読, ことわざ・リズム国語辞典フラッシュ (国語科) 地図記号プリント, 地図記号・八方位フラッシュ (社会科)	川嶋 佳那美	3年2組								
<table border="1"> <tr> <td>国語科</td> <td> <p>【ねらい】 はっきりと伝わる声で音読したり、語句の理解を深めようとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 声の大きさ、速さに気を付けて音読することはできるが、抑揚や伝える声を意識することは不十分である。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・俳句 ・蜘蛛の糸 ・枕草子 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことわざ ・リズム国語辞典 </td> <td> <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○声の抑揚や伝える声を意識して音読させる。 ○テンポよくフラッシュを提示し、集中して取り組ませる。 </td> </tr> </table>		国語科	<p>【ねらい】 はっきりと伝わる声で音読したり、語句の理解を深めようとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 声の大きさ、速さに気を付けて音読することはできるが、抑揚や伝える声を意識することは不十分である。</p>	<p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・俳句 ・蜘蛛の糸 ・枕草子 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことわざ ・リズム国語辞典 	<p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○声の抑揚や伝える声を意識して音読させる。 ○テンポよくフラッシュを提示し、集中して取り組ませる。 	<table border="1"> <tr> <td>社会科</td> <td> <p>【ねらい】 目標をもって学習に取り組み、地図記号や八方位への理解を深めようとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 地図記号は定着してきているが、八方位を答えるのに時間を要する児童がいる。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>1 地図記号プリント</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四方位・八方位 ・地図記号 </td> <td> <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前回のタイムをふり返らせることで、意欲的に取り組ませる。 ○テンポよくフラッシュを提示し、集中して取り組ませる。 </td> </tr> </table>		社会科	<p>【ねらい】 目標をもって学習に取り組み、地図記号や八方位への理解を深めようとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 地図記号は定着してきているが、八方位を答えるのに時間を要する児童がいる。</p>	<p>1 地図記号プリント</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四方位・八方位 ・地図記号 	<p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前回のタイムをふり返らせることで、意欲的に取り組ませる。 ○テンポよくフラッシュを提示し、集中して取り組ませる。
国語科	<p>【ねらい】 はっきりと伝わる声で音読したり、語句の理解を深めようとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 声の大きさ、速さに気を付けて音読することはできるが、抑揚や伝える声を意識することは不十分である。</p>										
<p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・俳句 ・蜘蛛の糸 ・枕草子 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことわざ ・リズム国語辞典 	<p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○声の抑揚や伝える声を意識して音読させる。 ○テンポよくフラッシュを提示し、集中して取り組ませる。 										
社会科	<p>【ねらい】 目標をもって学習に取り組み、地図記号や八方位への理解を深めようとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 地図記号は定着してきているが、八方位を答えるのに時間を要する児童がいる。</p>										
<p>1 地図記号プリント</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四方位・八方位 ・地図記号 	<p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前回のタイムをふり返らせることで、意欲的に取り組ませる。 ○テンポよくフラッシュを提示し、集中して取り組ませる。 										

学年	内容 (教科)	指導者	教室
4年1組	音読, 聞き取り (国語科) 都道府県名・広島県市町村フラッシュ (社会科)	川本 美紀子	4年1組
国語科 【ねらい】 はっきりと伝わる声で音読したり, 集中して必要な情報を聞き取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 大きな声で音読することはできるが, 全体でそろえて読んだり, 自分の考えをまとめたりすることが難しい児童もいる。		社会科 【ねらい】 最後まで集中してフラッシュに取り組み, 自分のめあてを達成しようとする態度を育てる。 【児童の実態】 フラッシュ問題に全員意欲的に取り組める。しかし, 47 都道府県すべて答えられる児童は6割程度で, クラス内に個人差が見られる。	
1 音読 ・五十音 ・落葉松 ・外郎売り 2 聞き取り ・説明的文章		留意点 ○集中して音読するため, 集団, グループ, 個と音読形態を工夫する。 ○聞き取りやすい声で問題文を読む。 ○大事な言葉をメモさせる。	
		1 フラッシュ ・都道府県名 ・県庁所在地 ・広島県市町村名 2 プリント ・都道府県名	
		留意点 ○テンポ良く問題を出す。 ○前回の記録を確認させ, めあてを意識させる。	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
4年2組	いろいろな四角形・角度フラッシュ, 割り算 (算数科) 回路図・星座フラッシュ (理科)	亀本 拓朗	4年2組
算数科 【ねらい】 最後まで集中してフラッシュや計算問題に取り組み, 自分のめあてを達成しようとする態度を育てる。 【児童の実態】 フラッシュ問題に全員意欲的に取り組める。しかし, 計算練習では時間内に終わる児童が6割程度で, 個人差が見られる。		理科 【ねらい】 目標に向かって学習に取り組み, 回路図や星座についての理解を深めようとする態度を育てる。 【児童の実態】 フラッシュ問題に全員意欲的に取り組める。しかし, 回路図については, 答えるのに時間がかかる児童が6割程度いる。	
1 割り算 ・1桁, 2桁で割る 割り算 2 フラッシュ ・いろいろな四角形 ・角度		留意点 ○テンポ良く問題を出す。 ○前回の記録を確認させ, めあてを意識させる。 ○終わった児童は裏の問題に取り組ませる。	
		1 フラッシュ ・回路図 ・星座	
		留意点 ○テンポ良く問題を出す。 ○回路図の問題では, 児童の様子を見ながら, テンポを調節する。 ○読み間違いは, 正しく読み直させる。	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
6年1組	音読, 対義語・接尾語フラッシュ, 聞き取り (国語科) 歴史・政治フラッシュ, プリント (社会科)	隆杉 佳代	6年1組
国語科 【ねらい】 工夫して音読し, 語彙力を高め, 意欲的に文章を聞き自分の考えをもととする態度を育てる。 【児童の実態】 意欲的に音読をするが, 文章を聞き取ったり自分の考えをもったりすることに課題がある。		社会科 【ねらい】 主体的に歴史的な出来事や人物の働きを理解しようとする態度を育てる。 【児童の実態】 進んで歴史人物を覚えているが, 歴史人物の業績や歴史的な出来事の知識の定着に課題がある。	
1 音読 ・ 論語 ・ 徒然草 2 フラッシュ ・ 対義語 ・ 接尾語 3 聞き取り ・ 説明的文章		留意点 ○読みの形態や古典の読み方を工夫して音読させる。 ○集中して取り組ませるために, 個人やグループで言わせる。 ○尾括型で, 字数制限を設けて自分の意見を書かせる。	
		1 フラッシュ ・ 日本国憲法 ・ 世界遺産 ・ 歴史 ・ 政治 2 プリント ・ 歴史	
		留意点 ○フラッシュは, テンポよく提示し, しっかり声を出させる。 ○フラッシュで学習したことを, プリントで定着させる。	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
たんぼぼ	計算聞き取り, 計算フラッシュ (算数科) 音読, カルタ取り, 聞き取り (国語科)	石倉 さゆり	たんぼぼ
算数科 【ねらい】 主体的に学習に参加し, 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 計算はできるが, 集中して聞き続けたり, 見続けたりすることは不十分である。		国語科 【ねらい】 リズムよく, 積極的に音読しようとする態度を育てる。 【児童の実態】 音読は意欲的に取り組むことができるが, 言葉が不明瞭で, リズムの良くないことがある。	
1 聞き取り 2 フラッシュ ・ 大きな数		留意点 ○聴き取りで集中させる。 ○テンポ良く答えさせる。	
		1 音読 ・ 五十音 ・ 学問ノススメ 2 ことわざカルタ 3 聞き取り	
		留意点 ○はっきりリズム良く読ませる。 ○一人ずつ読む場面を設ける。 ○カルタ取りで集中させる。 ○聴き取りで集中させる。	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
さくら (1年)	計算フラッシュ, プリント (算数科) 音読, ことわざ・反対言葉フラッシュ (国語科)	渡邊 翠大	さくら
算数科	<p>【ねらい】 主体的に学習に参加し, 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 計算問題に意欲的に取り組めるが, あせって考えて数の合成をまちがえることがある。</p> <p>1 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数の合成分解 ・足し算, 引き算 <p>2 プリント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足し算 50 問 <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テンポ良く答えさせる。 ○目標時間を設定させ, 意欲的に問題を解けるようにする。 	国語科	<p>【ねらい】 リズムよく, 積極的に音読したり, 大事なことを落とさずに聞いたりする。 【児童の実態】 音読はリズムに乗って素早く言うことができる。正しく, 漢字や平仮名の読み書きができる。</p> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・しゃぼんだま <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字 ・反対言葉 <p>3. 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学的文章 <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム良く読ませる。 ○はっきり読ませる。 ○登場人物の特徴や様子に着目させる。

学年	内容 (教科)	指導者	教室
さくら (5年)	計算フラッシュ, プリント (算数科) 音読, ことわざ・反対言葉フラッシュ (国語科)	渡邊 翠大	さくら
算数科	<p>【ねらい】 主体的に学習に参加し, 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 計算問題に意欲的に取り組めるが, 正しい商を素早く立てることが苦手である。</p> <p>1 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛け算九九 <p>2 プリント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛け算 100 ます計算 ・割り算 50 問 <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テンポ良く答えさせる。 ○商の見通しをもたせて, 児童がたくさん問題を解けるようにする。 	国語科	<p>【ねらい】 リズムよく, 積極的に音読したり, 大事なことを落とさずに聞いたりする。 【児童の実態】 音読はリズムに乗って素早く言うことができるが, 話の要点をまとめながら聞くことは苦手である。</p> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・平家物語 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローマ字 ・ことわざ <p>3. 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学的文章 <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム良く読ませる。 ○はっきり読ませる。 ○何に注意して聞くのかを伝える。

「空き家問題 アクション・プラン」

本単元で育成する資質・能力

課題発見・解決力・主体性・積極性・尾道市民としてのアイデンティティ

1 単元について

- 本校における総合的な学習の時間の目標及び本単元で育てたい資質・能力は以下の通りである。

郷土を素材とした活動や体験を通して、課題を自ら見出し、仲間と協力して探究活動に取り組む態度を育てるとともに、郷土への愛着を深め、郷土のよさを守ろうとする態度を育てる。本単元では、課題発見・解決力（スキル）、主体性・積極性（意欲・態度）、尾道市民としてのアイデンティティ（価値観・倫理観）の資質・能力を育てる。

(1) 単元観

本単元においては、地域貢献を図る探究的な学習を行うことを通して、地域の空き家問題を取り上げ、児童自ら課題を発見し、解決方法を考えて実行することで、児童の課題発見・解決力（スキル）と、主体性・積極性（意欲・態度）、尾道市民としてのアイデンティティ（価値観・倫理観）を育てることをねらいとしている。

本教材は、土堂地区の空き家問題を取り上げることで児童の関心を高め、1学期の単元「映画のまち尾道」で学習した尾道の風景のよさや尾道市民の心の豊かさを既習として、地域というフィールドを存分に活用しながら問題解決に向けて探究するために適した教材である。児童は地域の一員として問題解決に参画することで、尾道市民としてのアイデンティティを高め、自己の生き方を考える際においても適した教材である。

また、本単元は国語科の「話す・聞く」学習や「書く」学習との関連も考慮し、児童が主体となって話し合い、収集した資料を基にまとめて表現する言語活動を行い、教科学習における探究的な学習を進めることもねらいとしている。

(2) 児童観

課題発見・解決学習の実態

質問紙調査^{*}の結果、以下の実態が見られた。

課題設定では、「自分で課題を決めている」と回答した児童が約81%であった。また、課題設定時の難しさとしては「調べたいことが多くて選べない」が約48%、「調べたいことが思いつかない」が約39%であり、学級を二分する結果となった。

情報収集では、これまでに経験した情報収集の方法は一人平均3個で、収集を経験しているが方法として自覚していない児童もいる。

整理・分析では、これまでに経験した整理・分析の方法は一人平均1個で、整理・分析の経験自体が不足していると推察される。

まとめ・創造・表現では、調べたり分かたりしたことを伝える活動でこれまでに経験した方法は一人平均1.5個で、表現方法が固定化しており、経験の不足や、創造したり実行したりする活動の不足などもあげられる。

さらに昨年度までの解決学習の課題から、体験活動の不足や課題解決プロセスのパターン化、教師による支援過多、教科との関連もあげられる。

※第4期中核教員研修(平成27年6月12日)

(3) 指導観

本単元の課題発見・解決学習では、特に以下の点を重点に取り組む。課題設定では、学習課題を自ら発見させるため、市のランキングを知ったり、地域の人から市の現状について話を聞いたりする活動を設定する。

情報収集では、実際に地域に出掛けて空き家を調べたり、問題解決に取り組んでいる地域の人から話を聞いたりするなど多様な方法で情報収集させる。

整理・分析では、シンキングツールを用いて情報を整理し分析する場を設定して、その方法を学ばせる。また、国語科の「話す・聞く」や「書く」学習と関連を図り、教科での課題発見・解決学習につなぐ。

まとめ・創造・表現では、整理・分析した情報を基に空き家問題解決プランを創造させる。中間発表の場を設定することで、推敲や修正をして、伝えたい事柄を整理にして分かりやすく表現する力を育てる。

実行では、解決プランを発信する場を設定することで、学習したことを表現する喜びや地域の一員として問題解決に参画しようとする意識を高める。

振り返りでは、単元全体を通して学び方に視点をあてて解決のプロセスを振り返らせたり、教科との関連を想起させたりして自己肯定感の向上を図る。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 地域の空き家問題の現状と取組、課題の概要を知り、解決に取り組む人々の思いや生き方を知る。（知識）
- 探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら解決方法を考え、目的意識をもって情報収集、整理・分析、自己評価するなど、問題を解決する方法を身に付ける。（スキル）
- 土堂地区の空き家問題の解決方法を考えることを通して、地域の役に立ちたいという思いをもって、主体的、協同的に課題を解決したり、自己の生き方を考えて実践したりしようとする。（意欲・態度）
- 地域の空き家の問題解決に向けて解決方法を創造し実行することで、地域の一員としての自覚をもち、尾道の昔ながらの風景やそこに住む人々の生き方を大切にす。（価値観・倫理観）

2 単元の評価規準

	知識	スキル	意欲・態度	価値観・倫理観
単元の評価規準	<p>地域には昔ながらの風景が多くあり、その景観を大切にしている人々の取組や思いがあることに気付いている。</p> <p>地域の空き家問題の現状や取組、今後の課題について概要を知っている。</p> <p>地域の問題解決に取り組む人々の思いや生き方の大体を知っている。</p>	<p>学習課題を解決するための方法を考えている。</p> <p>地域の問題を解決するために、目的や相手に応じて、調査方法、記録の仕方などに留意しながら調べたり表現したりしている。</p> <p>自分の学習や活動を振り返り、修正したり自己評価したりしている。</p> <p>教科との関連を図りながら問題解決をしている。</p>	<p>地域の問題を解決するために、自分にできる方法を主体的に考えている。</p> <p>他の人の意見も取り入れて自分の考えをよりよくしようとしている。</p> <p>これからの自分の生き方について考え、生活に生かしたいことを考えている。</p>	<p>地域の問題解決に向けて取り組むことの大切さを感じている。</p> <p>地域の一員としての自覚をもち、地域の風景や人々の生き方のよさや大切さを感じている。</p>

3 本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

本単元においては、地域の空き家問題を題材として取り上げ、空き家問題解決に向けて取り組んでいる地域の人々との連携を通して解決方法を多面的に考え、創造する活動を中心とした単元を構成することで、児童の主体的な課題発見・解決学習を支援する。これらのことを通して、地域の空き家問題の現状と人々の思いについての理解（知識）を深め、情報収集や整理・分析、振り返りなどを繰り返しながら探究活動に慣れることで課題発見・解決力（スキル）を育成する。また、地域のために役に立ちたいという思いを抱かせることで課題解決への主体性・積極性（意欲・態度）や、尾道市民としてのアイデンティティ（価値観・倫理観）を育成する。

4 指導計画（全30時間）

次	学習活動	資質・能力の評価 (評価方法)	教科の課題発見・解決学習
一	<p>課題の設定</p> <p>尾道のランキング※を知り、地域の現状について関心をもち、学習課題を設定する(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土堂小学校の周辺が日本遺産に登録された ・行ってよかった日本の展望スポット第4位 ・おすすめのサイクリングコース第1位 ・世界で最も美しいサイクリングロードベスト7 ・でも！全国住みたい街ランキングは第70位！ 	<p>尾道の住みたい街ランキングが低い理由について、具体的な土堂地区のようすをあげながら考えている。【主体性・積極性】(ワークシート)</p>	
	<p>どうして尾道の住みたい街ランキングが低いのか調べよう。 尾道を住みたい街にしよう。</p>		
二	<p>情報の収集</p> <p>尾道の現状について市役所の人に話を聞く。(1)</p> <p>現地に行って見学する。(2)</p>	<p>学習課題に対して関心をもち、進んで学習計画を立てている。【主体性・積極性】(ワークシート)</p> <p>大切なことを落とさないように、適切にメモを取っている。【課題発見・解決力】(ワークシート)</p>	
	<p>ふりかえり</p> <p>収集した内容と活動を振り返り、自己評価する。(1)</p> <p>課題の設定</p>	<p>スキルや意欲に関するコンピテンシーに基づいて自己評価し、次の目標を書いている。【課題発見・解決力】(ワークシート)</p>	
<p>尾道のよさを生かしながら土堂地区の空き家問題を解決する方法を考えよう。</p>			
	<p>学習計画を立てる。(1)</p> <p>解決方法を考え、話し合う。(1)</p> <p>依頼文を書き、準備をする。(1)</p>	<p>目的を明確にもち、それを解決するため方法を考え、伝えたいことを整理して質問文を書いている。【課題発見・解決力】(ワークシート)</p>	

<p>二 (取組の様子と人々の思い)</p>	<p>情報の収集 空き家再生に取り組んでいる人や地域に住む人、観光客などから話を聞く。(4)</p> <p>整理 収集した情報を整理する。(1)</p> <p>ふりかえり 収集した内容をまとめ、自己評価する。(1)</p> <p>整理・分析 尾道市民として自分たちができる解決方法は何かという視点で収集した情報を整理・分析する。(1)</p> <p>まとめ・創造・表現</p>	<p>大切なことを落とさないように、適切にメモを取っている。【課題発見・解決力】(ワークシート)</p> <p>収集した情報を、目的意識をもって整理している。【課題発見・解決力】(ワークシート) 地域のために取り組むことの素晴らしさを感じている。【尾道市民としてのアイデンティティ】(ワークシート、行動観察)</p> <p>スキルや価値観などのコンピテンシーに基づいて自己評価し、次の目標を書いている。【課題発見・解決力】(ワークシート)</p> <p>収集した情報を整理し、自分たちにできることの視点で分析している。【課題発見・解決力】(ワークシート)</p>	<p>国語科 「立場を決めて討論をしよう」(9)</p>
<p>土堂地区の空き家を減らしたい。 ホームページを作って、市役所やNPOなどの人に見てもらおう。そして、世界へ発信しよう。</p>			
<p>三 (解決プランの創造・実行)</p>	<p>表現する内容を考え、作成する。(国語科で) (例) 「空き家の現状、取組の内容、生活の不便さ、町や人のよさ」をまとめ、全国の人に発信する。不足している情報を調べる。(国語科で)中間発表会を行う。(2)</p> <p>内容を修正する。(2)</p> <p>ふりかえり 活動を振り返り、自己評価する。(1)</p> <p>実行 ゲストティーチャー(市役所やNPOなどの人)に発表する内容を決め、練習する。(6)</p> <p>ゲストティーチャーに発表する。(2) ホームページを発信する。(1)</p>	<p>整理した情報を効果的に用いて、プランを完成させている。【課題発見・解決力】(成果物) 問題を解決するために自分でアイデアを出し、解決しようとしている。【主体性・積極性】(成果物、行動観察) 自分の意見や知識と比べながら発表を聞いて感想を述べたり書いたりしている。【課題発見・解決力】(ワークシート、行動観察) 他の人の意見も取り入れて改善案を考えている。【主体性・積極性】(ワークシート、行動観察)</p> <p>スキルや意欲などのコンピテンシーに基づいて自己評価し、次の目標を書いている。【課題発見・解決力】(ワークシート)</p> <p>自分の立場を明確にし、根拠を明らかにして考えを表現している。【課題発見・解決力】(ワークシート、行動観察) 地域の一員として地域の活性化について考えることの大切さに気付き、自分にできることを考えている。【尾道市民としてのアイデンティティ】(ワークシート、行動観察)</p>	<p>国語科 「資料を生かして考えたことを書こう」(7)</p>
<p>四 (振り返り)</p>	<p>ふりかえり 単元で身に付いた力と学び方を振り返り、自分の生き方を考える。(1)</p>	<p>スキルや意欲、価値観、知識などのコンピテンシーに基づいて自己評価し、次の目標を考えている。【課題発見・解決力】(ワークシート) これからの自分の生き方について考え、生活に生かしたいことを考えている。【主体性・積極性】(ワークシート)</p>	

※「行ってよかった日本の展望スポット2014(トリップアドバイザー)・・・全国第4位 尾道千光寺
「おすすめのサイクリングコース」(日経プラスワン・何でもランキング, 2010)・・・全国第1位
「世界で最も美しいサイクリングロード」(アメリカ・CNN)・・・ベスト7
「全国住みたい街ランキング2014」(SBIライフリビング株式会社)・・・第70位

(引用: ゆうこうダイジェストNo. 1, 平谷祐宏後援会, 2015)

5 本時の展開（15，16／30） ※75分を想定

(1) 本時の目標

- ・ 収集した情報の中から、自分たちができることは何かという視点で情報を整理したり、新しい方法を創造したりすることができる。【課題発見・解決力】

(2) 観点別評価規準

- ・ 自分たちができることを考え、明確にして整理している。【課題発見・解決力】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する児童への支援（◆）		評価規準（評価方法） 資質・能力（★）
	T1	T2	
1 これまでの学習を想起する。	・ 空き家再生にむけた取組や人々の思いを想起させる。	・ 児童の感想や本時のめあてを板書する。	
2 めあてを設定する。	たくさんの人に土堂地区に住んでもらえるよう、自分たちができる方法を考えよう。		
3 個人で学習をまとめる。	・ 付箋紙に解決方法と名前を書かせ、ワークシートに貼らせる。 ◆ 質問しながら思いを引き出す。	・ 収集した情報を基に、自分たちが今できること、大人になってできそうなことの視点で整理していき、自分たちの主張を焦点化していくことを伝える。	★ 自分たちにできることを考え、内容と方法などを整理している。【課題発見・解決力】（ワークシート）
4 グループで交流し整理する。	・ シンキングツール（ピラミッド・チャート）を板書する。	・ 付箋紙に解決方法と名前を書かせ、ワークシートに貼らせる。 ◆ 質問しながら思いを引き出す。	
5 全体で交流し合ってまとめる。	・ グループで交流し、まとめさせる。 ◆ 時間不足のグループを支援する。	・ グループで交流し、まとめさせる。 ◆ 時間不足のグループを支援する。	
6 方法を決める。	・ 交流した内容や気付いたことを発表させる。 ・ 古い物も大切に生かして空き家問題を解決しようとしていることの素晴らしさに気付かせる。 ・ リーフレットやホームページなど可能な方法を出させる。	・ 交流した内容や気付いたことを発表させ、ピラミッド・チャート等で板書する。 ・ 大人になってからできることを考えていることの素晴らしさに気付かせる。 ・ 児童から出た意見を板書する。	
7 振り返る。			
8 個人で解決プランを考える。	・ 個人でワークシートに原案と理由を書かせる。	・ 個人でワークシートに原案と理由を書かせる。	
9 新たな学習課題を発見する。	・ 書いていて困ったことを出させ、まとめ方を勉強するための方法を考えさせる。	・ 国語の教科書が使えないか問いかける。	
10 国語の学習課題につなげる。	国語で「資料のまとめ方」を学習して、総合に生かそう。		※国語科との関連

単元名

「おはなしの すきな ところを見つけよう」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の「C 読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

(1) ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

(1) 単元観

本単元では、登場人物の行動や会話文、挿絵に着目して想像を広げながら楽しんで読むことをねらいとする。その際、学習指導要領「C 読むこと」の言語活動例「オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること」を具体化し、レオ＝レオニ作品の校内貸出冊数を増やすという課題解決のために、登場人物の行動や場面の様子を表す語句や会話文、挿絵に着目させ、登場人物に宛てて手紙を書いたり、想像を広げて音読させたりしながら、6年生に紹介するという言語活動を通して指導する。

本教材は、主人公スイミーが、知恵と勇気を発揮し、仲間と力を合わせて平和な暮らしを取り戻す物語である。また、スイミーの行動によって場面が展開していく構成、体言止めや、倒置法、比喩表現などによって場面の様子が想像を広げて読みやすい。そして、レオ＝レオニ作品は登場人物が特徴的であり、その行動や場面の移り変わりが挿絵とともに分かりやすいので、好きな場面を選んで紹介する活動に適していると考えた。

そして、1年生のこの時期に、課題解決のために視点を明らかにしながら本を紹介する活動を仕組むことで、低学年の「読むこと」の目標に迫りながら、中学年「C 読むこと」の目標である「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付ける。」ことを見通した指導を行うことができると考え、本単元を設定した。

(2) 児童観

国語科の実態

本学級の児童は、平仮名と片仮名、配当漢字の読み書きを一通り終え、本読みや読書に興味・関心が高まっている。読書が好きな児童は24名全員であり、読める文が増えたことで内容のおもしろさにも気付けるようになってきた。しかし、文字の連なりを言葉としてのまとまりで認識できる児童は14名（音読の評価）であり、書かれていることが具体的にはどのような状況であるか叙述をもとに自分の知識や経験と結び付けながら想像できる児童は9名（単元テスト評価）である。

このことから、文字のまとまりを言葉として認識したり、言葉の意味を考え前後の言葉と結び付けて文脈から様子や気持ちを想像したりすることが不十分である。

資質・能力に関する実態

学習の振り返りでは、どんな力が身についたのかについて、学習課題や学習内容から自分の言葉で表現することができる児童は17名であり、メタ認知能力が少しずつ定着してきている。

しかし、語彙の少なさから、発表の際に、自分の考えを表す言葉を「嬉しい」「悲しい」等抽象的な言葉に限定してしまう様子が見られる。

以上のことから、自分の感情や想像を言葉にしたり、友達の考えや既習事項、自分の経験をつなげて考えたりする思考力・表現力に課題があると言える。

(3) 指導観

レオ＝レオニ作品を並べたコーナーを教室に設置し、作品に親しめる環境をつくり、そのおもしろさを日々味わわせておくところから本単元を始める。

単元の冒頭では、教材文の好きなところを思い思いに発表させ、同時になかなか上手く伝わらない思いも持たせる。そして、土堂小学校で1学期にレオ＝レオニ作品を借りた児童が0名であったことを伝え、「こんなにおもしろいお話なのに、どうしてだろう。」と、問題意識を感じさせる。そこから、「レオ＝レオニさんの作品の好きなところを、6年生に紹介して、貸出冊数を伸ばそう」という活動目標を設定し、課題を「どうすれば好きなところが伝わるのか」とする。

家庭学習や毎時間開始時には音読を繰り返し取り組ませる。音読により、書かれていることを音声化し理解を深めたり、書かれていることを自分の経験や知識と結び付けて解釈し表現させたりすることができる。また、教材文の言葉を他の言葉と比べて比較したり、言葉の順序を入れ替えて提示したりして、印象の違いを考えさせることで、言葉にこだわって読む力を身に付けさせたい。

1学期から、物語や説明文を学んだ際、その読み方を「たからばこ」として定義付け、他教材でも活用できるよう掲示している。既習教材で身に付けた読みの力が他の教材でも活用できるよう、「たからばこ」のどの力を使って考えたのかを繰り返し問うことで、汎用的な読みの力を自覚させる。さまざまな語彙に触れさせる環境作りをすることで、自分の考えと合致した言葉を選んで使うことができると考える。感情を表す語彙表を掲示し、思考力・表現力を伸ばす手立てとする。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 課題解決のために、作品の好きなところを見つけて紹介しようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 作品の好きなところについて、登場人物の行動や会話に着目して想像を広げて読むことができる。(読むこと)

2 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
国語 の 学習 の 目標	課題解決のために、作品の好きなどところを見つけて、紹介しようとしている。	作品の好きなどところについて、登場人物の行動や会話に着目して想像を広げて読んでいる。	言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いている。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

レオ＝レオニ作品の貸出数を増やすために、作品を繰り返し読み、作品の好きなどところを視点に沿って紹介する活動を通して、言葉を通じて伝え合う価値を認識したり、友達の考えや既習事項、自分の経験をつなげて考えたりする思考力・表現力（スキル）を育むことができると考える。

4 指導計画（全12時間）

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
0	朝読書の時間や休憩時間に、レオ＝レオニの図書を読んだり、読み聞かせを聞いたりする。		
一	<p>ふりかえり 課題の設定</p> <p>前単元の物語文の読み方をふり返る。 1学期レオ＝レオニ作品の貸出冊数が0冊であったことを知り、たくさん読んでもらうために6年生にどうやっておもしろさを紹介すればよいかという課題を設定し、学習活動の相手・目的意識をもつ。(1)</p>	<p>教材文の好きなどところを友達に伝えようとしている。 【関・意・態】(行動観察)</p> <p>問題を知り、そこから課題意識をもち、課題解決のために内容を読みとる必然性を感じている。【関・意・態】(行動観察)</p>	<p>学習活動のゴールである相手と目的を明確にもち、単元の課題を設定している。 (行動観察)</p>
	<p>【本質的な問い】レオ＝レオニ作品の貸出数を増やすには、どうすればいいのだろう。</p> <p>【学習課題】お話の好きなどところを見付ける力を身に付けよう。</p>		
二	<p>情報の収集</p> <p>題名読みをして、内容を想像する。(1) 範読を聞いて話の大体をとらえ、好きなどところを思い出しに出し合う。(1)</p> <p>整理・分析</p> <p>叙述や挿絵に即して想像を広げながら読む。(4) 教材文の好きなどところを再考する。(本時7/12)</p>	<p>題名から、どんな内容なのか想像を広げ考えている。【読む】(ノート, 発言) お話の順番を正しく読み取ることができる。【読む】(ワークシート, 発言)</p> <p>語のまとまりや繰り返しの表現に気を付けながら音読している。 【読む】(行動観察)</p> <p>登場人物の行動から場面の様子や登場人物について想像しながら視点を意識して読んでいる。【読む】(ノート, 発言) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いている 【言語】(ノート)</p>	<p>課題解決のために、「もっといい方法はないかな」「どうすればいい紹介ができるかな」と問いをもちながら取り組んでいる。 (行動観察・ノート)</p>
三	<p>まとめ・創造・表現</p> <p>教材文で考えた紹介の方法を使って、自分で選んだ絵本をまとめる。(2)</p> <p>実行</p> <p>クラスの友達にリハーサルとして紹介し、評価し合い、改善する。(1) 6年生に自分で選んだ絵本を紹介する。(1)</p> <p>ふりかえり</p> <p>お話の好きなどところの紹介の仕方をまとめる。(1)</p>	<p>登場人物の行動から場面の様子や登場人物について想像しながら視点を意識して読んでいる。 【読む】(ノート, 発言)</p> <p>語のまとまりを意識したり、リズムに注意したりして、自分の作品を友達に紹介している。【読む】(行動観察) レオ＝レオニ作品の良さが伝わるよう自分の好きな場面を紹介しようとしている。 【関・意・態】(行動観察)</p> <p>本単元で学んだ物語の読み方を振り返っている。 【関・意・態】(行動観察)</p>	
課外	単元終了後、6年生から感想をもらったり、レオ＝レオニ作品の貸出数を図書委員会に聞いたりして、課題が達成できたかどうか確認する。		

5 本時の展開 (7/12)

(1) 本時の目標

これまで学んだことを振り返り、場面の様子や登場人物の行動に着目して、教材文の好きなところを再度見付けて話し合うことを通して、友達と学ぶ良さを実感し、3つの視点で好きなところを見付けることができる。

(2) 観点別評価規準

場面の様子や登場人物の行動をもとに、お話の好きなところを視点に沿って見付けている。

【読むこと】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (・) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 教科の指導事項 (○)
1 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵のカードを時系列に並び替えさせることで、内容の大筋をつかませられるようにする。 本時の振り返りの項目を提示することで、メタ認知能力の育成を図る。 	
もう一ど、好きなところを見つけよう。		
2 本時の見通しをもち、教材文を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> 2次1時間目で出合った、教材文の好きなところを掲示で確認し、本時の学習を終える時には好きなところが増えるよう見通しをもたせる。 声の強弱や速さを意識して音読できるよう指示することで、場面の様子やスイミーの気持ちを想起することができるようにする。 	
3 もう一度、教材文の好きなところを見付ける。	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習した①場面の様子②登場人物の行動③自分の経験と比べての3つの視点をもとに、好きなところを見付け直す。 ◆ 3つの視点ごとに色違いの付箋を準備することで、視覚的に視点を捉えやすくする。 	○ 場面の様子や登場人物の行動をもとに、お話の好きなところを視点に沿って見付けている。 【読む】(ノート)
4 自分の考えを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ペアで意見を交換させ、自分の考えを声に出して伝えることで、考えを整理させ、全体交流につなげられるようにする。 	
5 作者に手紙を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ どこに何を書くか、マス目入り黒板で提示する。 作者への手紙を書かせることで、作品の全体を捉えて、どんなところが好きなのかを自分の言葉でまとめさせる。 児童が選んだ作品との共通点・相違点も捉えさせることができるよう、手元に絵本を置いておくようにする。 	
6 まとめと振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> 視点を定めて好きなところを見付けながら読むと、楽しく読むことができることをまとめることで、汎用性をもった学びを見出せるようにする。 ①本時のめあてが達成できたか②すらすら音読ができたか③友達の発表をよく聞いたかの3点を3段階で評価し、さらに分かったことを振り返ることで、身に付いた力の自覚や学習意欲につなげられるようにする。 	

単元名

むかし話の紙しばいをせいこうさせよう

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 感性

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) オ 文章の内容と自分の経験を結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。
 カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

(1) 単元観

本単元では、「誰が(何が)」「どうなった」のか、展開のおもしろさを考えながら読むことを学習し、いろいろな昔話を読み、自分が見つけた昔話のおもしろさを伝えたり、進んで昔話を讀んだりすることをねらいとする。本単元では、「かきこじぞう」をきっかけにいろいろな昔話を読み、好きなお話を選んで、カードに書いて紹介したり、紙芝居を作ったりする言語活動を設定した。自分が好きなお話を選んで、カードに書いて紹介するためには、誰が出てきて、どうなったからおもしろいという物語の展開を読み取る力が必要となる。また、いくつかの昔話を読み、友達に紹介する本を選ぶことを通して、主体的に読書の幅を広げていくことができると考える。

本教材「かきこじぞう」は、時と場所によって場面が分けられ、じいさまの行動を中心に読むことができる物語である。初めは、貧乏でお正月に餅の用意もできないじいさまとばあさまが、じぞうさまにかさをかぶせるという優しさによって贈り物を授かり、よい正月を迎えることができたという話である。また、昔話特有の言葉や表現による語り口調も楽しめる。昔話の典型にも近く、ほかの昔話を読む活動にも展開しやすい教材であるといえる。

そこで、本単元の学習では、1学期の「お手紙」の紙芝居をした経験や尾道の民話の紙芝居を聞いた経験をきっかけとして、紙芝居を成功させるためにできることは何か児童に考えさせながら主体的に学ばせたい。

(2) 児童観

国語科の実態

本学級の児童は、「国語科の時間が好き」と答える児童がほとんどである。お話を讀んだり、いろいろなことが分かったりすることを好きな理由に挙げているが、一方で長文を讀んだり、書いたりすることに抵抗を感じている児童が2名(19人中)いる。1学期には、尾道の民話の紙芝居を聞く機会があり、紙芝居に興味をもち、教材文「お手紙」の学習では、紙芝居の練習に意欲的に取り組み、1年生の前で紙芝居を発表することができた。

資質・能力に関する実態

「お手紙」の学習を通して、場面ごとに人物の様子や気持ちを押さえながら読む学習を行った。どの児童も叙述を手がかりに場面ごとの人物の様子や気持ちを読み取ることができた。「お手紙」のシリーズの「ぼうし」を読み、場面ごとの人物の気持ちを想像して表現することができた。作品のおもしろさを紹介する経験は少なく、おもしろさを捉えさせることに課題があると感じる。

(3) 指導観

『「かきこじぞう」の紙芝居を成功させよう』というめあてを立てることで、場面ごとに場面の様子を読み取らせたり、音読の練習に主体的に取り組めたりするようにする。1学期にも、「お手紙」の紙芝居を1年生に発表する経験をしているので、それぞれの児童が、見通しを持って、主体的に学習活動に参加することができると考える。また、グループ活動を通して、友達と主体的に関わりながら、個々の思考を深めていきたい。

「かきこじぞう」のおもしろさを紹介する活動を通して、だれが出てきて、どうなったからおもしろいという、物語の展開を読み取る力を育成する。おもしろさの視点は、「大きく変わったこと」「人物」「言い方やことば」として、「かきこじぞう」だけでなく、他の昔話でもおもしろさを見つけ、紹介できるようにする。おもしろさを自分の解釈を加えて友達に紹介する活動を通して、読書を通して、知らないことを知ったり、経験のないことを体験したりして、読書の楽しさを感じさせ、本単元で育成しようとする感性を育てていきたい。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 昔話のおもしろさを見つけ、友達に紹介したり、紙芝居の練習に取り組んだりしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 昔話を讀んで、昔話のおもしろさを見つけ、カードに書いて伝え合うことができる。(読むこと)
- 紹介カードを書くために、おもしろいと思ったところを思い出して書くことができる。(書くこと)

2 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	○ 昔話のおもしろさを見つけ、友達に紹介したり、紙芝居の練習をしたりしている。	○ 場面ごとの、じいさまとばあさまの様子を思い浮かべながら読んでいる。 ◎ 昔話を読んで、昔話のおもしろさを見つけ、カードに書いて伝え合っている。	○ 紹介カードを書くために、おもしろいと思ったところを思い出している。	○ 「誰が」「どうした」に気をつけて、人物がしたことを読み取っている。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元において、昔話の紹介カードと紙芝居を作るという目的を設定し、教材文について話し合い、場面ごとに想像を広げて読むことを通して、叙述を手がかりに大まかな展開を捉えることのできる思考力・表現力（スキル）や経験のないことを体験する読書の楽しさ（価値観・倫理観）を育成したりすることができる。と考える。

4 指導計画（全14時間）

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p>課題の設定</p> <p>全文を読み、紙芝居をするという見通しをもたせる。(1)</p>	<p>「かさこじぞう」の読み聞かせを聞き、昔話への興味や関心をもち、紙芝居を成功させるための考えをもつことができる。</p> <p>【関・意・態】(行動観察)</p>	
	<p>【本質的な問い】紙芝居を成功させるために、どんなことをしたらよいだろう。</p> <p>【学習課題】昔話「かさこじぞう」の紙芝居を作って発表しよう。</p>		
二	<p>情報の収集 整理・分析</p> <p>挿絵を並び替え、5つの場面を確かめる。昔の言い方や言葉を見つける。(2)</p>	<p>挿絵を並び替え、場面分けをしている。</p> <p>【関・意・態】(ノート)</p> <p>昔の言い方や言葉のおもしろさなどに気付くことができる。 【言語】(行動観察)</p>	
	<p>人物のしたことや誰の会話文であるかを確かめながら、全文を読む。(2)</p>	<p>人物のしたことや会話文を見つけている。</p> <p>【読む】(ノート、発言)</p>	
	<p>第一場面の人物の気持ちや行動について話し合い、読み取る。(1)</p>	<p>じいさまとばあさまの暮らしぶりや二人の気持ちを、叙述をもとに読み取っている。</p> <p>【読む】(ノート・発言)</p>	
	<p>第二場面の人物の気持ちや行動について話し合い、読み取る。(1)</p>	<p>にぎわう大年の市の様子やかさを売るじいさまの気持ちを、叙述をもとに想像しながら読んでいる。 【読む】(ノート・発言)</p>	
	<p>第三場面の人物の気持ちや行動について話し合い、読み取る。(1)</p>	<p>じいさまの地蔵様に対する言動を読み取り、家に向かうじいさまの気持ちを、叙述をもとに想像しながら読んでいる。</p> <p>【読む】(ノート・発言)</p>	<p>叙述を手がかりに内容や大まかな展開を捉えている。</p> <p>【思考力・表現力】(ノート)</p>
	<p>第四場面の人物の気持ちや行動について話し合い、読み取る。(1)</p>	<p>家の中のじいさまとばあさまの言動を読み取り、二人の様子や気持ちを、叙述をもとに想像しながら読んでいる。</p> <p>【読む】(ノート、発言)</p>	<p>読書を通して、知らないことを知ったり、経験のないことを体験したりして、読書の楽しさを感じている。 【感性】(ノート)</p>
	<p>第五場面の人物の気持ちや行動について話し合い、読み取る。(1)</p>	<p>真夜中の出来事の様子とそのときのじいさまとばあさまの気持ちを、叙述をもとに想像しながら読んでいる。</p> <p>【読む】(ノート、発言)</p>	

三	まとめ・創造・表現 人物の行動や変化を中心に、おもしろさを見つける。(2) (本時 11/14)	「かさこじぞう」を読んで、自分が感じた大きくかわったことや人物、言い方や言葉のおもしろさをカードに書いている。 【書く】 (ノート)
	実行 ふりかえり 紙芝居を作成し、練習をする 紙芝居の発表をし、振り返りを行う。(2)	場面ごとの登場人物の行動や会話から想像したことを紙芝居に生かして、声の大小や速さ、間の取り方や声の質に気を付けて音読している。 【読む】 (行動観察)

5 本時の展開 (11/14)

(1) 本時の目標

「かさこじぞう」を読んで、自分が感じた大きくかわったところや人物、言い方や言葉のおもしろさをカードに書くことができる。

(2) 観点別評価規準

「かさこじぞう」を読んで、自分が感じた大きくかわったところや人物、言い方や言葉のおもしろさをカードに表現している。**【書くこと】**

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (・) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 教科の指導事項 (○)
1 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 「かさこじぞう」を音読し、おもしろさを想起する。 	
「かさこじぞう」のおもしろいところをカードに書いて伝えよう。		
2 昔話のおもしろさについてグループで振り返る。 3 おもしろさをカードにまとめる。 4 おもしろさについて話し合い、感想を発表したり、音読したりする。	<ul style="list-style-type: none"> 「かさこじぞう」のおもしろさを自分の解釈を加えながらグループ内を出し合う。 ◆ グループでおもしろさを交流し、考えをもたせやすくする。 グループのいろいろな友達と交流したことをもとに、おもしろさをカードに書く。 グループで出し合ったことを全体で発表し、「大きく変わったこと」「人物」「言い方や言葉」の三つの視点でまとめながら、板書する。 紙芝居に活かせるように、見つけたおもしろさを音読で表現させる。 	○ 「かさこじぞう」を読んで、自分が感じた大きくかわったところや人物、言い方や言葉のおもしろさをカードに表現している。 【書く】 (カード)
5 まとめと振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> 自分がこれまで読んできた昔話にも本時で見つけたようなおもしろさがないか振り返る。 	

「音読で感動を伝えよう！～斎藤隆介の世界～」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

(1) ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むこと。

(1) 単元観

本単元では、単元のゴールを「音読で物語の感動を伝えよう」と設定することで、叙述を基に場面の移り変わりに注意しながら登場人物の性格や気持ちの変化を読み取り、読み取ったことを音読で表現する力を育てることをねらいとしている。

本教材は、小見出しのついた5つの場面で構成されている。地の文は語り手による民話調の言葉であたたく表現されており、各場面は、小見出しと美しい挿絵が入っている。夜のモチモチの木や、一人で外に出ることを怖がっていた臆病な豆太が、「じさま」のことを心から大切に思う気持ちから勇気を出す姿を通して、豆太の人物像について考えさせたい。これまで臆病だった豆太の勇気ある行動とは対照的に、再び「臆病な豆太」に戻ってしまうという作品の構成や、「豊かな自然とじさまの優しさに包まれて育った豆太は、いざという時には勇気が行動としてあらわれる」ことについてもとらえさせたい。また、斎藤隆介作品を読むことによって、「人間は誰でも、誰かを心から思う気持ちがあれば、勇気を出すことができる」という作品の主題にも迫らせたい。物語を読み、中心人物の変容を考える中で、作品の価値や本質に迫ろうとする力を他教材の読み取りでも生かしていきたいと思い本単元を設定した。

(2) 児童観

国語科の実態

3年生になり読書の幅も広がり、推薦指定図書を中心に意欲的に読書をする姿が見られる。「本を読むことは好きですか。」との質問に対して、100%の児童が好きと回答している。

これまでに児童は、6月教材「ゆうすげ村の小さな旅館」を通して、しかけのある物語をシリーズで読み広げた経験をもっている。4月教材「すいせんのラップ」では、登場人物ごとに音読を工夫するために叙述を基に想像しながら読んでいった。しかし、作品の主題に迫るような読み方や一人の人物の心情の変化や主題を音読で表現したことはなく、音読による表現が十分であるとは言えない。

資質・能力に関する実態

思考力については、自分の考えをもち伝えることはできるが、グループ活動後に自分の考えを深められる児童は少ない。自分の考えと友達のことを比較して自分の考えを振り返ることにより、さらに自分の思考を深められるような学習活動を仕組む必要がある。

表現力については、「音読をすることは好きですか。」という質問に18名の児童が肯定的回答をしていることから、多くの児童が喜んで音読をしていることが分かる。その反面、場面の様子を音読で表現することの難しさを感じている児童も多く、音読による表現力は十分であるとは言えない。

(3) 指導観

「音読で感動を伝えよう」という言語活動を設定する。自分が選んだ物語について中心人物の人物像や心情、心情の変化、場面の様子を音読で表現する活動を通して、登場人物の心情の変化や場面の様子を叙述に基づいて、想像して読む能力を育成できると考える。また、斎藤隆介作品をシリーズ読みすることを通して、斎藤隆介作品の主題にも迫りたい。

登場人物の人物像や心情や心情の変化をとらえさせるために、登場人物ごとに心情が読み取れる叙述を付箋に書き抜き、場面ごとにまとめる活動をして、自分の考えをもたせる。また、小グループでの交流を通して、登場人物の心情の変化や豆太とモチモチの木の関係の昼と夜の違いについて捉えさせた後、再考させ自分の考えを深めさせる。さらに本時では、斎藤隆介作品の登場人物の人物像や中心人物の心情の変化、主題を読み取らせた後、モチモチの木の中心人物である「豆太」と比較したり主題を比較したりすることを通して、物語をシリーズで読み、中心人物の心情の変化をとらえる中で、作品の価値や本質に迫ろうとする力を育成したい。

音読では、叙述をから読み取ったことや感じたことを基に工夫を考えさせる。その際、声の大きさや高さ、速さ、間等の読み方を工夫するための視点を提示することで、一人一人が主体的に工夫しやすくする。また、読書座談会と題して、斎藤隆介シリーズの他の作品の音読を聞くことを通してシリーズを通じての主題にも迫りたい。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 自分が選んだ物語の感動を、音読を工夫しながら表現しようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や心情、心情の変化を叙述を基に想像して読み、読み取ったことを音読で表現している。(読むこと)

2 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
単元の 評価規準	「モチモチの木」に興味をもち、斎藤隆介シリーズの物語を読もうとしている。	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格を会話や行動に着目して、叙述を基に想像して読んでいる。	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づき、紹介している。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元において、課題解決のために、物語の感動を音読で伝える活動を通して、登場人物の性格や心情、心情の変化を叙述を根拠に想像しながら読んだり、複数の物語を比較しながら読んだりする思考力（スキル）、読み取ったことを書いたり音読で表現したりする表現力（スキル）を育成することができると考える。

4 指導計画（全10時間）

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p>ふりかえり 課題の設定</p> <p>一学期の音読単元の振り返りから、「音読によって物語の感動を伝える」という課題を設定し、学習活動の目的意識をもつ。 学習計画を立てる。(1)</p>	<p>単元のゴールに向かって、どんな学習が必要かを考え、学習計画を立てている。 【関・意・態】(発言)</p>	<p>学習活動のゴールである目的を明確にもち、単元の課題を設定している。 【思考力・表現力】 (行動観察)</p>
	<p>【本質的な問い】音読によって斎藤隆介シリーズの絵本の感動を伝えるためには、どうすればよいのだろう。 【学習課題】・物語の感動を音読で伝える方法を学ぼう。 ・斎藤隆介作品の主題に迫ろう。</p>		
二	<p>情報の収集 整理・分析</p> <p>教材文を読み、初発の感想をもち交流する。(1)</p> <p>登場人物の行動や会話に着目して、豆太とじさまがどんな人物かを読み取る。(2)</p> <p>豆太とモチモチの木との関係や山の神様に対する気持ちについて読み取る。(1)</p> <p>これまでの学習を生かして、プレ読書座談会を行い、読みの工夫について考える。(1)</p> <p>斎藤隆介作品を読み、登場人物の人物像を読み取る。(1) (本時7/10)</p>	<p>物語の内容を正確にとらえ、感想や疑問をもっている。 【関・意・態】(ノート、発言)</p> <p>小グループで話し合いながら、豆太やじさまの行動を表す文や会話文に着目して、語り手の目線からそれぞれの人物像を読み取っている。 【読む】(ノート・発言)</p> <p>豆太とモチモチの木の関係の昼と夜との違いや、山の神様に対する気持ちについて読み取っている。 【読む】(ノート、発言)</p> <p>これまでに読み取ったことを生かして、モチモチの木を音読で工夫して表現している。 【読む】(音読)</p> <p>斎藤隆介作品を読んだ後、小グループでの交流を通して、登場人物の人物像や心情の変化をとらえている。 【読む】(ノート、発言)</p>	<p>叙述から想像を広げたり、自分の思いや考えを言葉や音読で表現したりする力を身に付けている。 【思考力・表現力】 (音読・ノート)</p>
	<p>実行</p> <p>斎藤隆介作品で読書座談会を行い、物語の感動や感想を伝え合う。(2)</p>	<p>自分が読み取った人物像や物語の感動を音読の工夫により表現している。自分が選んだ物語と「モチモチの木」を比べて考えている。 【読む】(音読)</p>	
	<p>ふりかえり</p> <p>読み取ったことを音読で表現する方法やコツをまとめる。 斎藤隆介作品について振り返る。(1)</p>	<p>物語を音読により表現することや斎藤隆介作品の世界について振り返っている。 【関・意・態】(行動観察)</p>	

5 本時の展開 (7/10)

(1) 本時の目標

自分が選んだ斎藤隆介作品を読み、叙述を基に、登場人物の人物像や心情の変化、中心人物の人物像や主題を読み取り、モチモチの木と比較しながら考えることができる。【読む】

(2) 観点別評価規準

自分が選んだ中心人物の人物像や心情の変化、主題について、場面の移り変わりに注意しながら行動や会話などの叙述を基に読み取ったり、モチモチの木と比較しながら考え音読で表現したりしている。【読む】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (・) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 教科の指導事項 (○)
1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの読み取りを振り返り、本時のめあてをたてる。 ルーブリックを提示することにより、学習の見通しをもたせやすくする。 	
モチモチの木とくらべながら、斎藤隆介シリーズを読もう。		
2 個人で読み取った登場人物の心情や心情の変化、場面の様子について小グループで話し合う。 (グループ→全体)	<ul style="list-style-type: none"> 中心人物の人物像や心情の変化について、グループ交流を通じて深める。 ◆ 各グループで話し合ったり、考えを付け加えたりしやすくするために付箋を用いて話し合わせる。 作者の伝えたいこと(物語の主題)をとらえさせる。 	○ 場面の移り変わりに注意しながら、叙述を基に登場人物の人物像や心情の変化を読み取っている。 【読む】 (ワークシート)
3 モチモチの木と比較して考える。	<ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだ物語と「モチモチの木」の豆太の人物像や主題と比較して考える。 自分が選んだ物語の中心人物に対する自分の考えをもつ。 ◆ 豆太の人物像について読み取った際のワークシートと同じ形式のワークシートを用いることにより人物像の共通点に気づきやすくする。 	
4 お気に入りの場面を選んで音読をする。	<ul style="list-style-type: none"> 読み取ったことをもとに、音読の工夫について考え、本文に書き込む。 登場人物の心情や場面の様子が伝わるように音読練習をする。 	○ 読み取ったことをもとに、音読の工夫をする。 【読む】(音読・ワークシート)
5 まとめと振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> モチモチの木と比較しながらまとめたり、ルーブリックに沿って振り返ったりすることにより、自分が身に付けた力を自覚し学習意欲につなげる。 シリーズを通した主題にも気付かせる。 	

「くらしの中の和と洋ブックを作ろう！」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の「C 読むこと」「B 書くこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

C(1) エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。

B(1) ウ 書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。

(1) 単元観

本単元は、文章の中にある対比構造を読み取ったり、調べたことを目的に応じて引用したりすることをねらいとしている。教材文に書かれていることとほかの資料で調べたことを、「くらしの中の和と洋ブック」にまとめ、紹介するという言語活動を設定している。

本教材は、暮らしの中の「住」における「和」と「洋」の違いやそれぞれの良さを対比して、わかりやすく説明したものである。そのため、文章の中にある対比構造を読み取らせることに適した教材である。また、「くらしの中の和と洋ブック」にまとめるという活動を設定することで、児童の視野を広げ、読み取りに続く、調べ学習への意欲につなげることができる。

本単元の学習においては、教材文の大まかな構成をとらえた上で、対比構造に注意しながら段落相互の関係をとらえることが必要となる。既習事項を生かし、指示語や接続表現、中心となる文や語句に着目することで、段落相互の関係をとらえさせていきたい。

(2) 児童観

学力調査等に関する実態

文と文の意味のつながりをとらえることができる児童は、68%、段落相互の関係をとらえることができる児童は76%、中心となる文や語をとらえることができる児童は72%であった。このことから、「読むこと」において、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考えることは十分でないことが分かる。

資質・能力に関する実態

「授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。」(72%)、「授業では、課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材したりしています。」(68%)に課題が見られた。自分の考えを持ってはいるもの、友達と考えを出し合いながら考えを深めたり、自分が知りたい情報を取り出し、整理したりすることが十分でないと考え。また、言葉を通じて積極的に人と関わり自己表現する主体性・積極性が十分でないと考え。また、課題を解決するための情報を集め、必要に応じて整理・分析し、まとめていく思考力・表現力に課題がある。

(3) 指導観

本単元では、「くらしの中の和と洋ブック」を作るという学習課題を設定し、児童が教材文を主体的に読み取る目的意識を持たせる。読み取る際には、教材文を形式段落ごとに順序を入れ替えたものを、まとまりごとに構成し直す活動を行う。そのことを通して、段落相互の関係を中心となる語をもとに考えたり、文章の構成、対比に気付かせたりすることができる。と考える。

「くらしの中の和と洋ブック」を作るために、必要な資料を探し、見つけた資料の中から必要な情報を収集し、整理させ、集めた情報を引用したり要約したりしながら調べたことを文章にまとめさせる。

導入では暮らしの中の和と洋を見付けさせ、自分がどの和と洋について調べていくのかを決める。そして、教材文を一つの資料ととらえ、資料から必要な情報を収集し、整理する方法を習得させる。教材文は「住」のみの記述であるため、「衣」や「食」についてグループを設定し情報収集活動を行う。その後、自分が集めた情報を持ち寄ってグループで整理させることで自分の考えを積極的に伝えようとする意欲を高めさせたり、友達と話し合っ自分の考えを深めたり広げたりする体験をさせたりして、課題とする資質・能力の向上を図る。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 問題を解決するために、進んで資料を探し、必要な情報を集めて「くらしの中の和と洋ブック」にまとめようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 自分の考えを述べたり調べたことを紹介したりするために、文章の必要な部分を引用したり要約したりしている。(読むこと)
- 調べたことをもとに「和」と「洋」を比較しながら理由や事例を挙げて文章を書いている。(書くこと)

2 単元の評価規準

	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
単元 の評価 規準	○くらしの中の「和」と「洋」の違いに関心を持ち、目的に応じて引用したり要約したりして、「くらしの中の和と洋ブック」を作ろうとしている。	○自分の考えを述べたり調べたことを紹介したりするために、文章の必要な部分を引用したりようやくしたりしている。	○調べたことをもとに、「和」と「洋」を比較しながら、理由や事例を挙げて文章を書いている。	○段落相互の関係に注意しながら、指示語や接続語の役割を理解し、自分で文章を書く際に用いている。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

「くらしの中の和と洋ブック」を作るために、情報収集・情報整理する方法や、集めた情報を引用したり要約したりしてブックにまとめる方法を教材文から学びながら、自分たちが調べたい「和」と「洋」について情報収集していく。小グループ学習を積極的に取り入れ、友達と考えを持ち寄ることによって、必要な情報を取捨選択する思考力・表現力を育成する。

4 指導計画（全15時間）

次	学習活動		資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p>課題の設定</p> <p>フィル先生が日本に来て、「和」と「洋」の違いで戸惑ったことを伝え、「和」と「洋」それぞれの良さをもっと知りたいと思っていること知り、解決方法を考え、単元の学習計画を立てる。(1) 自分が調べたい「和」と「洋」を決める。(1)</p>	<p>進んで暮らしの中の「和」と「洋」を探そうとしている。</p> <p>【関・意・態】(ノート、行動観察)</p>	
	<p>【本質的な問い】調べたことを目的に応じて引用したり要約したりするにはどうしたらよいだらう。 【学習課題】暮らしの中の「和」と「洋」を整理して、それぞれの良さをフィル先生にわかりやすく伝えるために「暮らしの中の和と洋ブック」を作ろう。</p>		
二	<p>情報の収集</p> <p>「くらしの中の和と洋」に書かれていることが、何をどのように比べて述べているかに注意して教材文に書かれている内容を読み取る。(2)(本時3/15)</p> <p>自分が調べたい「和」と「洋」について、いろいろな資料から調べ、必要な情報を集める。(2)</p> <p>整理・分析</p> <p>自分が集めた情報を、何をどのように比較するか、表に整理する。(2)</p>	<p>教材文を読んで、構成をとらえ、どのような点から和室と洋室の良さを読み取っている。</p> <p>【読む】(ノート・行動観察)</p> <p>いろいろな資料から、観点を明確にしてそれぞれの良さをまとめている。</p> <p>【読む】(ノート・行動観察)</p>	
三	<p>まとめ・創造・表現</p> <p>「くらしの中の和と洋」に書かれていることを引用や要約を使ってまとめる。(2) 自分が集めた情報を、引用したり要約したりしながら文章にまとめる。(2) 他の人のブックを読み、相互評価し合い、自分の文章を推敲する。(1)</p> <p>実行</p> <p>全体でブックを発表し合い、相互評価し合う。(1) ※後日、フィル先生に説明し、評価してもらう。</p>	<p>自分の考えを述べたり調べたりしたことを紹介するために、集めた情報を引用したり要約したりしている。</p> <p>【読む】(ブックの文章)</p> <p>「くらしの中の和と洋ブック」を読み合い、どのように情報を活用しているのかを確かめている。【読む】(発言、ノート)</p>	<p>自分が書いた文章について、視点をもって自己評価したり友達と相互評価したりしながら、推敲している。【思考力・表現力】</p> <p>言葉を通じて積極的に人と関わり自己表現している。【主体性・積極性】(ノート、行動観察)</p>
四	<p>ふりかえり</p> <p>単元の学習を振り返る。(1)</p>		

5 本時の展開 (4/15 時間)

(1) 本時の目標

教材文を読み、文章の構成をとらえることができる。【読む】

(2) 観点別評価規準

教材文を読んで、構成をとらえ、どのような点から和室と洋室の良さを比べているのかを読み取っている。【読む】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (・) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 教科の指導事項 (○)
1 前時の学習を想起する。	・ 前時のノートを見させて、学習内容を想起させる。	
2 学習課題を設定し、方法を確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">段落のまとまりに気を付けて並び替え、書かれていることを確かめよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループに分かれて、段落をまとまりにし、小見出しを付けてまとめる。 	
3 グループでまとめたものを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 和室と洋室の違い、どんな点から良さを比べているか、まとまりをとらえる手がかりになる言葉、比べていることがよく分かる言葉などを根拠に説明させる。 ◆ ホワイトボードを見せながら大きな声で発表できるよう支援する。 	○ 大事な言葉や比較表現などを手がかりにして、文章の構成をとらえてそれぞれの良さを読み取っている。 【読む】(ノート)
4 発表をもとに書かれている内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書いている内容を表に整理し、「くらしの中の和と洋ブック」を作る際の方法を確認する。 ◆ 板書を見ながら視点に沿ってノートに書かせる。 	
5 振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ①自分の考えを積極的に伝えることができたか。 ②学習の方法でうまくいったこと、または失敗したこと。(理由) ③次に試してみたいこと。 	

「尾道幸福論 -尾道の未来の町づくりを考えよう-」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第5学年及び第6学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

C(1) ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたたりすること。

カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

(1) 単元観

本単元は、第6学年2学期の尾道の町づくりを提案する総合的な学習の時間と横断的に実施する。「より説得力のある解決方法やプレゼンテーションをするには、どうすればいいか」という課題を発見した児童は、その課題を解決するために国語科で町づくりで大切な視点とプレゼンテーションの方法を学ぶ。この活動を通して、目的をもって複数の本や資料を読み比べ、内容を的確にとらえるとともに、それらを生かして総合的な学習の時間でより説得力のある解決方法やプレゼンテーションをする力につなげることをねらいとしている。

本教材は、益子町と三田市、海士町の事例が提示され、それらを通して、町づくりにおける大切な視点が住民主体の町づくりとバックキャストの考え方であることを知る。その後、プレゼンテーションの内容や方法が提示され、自分の郷土の町づくりにつなげられるよう示されている。これらのことから、目的に応じて文章の内容や説得の工夫をとらえるとともに、それを生かして書く力を身に付けるために適した教材である。

(2) 児童観

学力調査等に関する実態

平成28年度全国学力・学習状況調査の国語B3三(目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたることができるか)の結果は、平均正答率86.8%だった。このことから、「読むこと」において、読む目的を自覚し、自分の知識や経験、考えなどと関係付けながらかんたむ力に課題があると言える。

資質・能力に関する実態

本県の「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙を2月と6月に実施したところ、「授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。」に改善が見られた(86.5%→92.1%)。一方、自校作成の資質・能力テスト(目的に応じて必要な情報を取捨選択できるか)の結果が81.0%と課題が見られた。このことから、友達と考えを交流して自分の考えを深めることができた肯定的に評価する児童が増加している一方、実際には個の学力が十分向上したとは言い難く、必要な情報を精査・取捨選択するなど考えを深める思考力・表現力には依然として課題がある。

(3) 指導観

本単元では、主体的な読み手を育てるために、総合的な学習の時間と関連させることで、読む目的意識を明確にもたせるとともに、総合的な学習の時間を通して得た自分の知識や経験、考えなどと関係付けながらかんたむ必然性を高める。これらを通して、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたむ力を伸ばしたい。

本単元は、尾道の町づくりについて考える総合的な学習の時間と関連付け、横断的に実施する。

導入では、総合的な学習の時間で発見した課題を解決するために国語科でどのような学びを行うか、個人個人で学習計画を立てさせ、それをまとめることで、一人一人の教材文を読む目的意識を高めさせる。

情報収集や整理分析では、総合的な学習の時間で発見した課題を解決するという目的をもって、教科書教材を用いて、町づくりに大切な視点と説得の工夫であるプレゼンテーションの仕方を読み取らせる。その際、グループ学習による対話とその後の個人思考の場を積極的に取り入れ、必要な情報を精査・取捨選択するなど思考力を伸ばしたい。表現の場は児童の目的意識の基、総合的な学習の時間に移行して実施する。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 目的意識をもって、より説得力のある解決方法やプレゼンテーションをするための方法をとらえたり自分の考えを書いたりしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたんでいる。(読むこと)

2 単元の評価規準

	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
評価規準 単元の	○目的をもって、学習の計画を立てたり、必要な情報を読んだり活用したりしようとしている。	○文章の構成や序論、本論、要旨を読み取り、それらを基に未来の町づくりを考えている。 ○教材文や収集した情報を基に発表に必要な内容や進行等を考えている。	○目的に応じた文章の構成について理解している。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

総合的な学習の時間で発見した「聞き手を説得するプレゼンテーションをする」という課題意識をもって、国語科で町づくりに大切な視点と説得力のあるプレゼンテーションの仕方を読み取る。その後、自分の発表を見据えて情報の取捨選択をする。単元ではグループ学習を積極的に行い、友達と考えを交流し、交流後の個人思考を十分に行う。このことで、目的に応じて必要な情報を精査し取捨選択するなどの思考力・表現力を育成する。

4 指導計画（国語 全8時間）

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
総合的な学習の時間で学	<ul style="list-style-type: none"> ・尾道市の問題に関心をもち、課題を発見する。その後、問題解決の方法を考え、情報収集する。 ・収集した情報を基に尾道市の問題の解決方法をプレゼンテーションする上で自分たちの問題を見出す。(解決方法を考える上で大切な視点は何だろう。プレゼンテーションの方法はどうすればいいのだろうか。) ・自分たちの問題の解決方法を考える。 		
一	<p>課題の設定</p> <p>総合的な学習の時間で設定した課題を基に、単元の学習計画を立てる。(1)</p> <p>【本質的な問い】 ・町づくりに向けた解決策を考えるときに大切な視点は何だろう。 ・町づくりについて聞き手を納得させるプレゼンテーションするには、どうすればいいのだろうか。 【学習課題】 より説得力のある解決方法やプレゼンテーションを考えるための方法を学ぼう。</p>	<p>目的をもって主体的に学習の計画を立てている。【関・意・態】(ノート、行動観察)</p>	
二	<p>情報の収集</p> <p>教材文を使って、解決方法を考える上で大切な視点を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章構成を理解し、序論の内容を読み取る。(1) ・本論の内容を読み取る。(2) ・要旨を読み取り、尾道の未来の町を考える。(2) ・複数の資料を読み、情報収集する。(総合で2) <p>整理・分析</p> <p>教材文を使って、発表の内容を読み取り、自分の発表の内容を考える。(1) 本時7/8 教材文を使って、発表の進行や分担を読み取り、自分のグループの進行や分担を考える。(1)</p>	<p>文章の構成や序論の内容を適切に読み取っている。【読む】(ノート) 本論や要旨の内容を読み取り、それらを基に、未来の町づくりを考えている。【読む】(ノート)</p> <p>教材文や収集した情報を基に発表に必要な内容を考えている。【読む】(ノート) 教材文や収集した情報を基に発表の進行や分担を考えている。【読む】(ノート)</p>	<p>目的に応じて必要な情報を読んでいる。【思考力・表現力】(ノート、行動観察)</p>
総合的な学習の時間で学	<p>まとめ・創造・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語で学習したことを生かして、尾道市の問題を解決するためのプレゼンテーションをまとめる。 ・クラスで中間発表を行い、発表内容や進行等を推敲する。 ・市役所の方に対して最終発表を行い、他者評価・相互評価を行う。 <p>※目的に応じて必要な情報を用いて考えを工夫して表現している。【思考力・表現力】(ノート、行動観察)</p> <p>実行 ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解決方法を実行し、振り返る。 		

5 本時の展開（7／8）

(1) 本時の目標

教材文に提示されている事例の説得の工夫を読み取り、それらを自分の発表内容と関連付けて考え、必要な情報を取捨選択したり考えたりする。【読む】

(2) 観点別評価規準

教材文で収集した情報と総合的な学習の時間に収集した情報を関連付けながら必要な内容を精査している。【読む】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する児童への支援（◆）	評価規準（評価方法） 教科の指導事項（○）
<p>1 前時の学習を想起する。</p> <p>2 学習課題を設定し、方法を確認する。</p> <p>3 教材文の事例から説得の工夫を読み取り、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習内容を掲示物等で想起させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>大めあて より説得力のある解決方法を考えて、聞き手を納得させるプレゼンテーションにするには、どうすればいいのだろう。</p> <p>今日のめあて 聞き手を納得させるプレゼンテーションの仕方を調べ、自分の発表内容を考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童がどのような説得の工夫を見つけているか観察し、内容と表現の側面で整理しながら把握する。 ・ 児童の発表を内容と表現の二つの側面で整理し板書する。 ◆ 工夫が児童から出ないものについては教師から紹介する。 ◆ 書かれている事柄の理由をスライドごとに問いかけることで思考を促す。 	
<p>4 見つけた工夫を基に自分の発表と関連付けて考える。 個人→小グループ→全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的な学習の時間の発表内容で自分が収集している情報を基に、発表に向けて必要な情報を吟味させる。 ・ 情報を取捨選択したり今後必要なものを明らかにしたりさせる。 ・ 個人で考えた後、グループで考えを交流し合い、発表内容を検討する時間を設定する。 ・ 必要に応じて、児童が情報選択で迷っていること等を全体で出させ、助言し合う場面を設定する。 ・ 児童の発表を板書する際、表現と内容に分類して板書する。 ◆ 住民主体の事例を取り上げることやバックキャストの考え方などの既習事項を想起させ、思考を促す。 	<p>○ 教材文で収集した情報と総合的な学習の時間に収集した情報を関連付けながら必要な内容を精査している。【読む】（行動観察、ノート）</p>
<p>5 まとめる。</p> <p>6 振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き手を納得させるプレゼンテーションをするには、内容（バックキャストの考え方の基で住民主体になる事例を取り上げる、根拠となる数値などを示すなど）と表現（1つの事例を短く分かりやすく発表する、アンケート結果などをグラフで示すなど） ・ ①学んだこと②学習方法の善し悪し（理由）③これから総合的な学習の時間で取り組みたいことなどを書かせる。 	

単元名

けいさんのしかたを見つけてひきさん『はかせ』になろう

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の「A 数と計算」の内容に基づき設定した。学習指導要領では、以下のように示されている。

A 数と計算

- (1) 数の意味と数の表し方
オ 2位数の表し方について理解すること。
(2) 加法, 減法
イ 1位数の加法とその逆の減法の計算
ウ 簡単な場合の2位数などの加法, 減法

(1) 単元観

本単元では、繰り上がりのあるたし算と構成・内容ともに「10のまとまり」をもとに考えるという点において共通していることから、常に既習学習である「10のまとまり」を意識しながら考えていくことが大切である。

本単元の導入では、ブロックを用いて答えを求めるのに、一つ一つ数えて引くことの大変さに目を向けさせ、まとめてひく方法を考えさせる。ブロックの操作を通して、被減数を10といくつに分け、10のまとまりから引くことを操作と図や式を関連させて考え、発表することができるようにしたい。

繰り下がりのある減法の考え方には、減加法と減々法の2つがある。双方を扱い、計算の考え方は1つではないことに気付かせ、問題に応じて解決方法を柔軟に選択する素地的な経験をさせる。本単元では、導入段階で、計算の仕方を自由に考えさせ、ブロック操作を十分に行っていく。そして、2年生の減法の筆算の場面でも連動することが多い考え方である減加法の理解の定着を確実にしていき、全員が必ず理解できるように指導していきたい。また、ブロック操作だけではなく、図に表したり、言葉で表現したりする活動など多様な算数的活動を通して、一連の計算の手順を児童自らが導き出していけるようにする。実際に具体物や図を使い考えながら捉えることができるようにしたい。

(2) 児童観

算数科の実態

本学級の児童は、これまでに、身のまわりの物の数を捉えたり、具体物を半具体物に置き換えて数えたりする活動を通して、数に関する理解を深めてきた。

「たしさん(1)」「ひきさん(1)」の学習では、ブロックを合わせたり、離したりする活動を取り入れながら学習を進めてきた。計算を念頭操作で学習できる児童も徐々に増えてきた。一方で、一緒に数を数えたり、ブロック操作をしたりしながら学習を進めている児童もあり、学習の理解及び速度など個人差はとても大きい。

問題文を正しく読み、減法のへの関心も高く、減法計算については正確に解答ができているものの、求残や求差などの違いまでも理解し、計算を進めていくことには難しさを感じている児童も多い。

資質・能力に関する実態

これまで、実際に具体物やブロックを数えたり、数を表したりする活動を多く行ってきたため、ブロック操作については、抵抗なく行える児童が多い。

自分の考えを言葉や図を用いて、少しずつノートなどを使って表現することができる児童が増えてきた。しかし、その操作したことや、自分のノートに表したものを、言葉を使って周りに分かりやすく説明することに難しさを感じている児童もいる。また、一つの考えを活用して考えを深めたり、他の問題に適応させたりしていくことに抵抗を感じている児童も多い。

(3) 指導観

本単元では、10のまとまりを考えながら、減法に取り組めるように、既習学習を生かしていく。そのためにも、導入では、既習の「ひきさん(1)」や「10より大きいかず」の復習を随所で取り入れていきたいと考えている。

減加法や減々法での考えを通して、計算しやすい方法を見つけ、自分なりに使えるように操作活動や説明させる場所を多く取り入れていきたい。

減々法は、なかなか考え付かない児童もいると予想できるので、意図的にこちらから提示することで理解を深め、減加法と比較して考えていくことができるようにしていく。

また、問題文から求残・求差についても理解を深めていくことができるようにしたい。

自力解決の場では、ブロックを操作したり、字に表したり、自分で考えたことが視覚的に分かるようにする。自分の考えを書き表すことによって、自分の考えを整理し、深めていくことの手立てとしたい。個別、ペア、全体等、目的に応じて学習形態を工夫する。その中で、児童全員に発表経験をさせ、自身を付けさせていきたい。また、自分以外の人の考えを自分の言葉で説明する活動を通して、算数科における思考力を育成するための言語活動を積極的に取り入れていく。

減加法と減々法を学習した後、それぞれの方法を実際の計算にどのようにして生かすか考えられるようにする。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 繰り下がりのある減法の計算の仕方を具体物や言葉、式、図を用いて考え、表現することができる。
(関心・意欲・態度)
- 10のまとまりに着目しながら、減加法や減々法を問題場面に合わせて使いながら考えることができる。
(数学的な考え方)

2 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
評価規準	日常生活の中から減法が用いられている場面について考え、式に表したり、問題づくりをしたりしている。	繰り下がりのある減法の計算の仕方を、半具体物や言葉、式、図を用いて考えており、問題場面にあった方法で計算できている。	(十何) - (1位数)の減法で、繰り下がりのある計算が正しくできる。	(十何) - (1位数)の減法で、10のまとまりに着目することで、繰り下がりのある計算の意味やその方法を理解している。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元において、半具体物の操作、図、式などに対応させて繰り下がりのある場合の減法の計算の仕方を考えようとし、その計算が確実にできる力の育成を目指す。また、減加法や減々法を問題場面に合わせて使いながら、計算すること(思考力)の育成を目指し、自分の考えを積極的に、半具体物や言葉を用いながら、周囲に伝えることができる(表現)力の育成を目指す。

4 指導計画(全11時間)

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p>ふりかえり 課題の設定</p> <p>減法の用いられている場面であることに気付き、既習学習のひきざん(1)と比べながら、具体的にどこが違うのかを見付け、計算の方法について考える。 減法の用いられる場面(求残場面)から、繰り下がりのある減法の計算の仕方を考える。(1) (本時1/11)</p> <p>【本質的な問い】 演算決定ができ、よりよい計算方法を発見できるだろうか。 【学習課題】 さまざまな方法をつかって計算できるひきざんはかせになろう。</p>	<p>問題場面が、減法(求残)であることに気付くことができる。 【知識・理解】(行動観察) 既習事項を生かし、10のまとまりを意識しながら、様々な方法の仕方減法を考えることができる。 【考え方】(ノート)</p>	<p>○ 減法の問題場面を考える時、様々な解き方があることに気付き、表現することができる。 【思考力・表現力】 (行動観察)</p>
	<p>情報の収集</p> <p>減加法による計算の仕方を、具体物を操作しながら説明する。 減加法を使って繰り下がりのある減法の計算をする。(1)</p>	<p>減加法の方法が正確に理解でき、教え引きではなく、減加法をもとに、計算できる。 【技能】(ノート)</p>	
	<p>減々法の計算の仕方を考える。 減々法を使って繰り下がりのある減法の計算をする。(1)</p>	<p>減々法について減加法との相違点に気付き、減々を用いて計算することができる。 【考え方】(ノート)</p>	<p>○ 多様な解き方から、問題場面にあった方法を選択し、考えることができる。 【思考力・表現力】 (ノート)</p>
	<p>繰り下がりのある減法について、問題場面に応じた計算の仕方、問題を解く。(1)</p>	<p>問題場面を考え、減加法と減々法のどちらを使うとより早く簡単に計算できるか考え、計算することができる。 【考え方】(ノート)</p>	
	<p>減法の用いられている場面が、これまでとは違う求差になっていることに、気付き、どこが違うのか考えながら計算する。(1)</p>	<p>既習の求残の場面とどこが違うのか問題場面からしっかり読み取りながら、立式し計算することができる。 【考え方】(発表)</p>	

	減法の問題作りの活動を通して、減法の意味や方法について考えを深め、式から問題場面を考える。(1)	減法が用いられる場面を考え、式にあった問題場面を想像し、作成することができる。【関心・意欲・態度】(ノート)
二	ひきざんカードの作成やひきざん絵本の作成。 ひきざんカードを用いて、繰り下がりのある減法の計算の練習を行う。 ひきざんカードから、被減数と減数の関係に気付く。(3)	繰り下がりのある減法を、早く正確に答えを出すことができる。 【技能】(行動観察)
三	まとめ・表現 式から問題場面をイメージして、減法のイメージを理解する。(1)	様々な減法の問題場面をイメージしている。 【考え方】(ノート)
四	ふりかえり 既習事項の振り返りをし、ひきざんはかせ(はやく・かんたん・せいかくにできるよう)になる。(1)	繰り下がりのある減法の問題場面を整理し(求残・求差・求補)、読み取りながら正しく立式することができる。 【技能】(ノート)

5 本時の展開 (1/11)

(1) 本時の目標

問題が減法の用いられている場面であることに気付き(求残), 具体物操作を通して考えることができる。

(2) 観点別評価規準

既習事項を生かしながら, 具体物や図, 言葉, 式を用いながら, 減法の場面を理解し, 正しく立式することができる。
【数学的な考え方】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点(・) 配慮を要する児童への支援(◆)	評価規準(評価方法) 教科の指導事項(○)
1 課題をつかみ立式する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> どんぐりが 12 こあります。 こまをつくるのに 9 こつかいました。 のこりのどんぐりはなんこでしょうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 問題文に算数マークを入れながら, 立式の見通しをもつ。 減る場面であることから, ひきざんの式になることを確認し, 立式の根拠を明らかにする。 	
2 課題解決の見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> 既習の計算とは異なり, 一の位同士でのひきざんでは解決できないこと, 答えが 10 より小さくなりそうなことに気付く中で, 解決の見通しをもつ。 全体で数え引きを行い, より早く, 簡単・確実に計算できる方法はないかという課題をもたせる。 ◆ ブロックで「どこから」「どのように」ブロックを引いているのかを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> もっとはやいけいさんのしかたをみつけよう。 </div>	
3 自力解決をする。	<ul style="list-style-type: none"> ブロックで解く児童には, 既習をもとに, 10 と 3 に分けてブロックを置くよう声かけを行う。 ブロック操作が終わった児童は, ノートにわかりやすく図や言葉で方法を書く。 ◆ ヒントカードを用意することで, 解決の見通しや考え方を 	

<p>4 ペアで考えを話し合う。</p> <p>5 全体で考え方を共有する。</p>	<p>つかめることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアで意見を交換させ、自分の考えを声に出して伝えることで、考えを整理させ、全体交流につなげられるようにする。 求め方の共通点や相違点を考えさせる。 誤答があった場合は、どうすれば答えを求められたのかを考えさせる。 ペアで共有した考えを、ブロックを操作したり、図を指し示したりしながら、はじめに「つぎに」と順序を表す言葉を使って全体で話す。 	
<p>6 まとめ振り返りをする。</p> <p>7 適応題を解く。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;"> <p>10 のまとまりを作って考えると計算がはやい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 同じ式でも、様々な方法で計算することができることをしり、本時の問題場面ではどのやり方がわかりやすいかまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>ライオンが11とういます。トラが4とういます。どちらがどれだけ多いでしょうか</p> </div>	<p>○ 繰り下がりのある減法の仕方について、10 のまとまりに着目しながら考えることの良さに気付く。 (プリント)</p>

単元名

「かけ算(3)」～見つけよう 九九のひみつ～

本単元で育成する資質・能力

課題設定・解決力・主体性・積極性

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第2学年の「A 数と計算」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- A(3) ア 乗法が用いられる場合について知ること。
 イ 乗法について成り立つ簡単な性質を調べ、それを乗法九九を構成したり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。
 ウ 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。
 エ 簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を考えること。

(1) 単元観

本単元は、乗法九九表を観察して乗法の交換法則に気付くとともに、簡単な場合の2位数と1位数との乗法の計算の仕方について考えたりいろいろな数のまとまりで被乗数を捉えて乗法の式に表したりすることで、乗法への理解を深めることをねらいとしている。

本教材は、身に付けた乗法九九を活用し、九九表を拡張したり乗法が適用できる場面で問題解決をしたりする。乗法九九を知るだけでなく、乗法が用いられる場合について理解を深めたり簡単な性質について知ったりすることで、既習をもとに統合的・発展的に考えるのに適した教材である。

また、本単元では、「いくつずつ」・「いくつ分」を明らかにして図や式、言葉で表して説明したり、式と図を対応させながら話し合ったりすることで、自分と違った見方や考え方に気付き、数の意味や表し方への理解を深めていくことができると考える。

(2) 児童観

学力調査等に関する実態

レディネステストの結果、図から「いくつずつ」・「いくつ分」を捉えて、乗法に立式することができた児童は68.4%、乗法の式を図に表すことができた児童は57.9%であった。乗法九九を構成していく過程において、その意味について、理解を深めていく必要がある。

資質・能力に関する実態

アンケートの結果、「算数が好き」・「算数が得意」と答えた児童は、いずれも84.2%であった。その理由として、「計算が早くできると嬉しいから」・「生活で使えるから」という回答があった。また、「算数で学習したことを学習や生活に生かしている」と答えた児童は、89.5%だった。どちらも、多くの児童が肯定的な回答をしている。しかし、学習で課題をつかむことや見通しをもって解決することについては、36.8%の児童ができていないと答えていた。既習事項と比較して課題をつかむことや既習事項を活用して問題解決をすることに課題がある。

(3) 指導観

「かけ算(1)・(2)」では、乗法九九を構成していく際に、ブロックや図を用いて表現することで、累加の考え方をしっかり理解させておく。その上で、本単元では、式を図に表したり図をもとに式を考えたりする活動を大切にしていこう。式と図を相互に関連させてかいたり説明したりすることで、乗法への理解を深められるようにしたい。

本単元では、「かけ算(1)・(2)」で学習した乗法の性質をもとに、九九表を拡張したり乗法が適用できる場面で問題解決をしたりする。既習事項を活用して、新たな課題解決をしていく活動は、算数科の基本的な活動であり、また、日常生活においても、乗法九九を活用して数えたり、乗法的に数を捉えたりする場面が多くあるため、意義深い学習であるといえる。また、児童が、自ら課題をつかみ、見通しをもって問題解決できるよう、これまでの学習との違いをもとにめあてを設定していきたい。さらに、答えを予想したり、どうすればできそうか既習事項を想起させたりして、見通しをもって学習できるようにしたい。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 被乗数、乗数、積の関係に気付くとともに、乗法の交換法則を理解している。(知識・理解)
- 乗法九九の表をもとに乗法についての性質を見出したり、日常生活やいろいろな問題場面で既習を活用して考えたりしている。(数学的な考え方)

2 単元の評価規準

	算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
単元の評価規準	○学習や生活の場面で、 進んで乗法を活用しよう としている。	○いろいろな問題場面 で、乗法やその性質を活 用して考えている。	○いろいろな問題場面 で乗法の式に表したり計算 したりできる。	○被乗数、乗数、積の関 係や乗法の交換法則を理 解している。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

九九表を観察して、九九表にある数のきまりを見付けたり、単元で調べてみたいことを考えたりする。そして、それらを学級で伝え合い、全体で共有していく。児童が自分で課題をつかむことや友達と考えを伝え合う活動を大切にしていき、既習事項をもとに新たな問題解決をしていく経験を重ねることで、課題発見・解決力を育成していく。また、自ら考えたり伝えたりしようとすることは、主体性・積極性も培うことができる。

4 指導計画（全9時間）

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p>課題の設定</p> <p>九九の表を観察する。(3)</p> <p>【本質的な問い】 かけ算は、どんなときにつかえるだろう。 【学習課題】 かけ算のきまりをつかって、いろいろな数をもとめよう。</p>	<p>九九の表から、乗法のきまりや九九表の特徴を見付けている。【知・理】(発言・ノート) 乗法の交換法則を理解している。【知・理】(発言・ノート) 単元で調べてみたい課題をつかみ、見通しをもっている。【関・意・態】(発言・ノート)</p>	<p>考えを友達に伝えようとしている。 【主体性・積極性】(行動観察) 単元の課題をつかんでいる。 【課題設定・解決力】(発言・ノート)</p>
二	<p>情報の収集</p> <p>被乗数や乗数が9よりも大きい数の場合のかけ算の仕方を考える。(2)(本時4/9)</p>	<p>乗法の交換法則や被乗数分だけ積が増えるきまりを使って求めることができる。【技能】(ノート) 被乗数を分配する考え方について理解している。【知・理】(行動観察・ノート)</p>	<p>既習事項をもとに課題解決している。 【課題設定・解決力】(発言・ノート)</p>
三	<p>整理・分析 まとめ・創造・表現</p> <p>箱に入ったチョコレートの数を、いろいろなかけ算の式を使って求める。(1)</p> <p>同じ答えになるかけ算の式の求め方を見つけ、問題を出し合う。(1)</p> <p>座席の取り方について考える。(1)</p> <p>ふりかえり</p> <p>かけ算の練習問題に取り組むとともに、単元の学習を振り返る。(1)</p>	<p>単位量を捉え、乗法の式に表して解決することができる。【考え方】(行動観察・ワークシート) 乗法九九や乗法のきまりを使って、解決することができる。【技能】(ノート) 乗法九九を活用して、座席の取り方を考えることができる。【考え方】(行動観察・ワークシート) 問題場面を理解し、既習を活用して解決している。【技能】(ノート) 単元で学んだことや学習・生活に生かしたいことなどを振り返っている。【関・意・態】(発言・ノート)</p>	<p>学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 【主体性・積極性】(行動観察・ノート) 学習内容や学び方について振り返っている。 【課題設定・解決力】(発言・ノート)</p>

5 本時の展開（4／9時間）

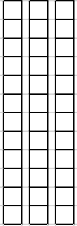
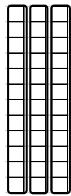

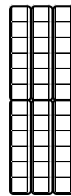
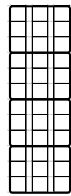
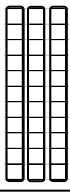

(1) 本時の目標

被乗数や乗数が9よりも大きい数の場合の乗法を、乗法の交換法則や被乗数分だけ積が増えるきまりを使って求めることができる。【技能】

(2) 観点別評価規準

被乗数や乗数が9よりも大きい数の場合の乗法について、既習事項を使って求めている。【技能】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する児童への支援（◆）	評価規準（評価方法） 教科の指導事項（○）
<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <p>2 問題に出合う。</p> <p>3 学習課題を設定する。</p>	<p>・ 3×12の求め方について九九表を使って考えさせることで、被乗数分だけ積が増えるきまりや前時で設定した単元の課題を想起できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>12このブロックが図のようになっています。 このブロックの数をもとめましょう。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>九九より大きいかけ算は、どうすればもとめられるだろう。</p> </div>	
<p>4 自力解決する。</p> <p>5 考えを共有し、話し合う。</p>	<p>・ 図のかかれたワークシートを配布し、考える手がかりになるとともに、図や式、言葉で表すことができるようにする。</p> <p>・ 児童がかいた図や式を提示し、その考えの意味や根拠を他の児童に説明させる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  <p>ア $12 + 12 + 12 = 36$</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  <p>イ $12 \times 3 = 3 \times 12$ $3 \times 9 = 27$ $3 \times 10 = 30$ $3 \times 11 = 33$ $3 \times 12 = 36$</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  <p>ウ $6 \times 6 = 36$</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  <p>エ $9 \times 4 = 36$</p> </div> </div>	
<p>6 適用問題を解く。</p> <p>7 振り返りをする。</p>	<p>・ 12×4の求め方についてかかれた図や式を提示し、上のどの考えと似ているか話し合わせることで、それぞれの考え方の違いを明確にさせる。</p> <p>・ 11×3の求め方について、上のア・イの求め方の図をもとに、式や言葉で考えを説明させる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  <p>ア ?</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  <p>イ ?</p> </div> </div> <p>・ 「九九より大きいかけ算の求め方について分かったこと」、「友達の考えのよいところやもっと調べてみたいこと」について、振り返りをノートに書かせる。</p>	<p>○ 被乗数分だけ積が増えるきまりや乗法の交換法則を使って求めている。 【技能】（ノート）</p>

「コンパスを使って宝の地図で発見！」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第3学年の「C 図形」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のよう示されている。

B (1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素に着目し、図形について理解できるようにする。
ウ 円、球について知ること。また、それらの中心、半径、直径について知ること。

(1) 単元観

本単元で学習する円と球は曲線図形であり、辺や頂点がなく、これまでの直線で囲まれた図形と構成要素が違う。本単元では、これまで直観的に捉えてきた「まる」や「まるい形」を、中心・半径・直径といった構成要素に着目させ、図形としての円と球の見方を養うことをねらいとしている。

円については、構成要素に着目し、円がある定点から等距離にある点の集合であるという定義を理解するとともに、円の性質についても理解することをねらいとしている。また球については、円の学習で学んだことと関連させ、「ラグビーボール」と「サッカーボール」の違いを比較しながら、定義を理解することをねらいとしている。

本単元の導入では、「宝の地図」を提示し、ある決まった地点から一定の距離に埋まっている宝を見つけるために円の学習を始めていく。そして、見つけた宝が球状のものであり、そこから球の学習をしていく。このように、単元にストーリー性をもたせることで、目的意識をもって学習を進めていけると考える。

(2) 児童観

学力調査等に関する実態

レディネステストの結果から、円の仲間を選ぶ問題の平均正答率100%だった。また、球の仲間を選ぶ問題の正答率は86.3%であった。このことから、円や球について直観的には概ね認識できている。しかし、児童の中には円柱が球の仲間であると認識している児童もいるため、形をじっくり観察する経験が不足していると考えられる。

資質・能力に関する実態

平成27年度「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙を昨年度の3月と今年度の7月に実施した。その結果を比較したところ、「授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。」(68.1%)、「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるよう発表を工夫しています。」(81.8%)に課題が見られた。これらのことから、問題を解決するために必要だと思う情報を集める主体性・積極性に課題があると考えられる。また、自分の考えの根拠を明らかにすることや相手意識をもった発表にするための思考力・表現力に課題があると考えられる。

(3) 指導観

本単元では、円や球の具体物を見る・触れる活動、円と楕円のようなものを分類する活動、円の形に切り抜いた折り紙を折ることで円の中心や半径を見つける活動、コンパスを用いて円をかいたり、模様を作ったりする活動を行う。このような活動を通して、円や球の定義や性質の理解を深め、図形概念を形成していけるようにしていきたい。

本単元は、宝の地図をもとに学校周辺にある宝を見つけるという学習活動を軸とする。

導入では、学校周辺の地図を渡し、地図上で「学校から6cm離れたところに宝がある」という問題に出会い、調べていくと地図上にある形ができ、児童はそれが「円」であると認識する。そこから学習をスタートさせ、円周上のどこかにある宝を見つけたいという意欲を高めていく。そして、児童自身に宝を見つけるために必要な情報や力が何かを考えさせる。また、円や球の仲間分けでは、理由を明確に自分の考えを伝えたり、班での話合いや集団解決時には、友達の式の意味や発表の意味を考えさせ、自分の発表の意図が伝わったかを確認させたりする。これらの学習を通して、課題とする資質・能力の向上を図る。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 折ったり重ねたりする操作をもとに、半径がみな等しいこと、直径が半径の2倍であることなど、円や球の特徴を帰納的に考えている。(数学的な考え方)
- コンパスを使って指定された半径の円をかいたり、線の長さを写し取ったりできる。(数量や図形について技能)
- 円や球の定義や性質、それぞれのもつ構成要素の関係を理解している。(数量や図形について知識・理解)

2 単元の評価規準

	算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
単元の評価規準	○身の回りにあるまるい形のものを探したり、コンパスを使って様々な模様を作ったりしてようとしている。	○折ったり重ねたりする操作をもとに、半径がみな等しいこと、直径が半径の2倍であることなど、円や球の特徴を帰納的に考えている。	○コンパスを使って指定された半径の円をかいたり、線の長さを写し取ったりできる。	○円や球の定義や性質、それぞれのもつ構成要素の関係を理解している。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

「宝の地図」で宝がどこにあるか見つけるという活動からスタートし、ある一つの点から一定の距離の場所に宝物があるという問題に出会う。この時、何がわかったら宝物を見つめることができるか考えさせるようにする。単元を通してこのような活動を行うことで、問題を解決するために必要な情報を求めようとする主体性・積極性が育成できると考える。また、円と楕円のような形の仲間分けを行う際には、どのような理由で仲間分けをしたのかを表現させる。さらに、友達の式の意味や発表の意味を考えさせる際には、自分の発表の意図が伝わったかを確認する場面を設ける。これらの学習を通して、自分の考えの根拠を明らかにすることや相手意識をもった発表をするための思考力・表現力が育成できると考える。

4 指導計画（全10時間）

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p>課題の設定</p> <p>「宝の地図」のある一つの点から等距離にたくさん点を打ち、宝がどこに埋まっているかを探す。(1)</p> <p>【本質的な問い】 宝の地図を手がかりに宝のありかを見つめるには、どうしたらよいだろうか。 【学習課題】 円について学習して、宝の地図を見つけよう。</p>	<p>「宝の地図」から宝を見つけるために必要なことは何か考えようとしている。 【関・意・態】(ノート, 行動観察)</p>	<p>問題を解決するために必要な情報を自分なりに考えている。 【主体性・積極性】(ノート, 行動観察)</p>
二	<p>情報の収集 整理・分析</p> <p>色々なまるい形を仲間分けすることで、円の定義や半径について知る。(1)</p> <p>円を折ったり重ねたりすることで、直径やその性質について知る。(1)</p> <p>コンパスを使って円をかいたり、長さを写し取ったりする。(1)</p> <p>円をかくために必要な構成要素を調べる。(1)</p> <p>コンパスを使っているいろいろな模様作りをする。(1)</p> <p>「宝の地図」で宝のある場所を見つけ、その場所にある宝を取りに行き、新たな課題設定をする。(1)</p> <p>課題の設定</p> <p>【学習課題】 見つけた宝の形は何か考えよう。</p>	<p>色々なまるい形を仲間分けすることで、円の特徴を帰納的に考えている。 【考え方】(ノート, 発表)</p> <p>直径やその性質について理解している。 【知・理】(ノート)</p> <p>コンパスを使って円をかいたり、長さを写し取ったりできる。 【技能】(ノート, 行動観察)</p> <p>円をかくために必要な構成要素を理解している。 【知・理】(ノート, 発表)</p> <p>模様作りを通して、コンパスの使い方に関心をもったりしている。 【関・意・態】(ノート, 行動観察)</p> <p>宝を見つけ、新たな課題を考えようとしている。 【関・意・態】(ノート, 行動観察)</p>	<p>理由を明らかにして自分の考えを表現している。 【思考力・表現力】(ノート, 発表)</p> <p>新たな課題を考えようとしている。 【主体性・積極性】(ノート, 行動観察)</p>
三	<p>情報の収集 整理・分析</p> <p>色々な形を仲間分けをすることで、球の定義と構成要素を知る。(1)</p> <p>まとめ・創造・表現</p> <p>球の半径や直径の性質を使って、箱の大きさを求める。(1)(本時)</p>	<p>球の定義や構成要素を理解している。 【知・理】(ノート, 行動観察)</p> <p>球の半径や直径の性質を活用して、箱の大きさの求め方を考えている。 【考え方】(ノート, 発表)</p>	<p>式や友達の発表の意味を解釈している。 【思考力・表現力】(発表, 行動観察)</p>

四	<p style="text-align: center;">ふりかえり</p> <p>単元の学習を振り返る。(1) 評価問題に取り組む。</p>	<p>振り返りの視点</p> <p>①学習して分かったこと ②学習の方法でうまくいったこと、または、失敗したこと(理由) ③もっと学んでみたいこと</p>	
---	--	---	--

5 本時の展開 (9/10)

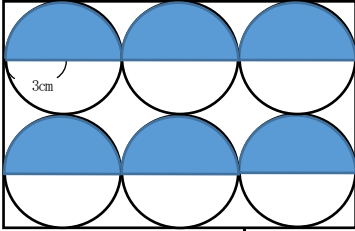
(1) 本時の目標

球の半径や直径の性質を活用して、箱の大きさの求め方を考えることができる。【数学的な考え方】

(2) 観点別評価規準

球の半径や直径の性質を活用して、箱の大きさの求め方を考えている。【数学的な考え方】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (・) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 教科の指導事項 (○)
<p>1 問題に出会う。</p> <p>2 解決の見通しをもち、本時のめあてをつかむ。</p> <p>3 自力解決をする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>宝物を入れる箱を作ろうとしています。 宝物の半径は3cmです。 この箱のまわりの長さを何cmにすれば、 6つ入れることができるでしょうか。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>どうすれば箱のまわりの長さを求めることができるだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宝物の直径を求めればよいことに気付かせる。 ・ 宝物の直径や数が箱の周りの長さに関係してくることに気付かせる。 ◆ 実際に長さを測らせることで、直径と箱の長さを結び付けさせる。 ◆ 「箱のまわりの長さ」がどの部分にあたるのか確認する。 ◆ ヒントカードで箱のたての長さを求める式を示し、その続きを考えさせる。 	
<p>4 班で話し合う。</p> <p>5 全体で話し合う。</p> <p>6 まとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 求め方の共通点や相違点を考えさせる。 ・ 誤答があった場合は、どうすれば答えを求めることができたのかを考えさせる。 ・ 式だけ出させ、他の児童に式の意味を考えさせる。 ・ 誤答や途中までの考え方を取り上げ、どう考えれば正答に辿り着くことができるかを議論させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>① 球の直径は半径の2倍であるという考え方を使えばよい。 ② 球の直径や数がまわりの長さに関係してくる。</p> </div>	
<p>7 適用題を解く。</p> <p>8 振り返りをする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>この宝物を入れる箱の高さは何cmになるでしょうか。 また、この箱の上にもう2つ箱を積み上げた時の高さは 何cmになるでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ① 友達の式の意味を考えたか。 ② 友達の発表の意味を考えたか。 ③ 自分の考えを友達に分かってもらえたか。 	<p>○ 球の半径や直径の性質を活用して、箱の大きさの求め方を考えている。 【考え方】(ノート、発表)</p>

どんな形でもできるかな？面積を比かくしよう！

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第4学年の「B量と測定」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

B (1) 面積について単位と測定の意味を理解し、面積を計算によって求めることができるようにする。
 ア 面積の単位 (平方センチメートル (cm^2), 平方メートル (m^2), 平方キロメートル (km^2)) について知ること。
 イ 正方形及び長方形の面積の求め方を考えること。

(1) 単元観

本単元は、求積指導の基礎となるもので、児童がこれまでに学習してきた長さやかさ、重さと同じように、広さも、単位面積をもとに、数値化できることを理解させることが主なねらいである。児童は、第1学年・第2学年で、直接比較や色板並べをして広さを比べたり、敷き詰めたり、身の回りの具体物の中にある面を写し取ったりして、広さの素地ともいえる学習をしてきている。

本学年では、広さを面積という量としてとらえ、普遍単位を導入して数値化して長方形や正方形などの求積ができるようにする。つまり、1辺が1cmの正方形の敷き詰めを考えから、続いて単位面積1 cm^2 を導入し、長方形や正方形の面積を、単位面積のいくつ分として表すことを指導する。また、広さの保存性についても留意して扱う。さらに、新しい情報としての求積公式を導き、複合図形の求積に発展させる一方、単位の範囲を拡大したり、単位間の関係を理解させたりすることを指導する。

(2) 児童観

学力調査などに関する実態

レディネステストの結果は、直接比較による面積比較ができていない児童は全体の100%、任意単位による比較ができていない児童も全体の100%だった。しかし、記述内容には根拠を明確に示して説明できていないものや順序よく説明できていないものが多かった。そのため、数学的に思考できている児童は多いが、その考えを論理的に表現することについては課題が見られた。

資質・能力に関する実態

1学期におこなった資質能力に関するアンケートでは、肯定的な回答をした児童の割合が「授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます」と「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています」の項目で88.9%と他の設問よりも低くなった。自分の考えを伝える積極性と、相手意識を持って表現を工夫する力に課題が見られた。

(3) 指導観

本単元においては、思考力・表現力を高めるために「普遍単位のいくつ分」という思考を促していく。そのためには、「普遍単位の良さ」と「いくつ分と見ることの良さ」を感じさせる必要がある。普遍単位の良さを感じさせるために、面積の違う正方形を配布して、それぞれのいくつ分で数えさせる。「正方形の○こ分」と同じ表現をしているにも関わらず、広さが違うという認識のズレを生じさせ、普遍単位の良さについて感じさせる。また、いくつ分と見ることの良さを感じさせるために、直接比較ができない図形同士の広さ比べを繰り返して経験させる。

本単元では、これまで大まかに捉えていた広さを量として捉えさせる必要がある。そのためにも、毎時間の授業において、「普遍単位のいくつ分」という考えで事象を考察させ、数字を用いて明確に表現させ、児童同士で考えを伝え合わせる。その過程では、特に思考する場と表現する場の児童の様子に注目し、「普遍単位のいくつ分」という考えをしたり、解決方法に共通することを見出したり、解決方法を序列化したりしている児童の価値付けを積極的に行う。児童がどのような思考をしていたか明示的に指導し、汎用的な能力となるようにする。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 面積の大きさを数値化して表すことよき気づき、いろいろな形の面積をもとめようとする。
(関心・意欲・態度)
- 広さを数値化する方法を考えたり、測定する広さに応じた面積の単位や求め方を考えたりする。
(数学的な考え方)
- 長方形や正方形の面積を公式を使って求めることができるようになる。
(数量や図形についての技能)
- 面積の単位と測定の意味が分かり、面積の求め方や単位の間関係を理解している。また、面積の大きさについての豊かな感覚をもつ。
(数量や図形についての知識・理解)

2 単元の評価規準

	算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
単元 の 評 価 規 準	面積の大きさを数値化して表すことよき気づき、身の回りのいろいろな形の面積を求めようとしている。	単位面積をもちいて、広さを数値化する方法を考え、図や数、式をもちいて表し、正方形や長方形の面積公式を導き出している。	長方形や正方形の面積を公式を使って求めることができる。	面積の単位と測定の意味が分かり、面積の求め方や単位の関係を理解している。また、 1m^2 がどれくらい面積なのかを、身の回りのものの面積の大きさをもとにしてとらえるなど、面積の大きさについての豊かな感覚をもっている。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元では、広さの表し方を考えたり複合図形の面積を求めたりする時に、意見が分かちやすい。例えば、広さの表し方を考える場合は、複数出た考え方の共通点を考えることを通して、どの考えも単位面積のいくつ分で表していることに気付かせることができる。また、複合図形の面積を求める際には、友達考えの良さを考えさせ、次の問題を解く際に生かす活動を仕組むことが出来る。課題解決のために、共通点を見出したり、友達考えと目の前の課題を関連づけたたりすることを通して、思考力・表現力、主体性・積極性を育てていきたい。

4 指導計画 (全 10 時間)

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一 長 方 形 ・ 正 方 形 の 面 積	課題の設定 広さを比べる方法を考える。 比べる方法について話し合う。 長方形、正方形の面積を共通の単位を使ってそのいくつ分で表す。 面積の単位 cm^2 を知る。(2)	広さ比べに興味をもち、進んで調べる方法を見つけようとしている。 【関心】 (ノート) 長方形、正方形の面積を共通の単位を使って、そのいくつ分で考えることができる。 【考え方】 (ノート)	
	【本質的な問い】 ・面積の単位を速く正確に数えるには、どうすればよいのだろう。 ・面積を表すために、どのような単位を選択すればよいのだろう。 【学習課題】 広さをくらべる方法を考えてよう。		
	情報の収集 1cm^2 のいくつ分から長方形、正方形の面積を早く正確に出せる方法を考える。 公式を使って長方形、正方形の面積を求める。(1) (本時 3 / 10)	単位となる大きさを基にして、長方形、正方形の面積の公式を考えることができる。 【考え方】 (ノート)	異なる考えの中にも共通点を見出そうとしている。 【思考力・表現力】 (観察・ノート)
	面積が同じで形が異なる長方形を考える。 作図を通して面積の意味の理解を深める。 長方形の面積の公式を活用して問題を解く。(1)	同じ面積の長方形をいろいろ考えることができる。 【考え方】 (ノート) 長方形の面積の公式を使って、面積が分かっている辺の長さを求めることができる。 【技能】 (ノート)	
面積の単位 m^2 を知り、面積を求める。 1m^2 を単位としているいろいろな長方形や正方形の面積を求める。(1)	辺の長さが、 m で表されている大きな面積の表し方を考えることができる。		
m^2 と cm^2 との単位間 の関係を理解する。(1)	m^2 と cm^2 の単位間の相互関係を理解している。 【知識】 (ノート)		

二 面積の求め方の工夫	複合図形の面積を長方形，正方形の面積の公式を使って求める。 複合図形の面積の求め方について話し合う。(1) 整理・分析	L字型の面積を既習の公式を使って求めることができる。【考え方】(ノート)	進んで多様な解決方法を見つけ，説明や問題を解くことに生かしている。 【思考力・表現力】 (操作・ノート)
	面積の単位 $k \text{ m}^2$ を知り，面積を求める。 m^2 と $k \text{ m}^2$ との単位間の関係を理解する。(1)	辺の長さが $k \text{ m}$ で表されている大きな面積の表し方を考えることができる。 【考え方】 (ノート)	
	面積の単位 a, ha を知り，面積を求める。 a と ha の単位間の関係を理解する。(1)	a, ha で表されている大きな面積の表し方を考えることができる。 【考え方】 (ノート)	
三 まとめ	まとめ・創造・表現 既習事項の確かめをする。(1)	面積について単位と測定の意味を理解している。【知・理】(ノート)	

6 本時の展開

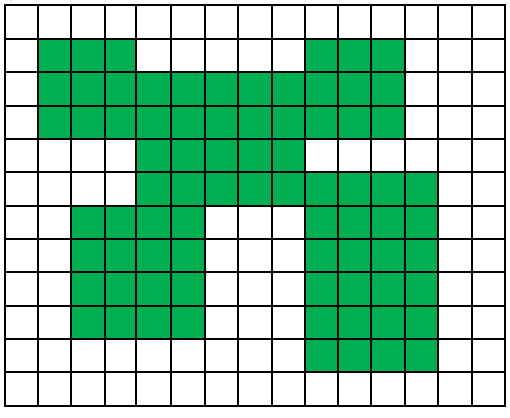
(1) 本時の目標

1 cm^2 のいくつか分ちから長方形，正方形の面積を早く正確に出せる方法を考える。
 公式を使って長方形，正方形の面積を求められるようになる。

(2) 観点別評価規準

- ◎ 単位となる大きさを基にして，長方形，正方形の面積の公式を考えることができている。【数学的な考え方】
- 公式を使って長方形，正方形の面積を求められている。【数量や図形についての技能】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (・) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 教科の指導事項 (○)
1 問題に出会う。	<p>どの班に配った図形が最も広いでしょうか。 (例)</p> 	
2 解決の見通しをもち，本時のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上のような凹凸のある形を配布し，本時では広さ比べをすることを確認する。凹凸のある大きめの図形を配布することで，あえて普遍単位の数を数えにくくし，計算で求めたり図形を分解したりする必要性を感じさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1 cm^2 をかんたんに数える方法はないだろうか。</p> </div>	
3 自力解決する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1人1つ図形を配布し，補助線を描いたり，分解などの図形の操作をしたりしやすくする。 	

	<ul style="list-style-type: none"> 全体で話し合う場に主体的・積極的に参加させるために自分の考えた数える方法とその考えた理由を書かせるようにする。 	
4 全体で話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 意見を全体で共有する際は、「1つずつ数える」などのように素朴な考えから取り上げ、段々と意見が洗練されていくようにする。このことで、学級全体で意見を練り上げている意識を高め、目的意識を持って友達の話聞くようにする。 (取り上げる児童の考えのイメージ) 「1つずつ数える」 →「(長方形や正方形などの形にこだわらず) 10ずつのまとまりをつくって数える」 →「長方形や正方形などの形に分解して数える」 「長方形や正方形などの形に分解する」という考えを複数の班が考えている場合は、全体で取り上げ、「数える形が違って、数えている方法が同じ」ことを児童に意識付ける。そして、「なぜ、長方形や正方形などの形に分解するのだろうか。」と問う。そして、「長方形や正方形だと、縦のマスの数と横のマスのかかけ算すれば、計算を用いて簡単に数えられる。」という意見に児童の意見を集約していく。「どの長方形や正方形にも、縦のマスの数×横のマス数が使えそうだ。」という意識を持ったところで、公式にまとめる。 辺の長さと同じになることを確認する。 	<p>○ 単位となる大きさを基にして、長方形、正方形の面積の公式を考えることができている。</p> <p>【数学的な考え方】 (行動観察)</p>
5 適用題を解く。	<ul style="list-style-type: none"> 長方形や正方形の面積を公式を用いて求める問題を溶かせる。 	<p>○ 公式を使って長方形、正方形の面積を求めることができている。</p> <p>【数量や図形についての技能】</p>
6 まとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> 今日学んだこと、感じたこと、次行いたいことについて、「自分」と「友達」という視点から振り返りを書かせることで、振り返りの思考の深化を促す。 	

詩人になろう

「言葉をつなげて」(4年) 「気持ちを言葉に」(3年)

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

1 児童観

本学級は、6年男子2名、4年女子1名の計3名の知的障害特別支援学級である。

学力に関する実態

- ・A児
多様な表現に関心があり、より適切な言葉や文章を考えようとする態度は見られる。しかし、語彙の不足と表現をする経験が少ないことから、表現力は十分に身につけているとは言えない。
- ・B児
型にはまった発表をしたり、誰かのまねをしたりすることはできるが、語彙が少なく、自分自身の物の見方を自分なりに表現することは難しい。
- ・C児
自分なりの思いはある。しかし、理解できる言葉が極めて少なく、日常会話は2語文程度である。文章表現は難しい。

資質・能力に関する実態

本学級の3人の児童は、些細なことに動揺しやすい傾向にあり、自分から、言葉を通じてコミュニケーションをとろうとする主体性・積極性もちにくい。また、共通して語彙が不足している。日常を会話はするものの、出来事や体験を見つめ、自分にとっての意味や自分のもっている見方や考え方を表現する場面が少ない。これらことから、言葉を通じて、自分が経験したことや感じたことなどを積極的に表現するための、思考力・表現力に課題があると考えられる。

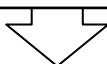
2 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の「B 書くこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- B(1) ア 関心のあることから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。
ウ 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。
オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする。

(1) 単元観

- ・A児
本単元は、日々の生活の中から自分なりの発見や感動を見つけ、そのときの気持ちが伝わるよう、言葉を考えて詩で表現する力を育てることをねらいとしている。
- ・B児
本単元は、友達と詩を作る活動を通して、1つの題から想像を広げて、つながりのある言葉を集め、詩にまとめる力を育てることをねらいとしている。
- ・C児
本単元は、友達と詩を作る活動を通して、1つの題から自分なりのイメージをもって、つながりのある言葉を使って、詩にまとめる力を育てることをねらいとしている。



(2) 指導観

- ・A児
詩を書く活動を通し、関心を持っていること、経験したり聞いたりしたことや知っていることから、自分の考えや思いを見つめ直し、そのことを言葉にして文章にする力を育てる。
- ・B児
連詩を書く活動を通し、つながりのある言葉に関心を持たせ、語彙を増やし、自分の思いに合う言葉で文章を書く力を育てる。
- ・C児
連詩を書く活動を通し、言葉からイメージを広げ、語彙を増やし、自分の思いに合う言葉で文章を書く力を育てる。

先生方と手紙のやりとりをすることで、自分の考えや思いを伝えようとする意欲を高める。また、言葉からイメージを広げたり、語彙を増やしたりすることと同時に、自分が経験したことや感じたことなどを見つめ直したり、深めたりしたことを言葉で表現することで、資質・能力の向上を図る。

(3) 単元でめざす児童の姿

- ・A児
 - 詩を書くために、進んで日々の生活の中で発見や感動を見つけようとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
 - 自分の思いや考えを言葉にして、詩を書いている。
(書くこと)
- ・B児
 - 連詩について関心を持ち、友達と作ろうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
 - 集めた言葉から、自分の気持ちに合う言葉を選び、友達と連詩を作っている。
(書くこと)
- ・C児
 - 連詩について関心を持ち、友達と作ろうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
 - 集めた言葉から、自分の気持ちに合う言葉を選び、友達と連詩を作っている。
(書くこと)

3 単元の評価規準

A児

	国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
単元の評価規準	○詩を作ることに興味をもち、詩を作るために題材を探そうとしている。	○そのときの様子や気持ちに合う言葉を選んだり、表現を工夫したりして詩を書いている。	○詩を書くために必要な語彙を増やし、適正に言葉が使えている。 ○効果的に例えるときの言葉を使っている。

B児

	国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
単元の評価規準	○連詩に興味をもち、連詩を作るための言葉を探そうとしている。	○集めた言葉の中から、言葉と言葉をつなげて連詩を作っている。	○連詩が題や前の連をもとにして作られること理解している。

C児

	国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
単元の評価規準	○連詩に興味をもち、題からイメージする言葉を探そうとしている。	○集めた言葉の中から、言葉と言葉をつなげて連詩を作っている。	○連詩が題や前の連をもとにして作られることを理解している。

4 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

出来事、経験や自分の思いを短い言葉でまとめて書き表す活動を通し、日常生活を見つめ直したり、自分のもっているものの見方や考え方を深めたりすることで思考力・表現力を育成する。また、自分の作品を振り返り、思ったことを発表することや、先生方と手紙のやり取りをする活動を通して、言葉を通じて積極的に自己表現する主体性・積極性も育成できると考える。

5 指導計画（全4時間）

A 児

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p>課題の設定</p> <p>「きんもくせいに負けた」「とんぼ」を読み、感想を発表する。 自分の発見や感動や言葉を考えて詩に書くことを伝え、学習の見通しを理解させる。(1)</p>	<p>発見や、感動が書かれていることに気づいている。比喻表現「～みたい」「～のよう」など表現に工夫があることをとらえようとしている。</p> <p>【関・意・態】(ノート, 行動観察)</p>	
<p>【本質的な問い】発見や感動が伝わるような詩を書くにはどうすればいいのだろう。</p> <p>【学習課題】感じたことをそのまま書いたり、見たものを何かにたとえて書いたりして、伝えたいことを詩に書こう。</p>			
二	<p>情報の収集</p> <p>自分の発見や感動から詩に書くことを選ぶ(1)</p> <p>整理・分析</p> <p>そのときの様子や気持ちを思い出す。(1)</p>	<p>自分の発見や感動をメモに書き出し、どんなことを伝えたいかを考えて題材を選ぼうとしている。</p> <p>【関・意・態】(ノート, 行動観察)</p> <p>見たこと、聞いたことなど五感で感じたことを書き出している。 感じたこと、思ったことを書き出す。 表現の工夫を考えて書いている。</p> <p>【書く】(ノート・行動観察)</p>	<p>自分が感じたり考えたりしたものから、必要な事柄や言葉を取捨選択したり、表現の工夫をしたりしている。</p> <p>【思考力・表現力】(ノート, 行動)</p>
三	<p>まとめ・創造・表現</p> <p>伝えたいことを詩に書く。(1) (本時4/4)</p> <p>ふりかえり</p> <p>単元の学習を振り返る。</p>	<p>メモをもとに、感じたことをそのまま書いたり、見たものを何かにたとえて書いたりして、伝えたいことを詩に書いている。</p> <p>【書く】(詩)</p> <p>振り返りの視点</p> <p>① 発見や感動が伝わるような詩を書くにはどうすればいいか分かったこと、思ったこと。</p> <p>② 自分が気に入った表現</p>	<p>自分が書いたメモをもとに自分の伝えたいことを詩にまとめている。</p> <p>【思考力・表現力】(ノート)</p> <p>言葉を通じて積極的に人と関わり自己表現している。</p> <p>【主体性・積極性】(ノート, 行動観察)</p>

B児

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p>課題の設定</p> <p>連詩とほかの詩との違いについて気づく。 分担し、協力して詩を作っていく学習の見通しをもたせる。(1)</p>	<p>一つの題から想像して、何人かで言葉をつないでできていることに気こうとしている。</p> <p>【関・意・態】(ノート, 行動観察)</p>	
<p>【本質的な問い】言葉から想像を広げて、友達と詩を書くにはどうすればいいのだろう。</p> <p>【学習課題】 想像を広げて、題や前の連にかかっている言葉とつながりのある言葉で詩を書こう。</p>			
二	<p>情報の収集</p> <p>連詩を読んでどんな工夫がされているか考える。(1)</p> <p>整理・分析</p> <p>連詩の題や構成を決め、言葉集めをする。(1)</p>	<p>各連のつながりや表現の工夫など、連詩の特徴をとらえようとしている。</p> <p>【関・意・態】(ノート, 行動観察)</p> <p>詩を書きやすいようにつながりのある言葉集めをしている。</p> <p>【書く】(ノート・行動観察)</p>	<p>連詩の特徴を捉え、題から連想される言葉をあつめている。</p> <p>【思考力・表現力】(ノート, 行動)</p>
三	<p>まとめ・創造・表現</p> <p>友達と協力して連詩を作る。(1) (本時4/4)</p> <p>ふりかえり</p> <p>単元の学習を振り返る。</p>	<p>メモをもとに、言葉から想像を広げて、工夫しながらを連詩を作っている。</p> <p>【書く】(詩)</p> <p>振り返りの視点</p> <p>① 連詩について分かったこと, 思ったこと。</p> <p>② 自分が気に入った表現</p>	<p>自分が書いたメモをもとに、題に即して言葉を選び、語と語をつなげている</p> <p>【思考力・表現力】(ノート)</p> <p>言葉を通じて積極的に人と関わり自己表現している。</p> <p>【主体性・積極性】(ノート, 行動観察)</p>

C児

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p>課題の設定</p> <p>連詩とほかの詩との違いについて気づく。 分担し、協力して詩を作っていく学習の見通しをもたせる。(1)</p>	<p>一つの題から想像して、何人かで言葉をつないでできていることに気こうとしている。</p> <p>【関・意・態】(ノート, 行動観察)</p>	
<p>【本質的な問い】言葉から想像を広げて、友達と詩を書くにはどうすればいいのだろう。</p> <p>【学習課題】 想像を広げて、題や前の連にかかわれている言葉とつながりのある言葉で詩を書こう。</p>			
二	<p>情報の収集</p> <p>連詩を読んでどんな工夫がされているか考える。(1)</p> <p>整理・分析</p> <p>連詩の題や構成を決め、言葉集めをする。(1)</p>	<p>各連のつながりや表現の工夫など、連詩の特徴をとらえようとしている。</p> <p>【関・意・態】(ノート, 行動観察)</p> <p>詩を書きやすいようにつながりのある言葉集めをしている。</p> <p>【書く】(ノート・行動観察)</p>	<p>連詩の特徴を捉え、題から連想される言葉をあつめている。</p> <p>【思考力・表現力】(ノート, 行動)</p>
三	<p>まとめ・創造・表現</p> <p>友達と協力して連詩を作る。(1)(本時4/4)</p> <p>ふりかえり</p> <p>単元の学習を振り返る。</p>	<p>メモをもとに、言葉から想像を広げて、工夫しながらを連詩を作っている。</p> <p>【書く】(詩)</p> <p>振り返りの視点</p> <p>① きょうの学習でしたこと</p> <p>② 自分が気に入った表現</p>	<p>自分が書いたメモをもとに、題に即して言葉を選び、語と語をつなげている</p> <p>【思考力・表現力】(ノート)</p> <p>言葉を通じて積極的に人と関わり自己表現している。</p> <p>【主体性・積極性】(ノート, 行動観察)</p>

6 本時の展開(4/4時間)

(1) 本時の目標

- A児 発見や感動が伝わるように、言葉を考えて詩を書くことができる。【書く】
- B児 自分の気持ちに合う言葉を選び、言葉をつなげて友達と詩を作ることができる。【書く】
- C児 自分の気持ちに合う言葉を選び、言葉をつなげて友達と詩を作ることができる。【書く】

(2) 観点別評価規準

- A児 自分の感じたものや見たものを表すために、言葉を工夫して表している。【書く】
- B児 集めた言葉の中から、言葉のつながりを考えて言葉を選び友達と詩を作っている。【書く】
- C児 集めた言葉の中から、自分のイメージに合う言葉を選び友達と詩を作っている。【書く】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する児童への支援（◆）	評価規準（評価方法） 教科の指導事項（○）
1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を設定し、方法を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習内容を想起させる。 A児 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">今日のめあて 発見や感動が伝わるように、言葉を考えて詩を書こう。</div> B・C児 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">今日のめあて 自分の気持ちに合う言葉を選び、言葉をつなげて友達と詩を作ろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の進め方の確認をする。 ・ 作った詩を発表することを伝える。 	
3 各自で学習を進める。 4 完成した詩を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分からないことは自分から質問させる。 ・ 詩を書くときのポイントを確認させる。 ◆ 質問しやすいように、質問コーナーを設ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どんな様子や思いを伝えたかったかを伝えてから発表する。 ・ 読み方を工夫する。 	A児 ○ 様子を適切に表す言葉を考えたり、自分の気持ちに気づき、表現を工夫したりして詩を書いている。 【書く】（プリント） B児 ○ 友達と協力して、集めた言葉の中から自分の気持ちにあう言葉を選び、連詩を作っている。 【書く】（プリント） C児 ○ 言葉からイメージを広げ、友達と協力して、集めた言葉の中から言葉を選び、連詩を作っている。 【書く】（プリント）
5 振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ノートやメモを見て、詩を書くときのポイントを確認させる。 A児 ① 自分の思いや考えを上手く伝えることができたか。 ② 一番好きな表現 B・C児 ① 友達と詩を作ったことについての感想 ② 一番好きな表現	

マイストーリーを作ろう！

『おはなしをつくろう』(1年) 『不思議な世界へ出かけよう』(5年)

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 児童観

本学級は、1年女子1名(A児)、5年男子1名(B児)の計2名の自閉症・情緒障害特別支援学級である。

学力に関する実態

- ・ A児は、学年相応の学力を有している。行動はゆっくりだが、指示をしっかりと聞き、活動に取り組むことができる。すらすら音読したり、板書を正しく書き写したりできる。しかし集中が切れると音読や文字の書き取りなど雑になることがある。初めてやることに対して消極的になることがある。
- ・ B児は、語彙が少なく単語、2語文で話すことが多い。漢字の書き取りが苦手。1学期は学習内容と並行して3年生の漢字の復習を行った。初めて読む文章はつかえながら読むが、何度も練習することで読むことはできる。1学期は詩や俳句を6つ覚え、暗唱することができた。

資質・能力に関する実態

本学級の児童は、初めてのことや大勢の前で活動する際に緊張しやすい傾向にある。A児は叙述を正確に捉えることができるが、叙述から想像を広げたり、自分の思いを自由に話したりすることに課題がある。B児は自分の気持ちや状況を分かりやすく説明することが困難である。「いい」「悪い」「すごい」「楽しい」など思いや考えを表すことができるが、根拠を示したり、詳しく説明したりすることに課題がある。また言語指示が長くなると理解できなくなり、教師が傍で支援する必要がある。

2 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の「B書くこと」、第5学年及び第6学年の「B書くこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

B(1)イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

B(1)イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。

(1) 単元観

○A児

本単元では、登場人物の設定と行動を考えて簡単な物語を書くことを目標として、物語を書く活動を行う。誰がどんなことをするのか、想像したことが分かるように、事柄の順序に沿って構成を考える力を身に付けさせる。本単元の前に「むかしばなしをたのしもう」の学習をし、物語に親しみ、活動ができるようにするとともに、メモをとる方法を身に付けさせ、他の学習に生かせる単元配列になっている。

○B児

本単元では、文章全体の構成を考え様子や気持ちが伝わるように物語を書くことを目標として、物語を書く活動を行う。絵から想像を広げ、登場人物や出来事を考えさせることで、文章全体の構成を意識して書かせ、想像したことを明確に表現する力をつけていく。

(2) 指導観

たんぽぽ学級の友達に読み聞かせをするという目標を設定することで、児童が意欲的に物語作りに取り組めるようにする。物語の内容を考えさせる場面では、登場人物の設定や心情、場面の様子をメモに書かせ、考えさせるようにする。児童が書いたメモを操作させることで物語が作れるようにし、話の構成を視覚的に捉えて考えられるようにする。

また、書いた物語をお互いに読み合い、アドバイスをさせることで児童がより良い表現に気付いて行けるようにする。並行して、教科書の物語文を読ませたり、学級文庫等で児童が様々な物語にふれることができる環境を設定したりすることで、児童の語彙力や表現力を高める。語彙や表現方法を習得する時間を意図的に設定し、物語作りに生かしていく。

A児は主に昔話を多読させ、物語の出来事の順序を確認させたり、登場人物の特徴をまとめさせたりすることで、自分の物語作りに活用させる。B児は既習の「注文の多い料理店」、「白い帽子」などの作品を読ませ、現実世界と不思議な世界との関連や場面の移り変わりに気付かせることで、表現の仕方を工夫させていく。

(3) 単元でめざす児童像

○A児

- ・読書に親しみ、楽しみながら物語を創作する (国語への関心・意欲・態度)
- ・想像したことを明確に表せるように、順序に沿った文章構成を考えている。 (書くこと)

○B児

- ・読書に親しみ、進んで物語を創作する。 (国語への関心・意欲・態度)
- ・構成を生かして、想像した登場人物の気持ちや場面の様子を明確に表現する。 (書くこと)

3 単元の評価規準

○A児

	国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
評価規準	物語作りに興味をもち、楽しみながら想像豊かに書こうとしている。 友達の作品を読み合い、作品の良さを伝え合っている。	想像したことをもとに、登場人物の特徴や出来事を決め、事柄の順序に沿って話の筋を考えている。	主語と述語の関係に気を付けて、誰が何をするのかが分かるように書いている。

○B児

	国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
評価規準	想像したことをもとに、進んで物語を書こうとしている。 友だちの作品を読み合い、作品の良さを伝え合っている。	自分の想像したことや経験したことを思い返し、書くことを決め、お話のメモを書いている。 話の構成を理解し、場面のできごとを関連させて物語を書いている。 既習の物語から優れた叙述を振り返り、表現を工夫して物語を書いている。	文章にはいろいろな構成があることを理解し、物語を書いている。

4 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

○A児・・・本単元において、物語の登場人物やあらすじなどの設定を考える活動を通して、創造的に思考し表現する力や、感情や想像を言葉で表現したりする力を育成することができると考えられる。

○B児・・・本単元において、「現実の世界」「不思議の世界」「現実の世界」といった構成を意識して物語を書かせ、意図的にそれぞれの場面のつながりや関わりを考えさせることで、自分の表現に生かす力が育成できると考える。

5 指導計画 (全9時間)

○A児

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p>課題の設定</p> <p>オリジナル物語の朗読会を行うという学習課題を確かめる。(1)</p> <p>【本質的な問い】想像を広げながらお話を書くにはどうすればいいのだろう。</p> <p>【学習課題】オリジナルの物語を書き、朗読会を行おう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に興味をもち、これからの学習の進め方を考え、意欲的に取り組もうとしている。 【関・意・態】(行動観察) 	<p>話の内容を創造的に思考している。 【思考力・表現力】(行動観察)</p> <p>想像したことを言葉で表現し、文章の構成を考えている。 【思考力・表現力】(ワークシート)</p>
二	<p>情報の収集 整理・分析</p> <p>メモ例や文例をもとに、物語の作り方を理解し、人物の行動や様子をメモに書く。 中心となる人物や、話の展開について想像を広げ、物語の構成を考える。(3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 想像したことを手掛かりにして、物語の人物や出来事を決めている。 【書く】(行動観察・発言) お話のメモをもとに、事柄の順序に沿って物語の筋を考えている。 【書く】(行動観察・メモ) 	
三	<p>まとめ・創造・表現</p> <p>メモをもとに中心人物の行動や、様子を時間的な順序に沿ってまとめ、文章を書く。(4) (本時8/9)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人物や出来事について想像を膨らませ、物語を書いている。【書く】(物語) 主語と述語の関係に気を付けて正しく文章を書いている。【言語】(物語) 	
四	<p>ふりかえり</p> <p>完成した物語を読み合い、友達と感想を伝え合う。(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書いた物語を読み合い、お互いの物語のよい所を伝え合っている。 【関・意・態】(行動観察) 	

○B児

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p>課題の設定</p> <p>オリジナル物語の朗読会を行うという学習課題をつかませる。(1)</p> <p>【本質的な問い】場面のつながりを生かして書くにはどうすればいいのだろう。</p> <p>【学習課題】オリジナルの物語を書き、朗読会を行おう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を知り、想像したことをもとに進んで物語を書こうとしている。 【関・意・態】(行動観察) 	<p>文章の構成を意識して、物語を書いている。 【思考力・表現力】(ワークシート)</p> <p>場面のつながりやしなげを意識して書き、自分の表現に生かしている。 【思考力・表現力】(行動観察)</p>
二	<p>情報の収集 整理・分析</p> <p>物語の「時」「場所」「人物」や出来事、あらすじを考え、筋道の通った構成でメモに整理する。(3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の想像したことや経験したものと合わせて書くことを決めて、メモを書いている。 【書く】(ワークシート) 	
三	<p>まとめ・創造・表現</p> <p>メモをもとに文章を書く。 物語の筋道が通っているか、場面の様子や登場人物の気持ちが伝わる表現になっているか、文章を推敲する。(4) (本時8/9)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既習の表現を生かし、話の構成を理解し、場面のできごとを関連させて物語を書いている。 【書く】(行動観察) 物語の構成の工夫による効果を理解し、筋道の通った物語を書いている。 【言】(物語・行動観察) 	
四	<p>ふりかえり</p> <p>完成した物語を読み合い、友達と感想を伝え合う。(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書いた物語を読み合い、お互いの物語のよい所を伝え合っている。 【関・意・態】(行動観察) 	

6 本時の展開 (8/9)

(1) 本時の目標

- A児 正しい順序で、物語を書くことができる。
 B児 場面の構成に気を付けて、物語を書くことができる。

(2) 観点別評価規準

- A児 想像をふくらませ、事柄の順序に沿って話を書いている。【書くこと】
 B児 話の構成を理解し、場面のできごとを関連させて物語を書いている。【書くこと】

(3) 学習の展開

学習内容	指導上の留意点 (・) と支援 (◆)		評価規準 (評価方法) 教科の指導事項 (○)
	A児	B児	
1 前時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の物語を音読させ、本時の活動への意欲を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の物語を音読させ、本時の活動への意欲を向上させる。 	
2 本時の流れと課題の確認をする。	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">文章メモを使って、物語の続きを書こう。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 物語のできごとを詳しく考えて、お話の続きを書こう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 人物の特徴を想像させたり、場の様子を詳しく説明させたりし、児童が出来事をつなげて物語を書けるようにする。 	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 不思議な世界での出来事を整理し、現実の世界と関連させた文章を書こう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ◆ メモを整理させることで、夢の世界での話と現実の世界での話がつながるように物語を書けるようにする。 ・ 不思議な世界に行った痕跡が残るように文章を書かせる。 ◆ 既習の表現を振り返らせ、表現に生かせるようにする。 	
3 物語を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 早く書けた児童から音読させ、文章表現が合っているか確かめたり、直させたりする。 		
4 書いた物語を読み、意見を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ お話の良い点はどこか考えながら聞かせ、児童同士でアドバイスができるようにする。 ・ 意見交流が難しい場合は、繰り返し物語を読ませ、推敲させたり、発表会のための音読練習をさせたりする。 		
5 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標が達成できたか分かるようにそれぞれのワークシートで自己評価させる。 		

A児

- 正しい順序で物語を書いたり、想像をふくらませながら物語を書いたりしている。
 【書く】(行動観察)

B児

- 話の構成を理解し、場面の出来事がつながるように物語を書いている。
 【書く】(行動観察)

平成28年度 御指導いただいた先生方

比治山大学		教授	林 武広 先生
福岡教育大学	国語教育講座	教授	河野 智文 先生
福岡教育大学	数学教育講座	准教授	岩田 耕司 先生
広島県東部教育事務所		指導主事	升谷 英子 先生
広島県東部教育事務所		指導主事	神鳥 裕史 先生
広島県東部教育事務所		指導主事	西谷由季子 先生
尾道市教育委員会		指導主事	山口 晴子 先生
広島県立尾道特別支援学校		教育相談主任	佐藤 喜昭 先生

平成28年度研究同人

佐々木 智彦	加登谷 州章	榎田 有香	島本 佳代子
上田 千紘	舛上 敏成	才谷 瑛一	谷川 友弥
川嶋 佳那美	川本 美紀子	亀本 拓朗	森口 結香
隆杉 佳代	石倉 さゆり	渡邊 翠大	保森 智彦
田中 美雪	前田 真由美	福田谷 知加子	中谷 稔
藤本 陽子	石田 博子	貝川 充洋	柏原 ひとみ
Philip Kempthorne	Marie Wyatt		

日本遺産 「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」

尾道三山と対岸の島に囲まれた尾道は、町の中心を通る「海の川」とも言うべき尾道水道の恵みによって、中世の開港以来、瀬戸内随一の良港として繁栄し、人・もの・財が集積した。

その結果、尾道三山と尾道水道の間の限られた生活空間に多くの寺社や庭園、住宅が造られ、それらを結ぶ入り組んだ路地・坂道とともに中世から近代の趣を今に残す箱庭的都市が生み出された。

迷路に迷い込んだかのような路地や、坂道を抜けた先に突如として広がる風景は、限られた空間ながら実に様々な顔を見せ、今も昔も多くの人を惹きつけてやまない。

文化庁ホームページより

